G-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ メルセデス･ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

さくいん……………………………… 4
はじめに……………………………… 13
各部の名称…………………………… 21
安全装備……………………………… 31
車両の操作…………………………… 59
日常の取り扱い……………………… 181
万一のとき…………………………… 233
サービスデータ……………………… 281

ア

雨降りや濃霧時の運転 ···· **214**
安全のために ···· **13**
4 輪駆動車（4WD）の取り扱い ···· 18
オートマチック車の取り扱い ···· 16
警告ラベル ···· 13
子供を乗せるとき ···· 15
こんなことにも注意 ···· 19
診断ソケット ···· 13
走行する前に ···· 14
保証の適用 ···· 13
メルセデス・ベンツ指定サービス工場 ···· 14
アンビエントライトの照度調整 ···· **116**
イージーエントリー ···· **76**
イモビライザー ···· **56**
インジケーター付きバッテリー ···· **270**
インストルメントパネル ···· **22**
ウィンタータイヤ ···· **201**
ウォッシャー液 ···· **198、288**
ウォッシャー液を補給する ···· 198
運転席ドアの解錠 ···· **252**
運転のヒント ···· **112**
アクセルペダルの位置 ···· 112
キックダウン ···· 112
停車する ···· 112
エアコンディショナー ···· **155**
AC モード ···· 157
AUTO モード ···· 158
エアコンディショナーの取り扱い ···· 155
コントロールパネル ···· 156
送風温度の調整 ···· 158
送風口の選択 ···· 158
送風口の調整 ···· 162
送風量の調整 ···· 159
通常の使いかた ···· 156
デフロスターモード ···· 159
内気循環モード ···· 160
余熱ヒーター・ベンチレーション ···· 161
リアデフォッガー ···· 160
エアコンディショナーの取り扱い ···· **155**
エアバッグ ···· **36**
ウインドウバッグ ···· 38
運転席 / 助手席エアバッグ ···· 37
エアバッグの作動条件 ···· 39
エアバッグの種類と収納場所 ···· 37
エマージェンシーキー ···· **252**
キーからエマージェンシーキーを取り外す ···· 252
エンジンオイル ···· **190、286**
エンジンオイル交換の時期 ···· 193
エンジンオイルの量を点検する（G 550 long） ···· 190
エンジンオイルの量を点検する（G 55 AMG long） ···· 191
エンジンオイル容量 ···· 286
エンジンオイル量に関する注意 ···· 190
エンジンオイルを補給する ···· 193
使用するエンジンオイル ···· 286
添加剤 ···· 286
エンジンスイッチ ···· **67**
タッチスタート ···· 68
エンジンの始動 ···· **103**
エンジンを始動する ···· 104
シフト位置 ···· 103
エンジンの停止 ···· **107**
エンジン番号 ···· **284**
エンジンルーム ···· **187、189**
ウォッシャー液 ···· 198
エンジンオイル ···· 190
エンジンルーム内の手入れ ···· 189
オートマチックトランスミッションオイル ···· 194
ブレーキ液 ···· 196
ボンネット ···· 187
冷却水 ···· 194
エンジンを停止しての走行 ···· **207**
オイル・液類 / バッテリー ···· **284**
ウォッシャー液 ···· 288
エンジンオイル ···· 286
オイル・液類に関する注意 ···· 284
オートマチックトランスミッションオイル ···· 286
燃料 ···· 285
バッテリー ···· 288

ブレーキ液 287
冷却水 287
オイル・液類に関する注意 284
オートマチック車の取り扱い 16
オートマチックトランスミッション 110
運転のヒント 112
オートマチックトランスミッションのトラブル 115
シフト位置 111
シフト位置の選択 111
セレクターレバー 110
ティップシフト 112
オートマチックトランスミッションオイル 194、286
オプションコードプレート 284
オフロード走行 214
オフロードでの走行 215
河川などを渡るとき 210
坂道の走行 219
障害物を乗り越えるとき 218
砂地を走行するとき 217
ヘッドライトガード 220
わだちを走行するとき 217
オフロード走行装備
クロスカントリーギア 138
ディファレンシャルロック 140
オフロードでの走行 215
オフロード走行時の注意 215
オフロードを走行した後に 217
オフロードを走行する前に 216

カ

外気温度表示 117
河川などを渡るとき 210
カップホルダー 175
可変スピードリミッター 147
可変スピードリミッターを解除する 150
可変スピードリミッターを設定する 148
設定速度を変更する 150
環境保護について 13
寒冷時の取り扱い 205
寒冷時の注意 205
キー 60
キーのトラブル 63
リモコン機能 61
リモコン機能の切り替え 62
ロケイターライティング 62
キーの電池交換 256
キーの電池を点検する 256
電池の交換手順 256
キーの電池を点検する 256
救急セット 235
クルーズコントロール 144
クルーズコントロールを解除する 147
クルーズコントロールを設定する 145
設定速度を変更する 146
車を運搬する 275
グローブボックス 167
クロスカントリーギア 138
クロスカントリーギアの操作 138
トランスファーをニュートラルにする 139
警告ラベル 13
けん引 273
車を運搬する 275
けん引時の注意 273
けん引する 274
けん引フックの取り付け位置 274
故障した車両のけん引 276
前後輪を接地させてけん引する 274
ぬかるみからけん引するとき 276
けん引時の注意 273
けん引フックの取り付け位置 274
フロント 274
リア 274
けん引防止警報機能 57
コーナリングライト 92
故障 / 警告メッセージ 239
安全装備 241
エンジン 243
キー 247
車両 246
走行装備 246
ライト 243

故障した車両のけん引 ···· **276**
子供を乗せるとき ···· **15、41**
ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置 ···· 45
チャイルドセーフティシート ···· 41
チャイルドセーフティシート検知システム ···· 43
チャイルドセーフティシート検知システムのトラブル ···· 48
チャイルドセーフティシート固定機構 ···· 45
テザーアンカー ···· 46
小物入れ ···· **167**
グローブボックス ···· 167
シートバックポケット ···· 169
フロントアームレスト / センターコンソールの小物入れ ···· 168
フロントシート下部の小物入れ ···· 168
こんなことにも注意 ···· **19**
コンビニエンスオープニング機能 ···· **101**
コンビニエンスクロージング機能 ···· **102**
コンビネーションスイッチ ···· **90**
パッシング ···· 91
ヘッドライトの下向き / 上向きの切り替え ···· 91
方向指示 ···· 90

サ

サイドアンダーミラー ···· **78**
坂道の走行 ···· **219**
アプローチ / デパーチャアングル ···· 219
急勾配の坂道 ···· 219
坂を下るとき ···· 220
坂を上り切ったとき ···· 220
サンバイザー / バニティミラー ···· **176**
サンバイザーを使用する ···· 176
バニティミラーを使用する ···· 176
シート ···· **68**
シートヒーター ···· 73
電動ランバーサポート ···· 72
フロントシートの調整 ···· 70
ヘッドレストの調整 ···· 70
シート位置の記憶 ···· **80**
シート位置の呼び出し ···· **81**
シートヒーター ···· **73**
シートヒーターのトラブル ···· 74
フロントシートヒーター ···· 73
リアシートヒーター ···· 74
シートベルト ···· **81**
シートベルト着用警告 ···· 85
シートベルトの着用 ···· 81
正しい運転姿勢 ···· 86
フロントシートベルト / 左右リアシートベルトの高さの調整 ···· 86
シートベルト着用警告 ···· **85**
シートベルトの着用 ···· **81**
左右リアシート ···· 83
中央リアシート ···· 83
フロントシート ···· 83
事故・故障のとき ···· **234**
時刻表示 ···· **117**
室内センサー ···· **58**
室内装備 ···· **175**
12V 電源ソケット ···· 178
カップホルダー ···· 175
サンバイザー / バニティミラー ···· 176
灰皿 ···· 176
バニティミラー ···· 176
フロアマット ···· 179
ライター ···· 178
自動防眩機能 ···· **78**
シフト位置 ···· **111**
シフト位置の選択 ···· **111**
シフト位置表示 ···· 110
車外ライト消灯遅延機能 ···· **90**
車載工具 ···· **236**
車載品の収納場所 ···· **234**
救急セット ···· 235
事故・故障のとき ···· 234
車載工具 ···· 236
ジャッキ ···· 236
スペアタイヤ ···· 237
停止表示板 ···· 235
非常信号用具 ···· 235
車速感応ドアロック ···· **66**

車台番号 283
ジャッキ 236
車内からの解錠 / 施錠 65
ドアごとの解錠 / 施錠 65
ドアロックスイッチ 65
車両に保存されるデータ 20
故障データ 20
データが保存されるその他の装備 20
車両の施錠 252
車両の電子制御部品について 282
12V 電源ソケット 178
収納ネット 169
助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能 79
純正部品 / 純正アクセサリー 282
乗員安全装備 32
NECK PRO アクティブヘッドレスト 40
SRS（乗員保護補助装置） 33
エアバッグ 36
子供を乗せるとき 41
乗員保護装置 32
チャイルドプルーフロック 49
乗員保護装置 32
障害物を乗り越えるとき 218
診断ソケット 13
ステアリング 75
イージーエントリー 76
ステアリング位置の調整 75
ステアリング位置の調整 75
砂地を走行するとき 217
スノーチェーン 201
スペアタイヤ 237、291
スペアタイヤカバーの取り外し 237
スペアタイヤの収納 238
スペアタイヤの取り外し 237
滑りやすい路面での発進 207
スライディングルーフ 164
スライディングルーフの開閉 165
スライディングルーフの手動操作 254
セーフティネット 172
セーフティネットを収納する 174
セーフティネットを取り外す 174
リアシートを起こした状態で使用する 172
リアシートを折りたたんだ状態で使用する 173
積載荷物の制限重量 288
セレクターレバー 110
シフト位置表示 110
前後輪を接地させてけん引する 274
前席上方の操作部 28
センターコンソール 26
下部センターコンソール 27
上部センターコンソール 26
走行安全装備 50
ABS 50
BAS 52
EBD 55
ESP® 52
安全上の重要事項 50
走行時の注意 207
雨降りや濃霧時の運転 214
エンジンを停止しての走行 207
滑りやすい路面での発進 207
走行するとき 212
走行中に異常を感じたら 212
タイヤのグリップについて 210
駐停車するとき 213
濡れた路面での走行 210
ブレーキ 207
雪道や凍結路面の走行 211
走行するとき 212
走行する前に 14
走行装備 144
可変スピードリミッター 147
クルーズコントロール 144
パークトロニック 151
走行中に異常を感じたら 212
走行と停車 103
エンジンの始動 103
エンジンの停止 107
エンジンのトラブル 108
駐車 105

長期間駐車するとき………………107
発進…………………………………104

タ

タイヤ空気圧ラベル…………………202

タイヤとホイール……………199、289
安全に関する注意………………199
ウィンタータイヤ………………201
スノーチェーン…………………201
スペアタイヤ……………………291
走行時の注意……………………199
タイヤ空気圧ラベル……………202
タイヤトレッド…………………200
タイヤの回転方向について………205
タイヤの清掃……………………205
タイヤの選択、装着と交換………200
タイヤの点検……………………199
タイヤの保管……………………205
タイヤローテーション……………204
標準タイヤ………………………290

タイヤローテーション………………204

タコメーター……………………… 117

正しい運転姿勢…………………… 86

チャイルドセーフティシート……… 41

チャイルドプルーフロック………… 49

駐車………………………………105
パーキングブレーキ………………106

駐停車するとき……………………213

長期間駐車するとき………………107

停止表示板…………………………235

ティップシフト……………………112
最適なギアレンジを選択する……114
高いギアレンジを選択する………114
ティップシフトにする……………114
ティップシフトを解除する………114
低いギアレンジを選択する………114

ディファレンシャルロック…………140
ディファレンシャルロックの使いかた 143
ディファレンシャルロックをオンにする
……………………………………141
ディファレンシャルロックを解除する 142

テールゲート………………………66
テールゲートを閉じる……………67
テールゲートを開く………………66

テールゲートを閉じる………………67

テールゲートを開く…………………66

電球の交換…………………………257
電球に関する注意…………………257
電球の位置と種類…………………259

電池の交換手順……………………256

電動ランバーサポート………………72

ドア…………………………………64
車外からのドアの開閉……………64
車速感応ドアロック………………66
車内からの解錠 / 施錠 ……………65
車内からのドアの開閉……………64

ドアウインドウが自動で開かないとき‥102

ドアウインドウの開閉……………101

ドアの操作部………………………29

ドアミラー…………………………77
ドアミラーが無理に外側に曲げられたとき
……………………………………78
ドアミラーの角度調整……………77
ドアミラーの格納 / 展開 …………78

盗難防止システム……………………56
イモビライザー……………………56
けん引防止警報機能………………57
室内センサー………………………58
盗難防止警報システム……………56

トリップメーターのリセット……… 117

ナ

慣らし運転…………………………182

日常の手入れ………………………224
外装………………………………225
車内………………………………230

荷物の積み方 / 小物入れ ……………166
小物入れ…………………………167
収納ネット………………………169
セーフティネット…………………172
荷物を固定するとき………………171
荷物を積むときの注意点…………166

分割可倒式リアシート・・・・・・・・・・・・・・・ 169
ルーフラック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 175

荷物を固定するとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
安全上の注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
荷物固定用リング・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 172

ニューカープレート・・・・・・・・・・・・・・・・・・283

ぬかるみからけん引するとき・・・・・・・・・・・276

濡れた路面での走行・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
河川などを渡るとき・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
道路が冠水しているときや
車が水没したとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
ハイドロプレーニング現象・・・・・・・・・・・ 210

燃料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・285
燃料消費について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 285
燃料タンク容量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 285

燃料給油フラップの手動解錠・・・・・・・・・・・253

燃料の給油・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
燃料と燃料タンクのトラブル・・・・・・・・ 186
燃料を給油する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183

燃料を給油する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
燃料給油口を閉じる・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
燃料給油口を開いて給油する・・・・・・・・ 183

ハ

パーキングブレーキ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106

パーキングロックの解除・・・・・・・・・・・・・・・254

パークトロニック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 151
インジケーター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153
センサーの感知範囲・・・・・・・・・・・・・・・・ 152
パークトロニックセンサー・・・・・・・・・・・ 151
パークトロニックの作動・・・・・・・・・・・・ 153
パークトロニックのトラブル・・・・・・・・ 154

灰皿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 176
フロントの灰皿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
リアの灰皿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177

発進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
ヒルスタートアシスト・・・・・・・・・・・・・・・ 105

バッテリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・267、288
VRLA バッテリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 269
インジケーター付きバッテリー・・・・・・ 270
車載バッテリーの電圧 / 容量 ・・・・・・・ 288
バッテリー取り扱いの一般的な注意・・ 267
バッテリーの位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 269

バッテリーがあがったとき・・・・・・・・・・・・・270

バッテリー取り扱いの一般的な注意・・・・ 267

バッテリーの位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・269

バニティミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 176

パワーウインドウ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
コンビニエンスオープニング機能・・・・ 101
コンビニエンスクロージング機能・・・・ 102
ドアウインドウの開閉・・・・・・・・・・・・・・ 101
ドアウインドウのトラブル・・・・・・・・・・ 102

パンクしたタイヤを交換する・・・・・・・・・・・263
ジャッキアップする・・・・・・・・・・・・・・・・ 263
ジャッキダウンする・・・・・・・・・・・・・・・・ 266
スペアタイヤを取り付ける・・・・・・・・・・ 266
タイヤ交換の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 263
タイヤの取り外し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 265
輪止めをする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 263

パンクしたとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・262
タイヤ交換の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 262
パンクしたタイヤを交換する・・・・・・・・ 263

ビークルプレート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・283
エンジン番号・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 284
オプションコードプレート・・・・・・・・・・ 284
車台番号・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 283
ニューカープレート・・・・・・・・・・・・・・・・ 283

非常時の施錠 / 解錠 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・252
運転席ドアの解錠・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 252
エマージェンシーキー・・・・・・・・・・・・・・ 252
車両の施錠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 252
スライディングルーフの手動操作・・・・ 254
燃料給油フラップの手動解錠・・・・・・・・ 253
パーキングロックの解除・・・・・・・・・・・・ 254

非常信号用具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・235

非常点滅灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91

ヒューズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・277
ヒューズ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 279
ヒューズ交換についての注意・・・・・・・・ 277
ヒューズボックスの位置・・・・・・・・・・・・ 277
ヒューズを交換する・・・・・・・・・・・・・・・・ 277

ヒューズ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・279

ヒューズ交換についての注意・・・・・・・・・・・277

ヒューズボックスの位置 ･･････････････ **277**
ヒューズを交換する ･･････････････････ **277**
標準タイヤ ････････････････････････ **290**
ブレーキ ･････････････････････････ **207**
AMG 強化ブレーキシステムの注意事項 ･････････････････････････････ 209
下り坂を走行するとき ･･････････････ 208
凍結防止剤について ･･･････････････ 208
ブレーキ警告灯 ･･････････････････ 209
ブレーキシステムに強い負荷がかかったとき ････････････ 208
ブレーキパッドについて ････････････ 209
路面が濡れているとき ･･････････････ 208
ブレーキ液 ････････････････････････ **287**
ブレーキ液 ････････････････････････ **196**
ブレーキ液の交換 ･････････････････ 197
ブレーキ液の量を点検する ･･････････ 197
フロアマット ･･･････････････････････ **179**
フロントシートの調整 ････････････････ **70**
シートクッションの角度の調整 ･･･････ 70
シートの前後位置の調整 ････････････ 70
シートの高さの調整 ･･･････････････ 70
バックレストの角度の調整 ･･････････ 70
ヘッドレストの高さの調整 ･･････････ 70
フロントシートベルト / 左右リアシートベルトの高さ調整 ･･･････ **86**
フロントワイパー ････････････････････ **97**
ウインドウウォッシャーを噴射させる ･ 98
フロントワイパーを作動させる ･･･････ 97
レインセンサー ･･･････････････････ 98
ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能） ････････････････････ 97
分割可倒式リアシート ････････････････ **169**
バックレストを倒す ････････････････ 170
バックレストを元の位置に戻す ･･････ 170
リアシートを折りたたむ ････････････ 170
リアシートを元の位置に戻す ････････ 171
ヘッドライトウォッシャー ･････････････ **92**
ヘッドライトガード ･･････････････････ **220**
ヘッドレストの調整
フロントヘッドレストの調整 ････････ 71
フロントヘッドレストのリセット ･････ 71
リアヘッドレストの脱着 ････････････ 72
リアヘッドレストの調整 ････････････ 71
ボンネット ････････････････････････ **187**
ボンネットを閉じる ････････････････ 188
ボンネットを開く ･･････････････････ 187

マ

マルチファンクションステアリング ･････ **25**
マルチファンクションディスプレイ ････ **118**
オーディオ ･･･････････････････････ 123
DVD ビデオのチャプターを選択する ････････････････････････････ 124
テレビ局を選局する ･･････････････ 124
トラックを選択する ･･････････････ 123
ラジオ局を選局する ･･････････････ 123
故障表示 ････････････････････････ 125
故障表示のリセット ･･････････････ 126
車両情報 ････････････････････････ 121
基本画面 ･･･････････････････････ 121
走行情報表示 ････････････････････ 121
走行速度 / 外気温度表示画面 ････ 122
設定 ････････････････････････････ 126
コンフォート ･･･････････････････ 133
シャリョウ ･･････････････････････ 132
設定グループの選択 ･･････････････ 127
設定項目の初期化 ････････････････ 127
設定メニュー ････････････････････ 126
メーター ････････････････････････ 128
ライト ･･････････････････････････ 130
電話 ････････････････････････････ 136
着信した電話を受ける ････････････ 136
通話を終える（電話を切る） ･･････ 136
通話を保留する ･･････････････････ 136
電話帳から電話を発信する ････････ 137
電話メニューを表示させる ････････ 136
発信履歴から電話を発信する ･･････ 137
トリップコンピューター ････････････ 134
エンジン始動時からの情報表示 ････ 134
走行可能距離 ････････････････････ 135
リセット時からの情報表示 ････････ 134
ナビ ････････････････････････････ 125
マルチファンクションディスプレイの操作 ････････････････････････････ 119
メインメニューの一覧 ･･････････････ 120

マルチファンクションディスプレイの操作 ······ **119**
ミラー ······ **77**
サイドアンダーミラー ······ 78
自動防眩機能 ······ 78
助手席側ドアミラーの
パーキングヘルプ機能 ······ 79
ドアミラー ······ 77
ルームミラー ······ 77
メーター照度調節ボタン ······ **116**
メーターパネル ······ **23、116**
アンビエントライトの照度調整 ······ 116
外気温度表示 ······ 117
時刻表示 ······ 117
タコメーター ······ 117
トリップメーターのリセット ······ 117
表示灯 / 警告灯 ······ 24
マルチファンクションディスプレイ ······ 116
メーターパネル照度調節ボタン ······ 116
リセットボタン ······ 116
冷却水温度計 ······ 117
メーターパネルの表示灯 / 警告灯 ······ **248**
安全装備 ······ 248
エンジン ······ 251
シートベルト ······ 248
メモリー機能 ······ **80**
シート位置の記憶 ······ 80
シート位置の呼び出し ······ 81
メルセデス・ベンツ指定サービス工場 ······ **14**
メンテナンス ······ **222**
整備手帳 ······ 222
日常点検 ······ 222
メンテナンスインジケーター ······ 222
メンテナンスインジケーター ······ **222**
自動表示機能 ······ 223
手動表示 ······ 223
表示メッセージ ······ 223
メンテナンスインジケーターのリセット ······ 224

ヤ

雪道や凍結路面の走行 ······ **211**

ラ

ライター ······ **178**
ライト ······ **87**
コーナリングライト ······ 92
コンビネーションスイッチ ······ 90
車外ライト消灯遅延機能 ······ 90
非常点滅灯 ······ 91
ヘッドライトウォッシャー ······ 92
ヘッドライトと方向指示灯の内側が
曇るとき ······ 93
ライトスイッチ ······ 87
ルームランプ ······ 93
ライトスイッチ ······ **87**
車幅灯 ······ 88
パーキングライト ······ 89
フォグランプ ······ 89
ヘッドライト ······ 88
リアワイパー ······ **99**
リアウインドウウォッシャーを噴射させる ······ 99
リアワイパーを作動させる ······ 99
リアワイパーを停止する ······ 99
リセットボタン ······ **116**
リモコン機能 ······ **61**
リモコン機能の切り替え ······ 62
ロケイターライティング ······ 62
ルーフラック ······ **175**
ルームミラー ······ **77**
ルームランプ ······ **93**
アンビエントライト ······ 96
乗降用ライト ······ 95
ステップカバーライト ······ 96
ドアミラー下部のライト ······ 96
フロント読書灯 ······ 94
ラゲッジルームランプ ······ 95
リア読書灯 ······ 94
リアルームランプ ······ 94
ルームランプの点灯 / 消灯 ······ 93
冷却水 ······ **194、287**
オーバーヒートしたとき ······ 196
不凍液の濃度 ······ 287
冷却水の交換時期 ······ 195

冷却水の量を点検する･････････････194
冷却水を補給する･･････････････････195
冷却水温度計･････････････････････117

ワ

ワイパー･･････････････････････････96
フロントワイパー･････････････････97
リアワイパー･････････････････････99
ワイパーのトラブル････････････････99
ワイパーブレードの交換･･････････････260
ワイパーブレードの取り付け････････261
ワイパーブレードの取り外し････････261
わだちを走行するとき･･･････････････217

A

ABS ･････････････････････････････50
ABS 警告灯 ･･････････････････････51
ブレーキ操作をする････････････････51

B

BAS ･････････････････････････････52

E

EBD ･････････････････････････････55
ESP® ････････････････････････････52
4ETS ････････････････････････････54
ESP® の機能の設定 / 解除 ･･････････54

N

NECK PRO アクティブヘッドレスト ･･･40
NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット････････････････････････････255

S

SRS（乗員保護補助装置） ･････････････33
SRS 警告灯 ･･････････････････････33
エアバッグ･･･････････････････････36
シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動 ････34

V

VRLA バッテリー･････････････････････269

数字

12V 電源ソケット ･･････････････････178
助手席足元の 12V 電源ソケット ･････179
センターコンソール後端部の12V 電源ソケット ･････････････････179
ラゲッジルーム左側の 12V 電源ソケット ･････････････････････････････179
4 輪駆動車（4WD）の取り扱い･････････18

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

診断ソケット

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされるおそれがあります。これにより、次回の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

⚠ 警 告

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、車両の安全性が損なわれます。また、事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。上記の内容は、特に安全に関わる作業について該当します。

詳しくは整備手帳をご覧ください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

点検整備は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をご覧ください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷41 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをできるだけ後ろの位置にしてください。

- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをできるだけ後ろの位置にして、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させせない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロック（▷49ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてご覧ください（▷103ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

  また、上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト（▷105 ページ）が作動します。

走行中

- クロスカントリーギアの操作時以外はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

4 輪駆動車（4WD）の取り扱い

4 輪駆動走行は、滑りやすい路面などで本来の優れた走行性能を発揮しますが、どこでも走れる万能車ではありません。路面の状況や斜面に注意して安全運転を心がけてください。

「オフロード走行」（▷214 ページ）もあわせてご覧ください。

オフロード走行は慎重に

急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。横滑りや横転などの原因になります。また、車をジャンプさせないでください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。

積雪路や凍結路を走行するときは

できるだけ低速で走行し、急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。

砂地やぬかるみを走行するときは

車から降り、砂地やぬかるみの状態を確認してから、できるだけ低速で走行してください。

急な坂道を上るときは

土手や斜面では、傾斜に対してまっすぐに走行してください。斜めに走行すると、車が横転するおそれがあります。

乾燥した舗装路、高速道路を走行するときは

- ローレンジにしないでください（▷138 ページ）。エンジンが高回転になり、エンジンを損傷するおそれがあります。
- ディファレンシャルロック（▷140 ページ）をオンにしないでください。ステアリングがまわしにくくなるため、車が直進し、事故につながるおそれがあります。また、駆動装置を損傷するおそれがあります。

オフロード走行後

損傷した箇所がないか入念に点検してください。

損傷があるときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

サイドステップが濡れているときの注意

降雨時や洗車時など、サイドステップが濡れているときは、十分注意してステップに足を乗せてください。足を滑らせてけがをするおそれがあります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

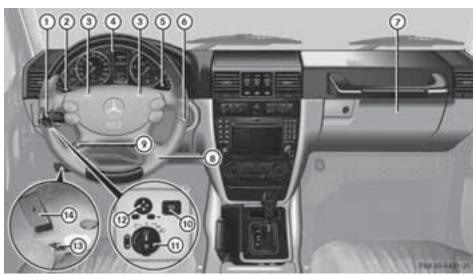
データを使用して、車両の動きをさかのぼって調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

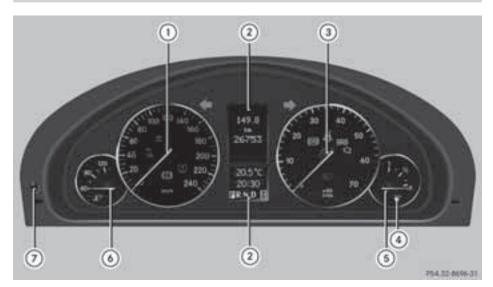
COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

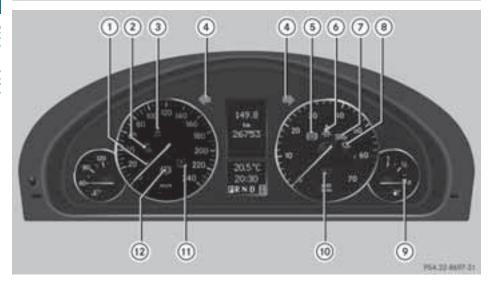
インストルメントパネル………… 22
メーターパネル…………………… 23
マルチファンクションステアリング
……………………………………… 25
センターコンソール……………… 26
前席上方の操作部………………… 28
ドアの操作部……………………… 29

インストルメントパネル

	名称	ページ
①	コンビネーションレバー （方向指示 / ヘッドライト / フロントワイパー）	90 91 97
②	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	144 147
③	運転席エアバッグ ホーン	37
④	メーターパネル	23
⑤	音声認識レバー	別冊
⑥	エンジンスイッチ	67
⑦	グローブボックス	167

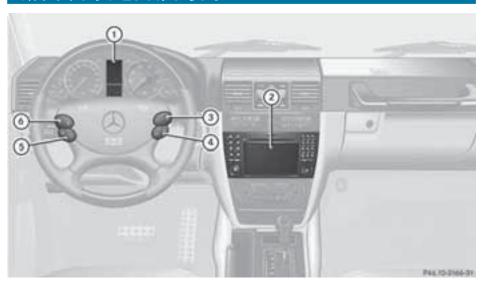
	名称	ページ
⑧	ステアリング	75
⑨	ステアリング調整レバー	75
⑩	ヘッドライトウォッシャースイッチ	92
⑪	ライトスイッチ	87
⑫	ドアミラー調整スイッチ	77
⑬	診断ソケット	13
⑭	ボンネットロック解除ハンドル	188

メーターパネル

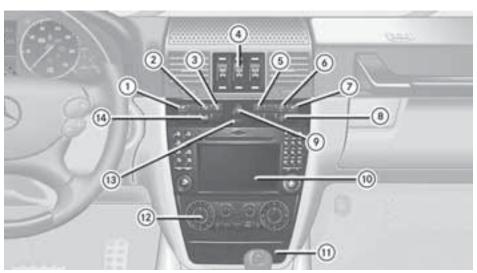
メーターパネル

	名称	ページ
①	スピードメーター	
②	マルチファンクションディスプレイ	118
③	タコメーター	117
④	燃料給油口位置表示	
⑤	燃料計	
⑥	冷却水温度計	117
⑦	メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン	116

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	ヘッドライト表示灯	88
②	ESP® オフ表示灯	250
③	ESP® 表示灯	250
④	方向指示表示灯	90
⑤	ABS 警告灯	249
⑥	シートベルト警告灯	248
⑦	SRS 警告灯	250
⑧	エンジン警告灯	251
⑨	燃料残量警告灯	251
⑩	ハイビーム表示灯	91
⑪	タイヤ空気圧警告灯 1)	
⑫	ブレーキ警告灯	248

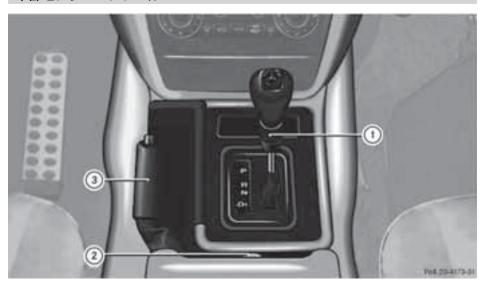
1) 日本仕様車では、警告灯としては機能しません。

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	118
②	COMAND システム	別冊
③	[+] [−] 設定スイッチ / 音量スイッチ	119
④	[通話開始] [通話終了] 通話開始スイッチ / 通話終了スイッチ	119
⑤	[表示切り替え] [表示切り替え] 表示切り替えスイッチ	119
⑥	[△] [▽] スクロールスイッチ	119

センターコンソール

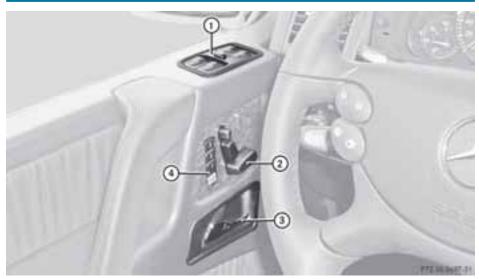
上部センターコンソール

	名称	ページ
①	シートヒーター（運転席）スイッチ	73
②	リアワイパースイッチ	99
③	ESP® オフスイッチ	55
④	ディファレンシャルロックスイッチ	141
⑤	ドアロックスイッチ	65
⑥	けん引防止警報解除スイッチ	57
⑦	シートヒーター（助手席）スイッチ	73
⑧	室内センサー解除スイッチ	58

	名称	ページ
⑨	非常点滅灯スイッチ	91
⑩	COMAND システム	別冊
⑪	灰皿 / ライター	177 178
⑫	エアコンディショナーコントロールパネル	156
⑬	助手席エアバッグオフ表示灯	43
⑭	リアウインドウウォッシャースイッチ	99

下部センターコンソール

	名称	ページ
①	セレクターレバー	103 110
②	トランスファースイッチ	130
③	パーキングブレーキレバー	106

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ	93
②	読書灯（右側）スイッチ	93
③	スライディングルーフスイッチ	165
④	ルームミラー	77
⑤	ルームランプスイッチ	93
⑥	読書灯（左側）スイッチ	93

ドアの操作部

運転席ドア

	名称	ページ
①	ドアウインドウスイッチ セーフティスイッチ	101 49
②	シート調整スイッチ	70
③	ドアレバー	64
④	メモリースイッチ ポジションスイッチ	80

乗員安全装備 32
走行安全装備 50
盗難防止システム 56

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置）は、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらの装置は、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷68 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷81 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷36 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。これにより、けがの危険性を減らすことができます。

したがって、衝突時にエアバッグが作動したときは、エアバッグは正しく着用されたシートベルトの保護機能に加えて効果を発揮します。

> ⚠ **警告**
>
> 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具ならびに設備を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。
>
> 不適切な作業を行なうと、車両の走行安定性が損なわれる可能性があります。その結果、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、安全装備が正常に作動しなくなり、乗員保護効果が得られないおそれがあります。

> ⚠ **警告**
>
> 乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。
>
> - シートベルトやベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
> - 配線
> - 車載ネットワークで接続された電子制御部品
>
> 衝突時の衝撃の強さが乗員保護装置が作動するレベルに達していても、エアバッグとシートベルトテンショナーが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。決して乗員保護装置を改造しないでください。
>
> また、絶対に車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS SRS 警告灯

エンジンスイッチを **1** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、およびエンジンがかかっているときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

> ⚠ **警告**
>
> 以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
>
> - エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
> - エンジンスイッチを **1** の位置にしたときは数秒後に、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
> - エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

衝突などの際、センサーは衝撃の持続時間や方向、強さなどのデータの評価を行ないます。これらのデータをもとにして、また衝突の際の車両の前後方向の減速度に応じて、シートベルトテンショナーを作動させせます。

さらに車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ⓘ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された、以下の要素に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突

ⓘ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、フロントシートと左右リアシートのシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーは、車両の縦方向に大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- エンジンスイッチが **2** の位置のとき
- SRS に異常がないとき
- シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 助手席のシートベルトテンショナーは、助手席に乗車していて、シートベルトのプレートがバックルに差し込まれているとき

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際に、衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両が横転するような特定の状況で、シートベルトテンショナーの作動が乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ 警告

リアのシートベルトテンショナーは、作動時にバックルが下方に引き込まれます。バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。

⚠ 警告

シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。

⚠ 警告

シートベルトテンショナーが作動すると、次に事故が発生した場合は乗員保護機能が得られません。そのため、作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、フロントシートと左右リアシートのシートベルトに装備されています。

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

エアバッグ

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

警 告

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮させるため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストが目の高さにあり、後頭部が支えられるように調整してください。
- 身長 150cm 未満または 12 歳未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。ウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 助手席エアバッグの機能が解除されている場合を除き、助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリーを、ドアに取り付けないでください。

- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ **警告**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部

⚠ **警告**

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き、換気を行なってください。

⚠ **警告**

関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。

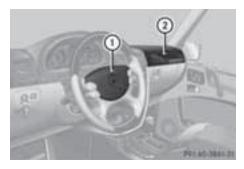
作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。次に事故が発生した場合は、エアバッグによる乗員保護機能が得られません。

⚠ **警告**

未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

運転席エアバッグ① / 助手席エアバッグ②は、縦方向からの強い衝撃を受けると作動し、運転席 / 助手席乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

安全装備

運転席エアバッグ / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

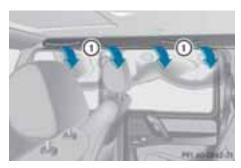
- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

助手席エアバッグ ② は、助手席に乗員が乗車していて、エアバッグオフ表示灯が消灯しているときにのみ作動します。これにより、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないチャイルドセーフティシートが装着されているか、あるいはチャイルドセーフティシートが不適切な方法で装着されていないかを確認できます。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換する必要があります。

i 縦方向からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

ウインドウバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ①が作動し、頭部などへの衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、運転席 / 助手席エアバッグの作動、助手席の乗員の有無、シートベルトの着用に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両が横転したときは、ウインドウバッグの作動がシートベルトによる保護効果を高めるとシステムが判断したとき

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないい場合があるとき

ウインドウバッグが作動するとき

ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部、頚部の保護度合いを高めます。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

⚠ **警 告**

フロントシートには、必ず純正のシートカバーだけを使用してください。市販のシートカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前方に動いた状態のままになります。このときは、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください（▷255 ページ）。

リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頚部を保護することができません。

このリセット作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

⚠ 警 告

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大なけがや致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 身長 150cm 未満および 12 歳未満の子供は、適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗車させ、確実に身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要になります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。子供の安全性が高くなります。
- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグの機能が解除されている場合を除き、助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側サンバイザーに貼付されています。

- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。

  また、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 絶対に子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに子供を保護することができなくなり、子供が車内の部品に激しくぶつかったり、致命的なけがをするおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接している必要があります。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品と交換してください。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったチャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。
チャイルドセーフティシートは後席に装着し、走行している間は、チャイルドセーフティシートにより子供の身体を固定してください。

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています（▷43 ページ）。

⚠ 警 告

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。

⚠ 警告

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い物や硬い物を積むときは、確実に固定してください。荷物を積むときの注意点について、詳しくは（▷166 ページ）をご覧ください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 13kg 以下	新生児～18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～4 歳位
キッド または キッドフィックス	15 ～ 36kg	3 歳半～12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

ℹ 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しているときは、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ **警 告**

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の点に注意して正しく使用してください。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプの純正チャイルドセーフティシートは必ず後席に装着してください。

  やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にして、シートベルトの高さをもっとも低い位置に調整してください。
- 助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードや IC カードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれやセンサー付き純正チャイルドシートを検知できずに助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

! センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着していないときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

i センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、助手席の以下の装置は作動します。

- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

チャイルドセーフティシート固定機構

チャイルドセーフティシートを装着するとき、シートベルトをロックするシステムです。運転席以外のシートベルトに装備されています。

※ 車種や仕様により、後席シートベルトにチャイルドセーフティシート固定機構が装備されていない場合があります。

> ⚠ **警 告**
>
> 子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートを装着する

▶ チャイルドセーフティシートを、製品に付属の取扱説明書に従って正しく装着します。

▶ シートベルトをベルトアンカーからゆっくりと引き出します。

シートベルトのプレートをバックルに差し込みます。

固定機構を使用する

▶ シートベルトをいっぱいまで引き出してから、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

シートベルトが巻き取られているときはカチッカチッと音がすることを確認してください。このときは固定機構が機能しています。

▶ チャイルドセーフティシートを下方に押し、ゆるみがないようにします。

! チャイルドセーフティシートを固定した後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

▶ シートベルトのプレートをバックルから外します。

▶ シートベルトを巻き取らせます。

固定機構が解除されます。

! シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトが引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右の後席に、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

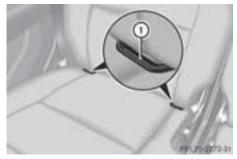
> ⚠ **警 告**
>
> この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを後席のシートベルトで装着してください。

⚠ 警告

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- 安全のため、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートは必ず後席左右の固定装置に装着してください。
- 正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ 警告

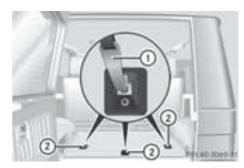
チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護効果が得られなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

① 固定装置

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを固定装置に装着します。

▶ ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを固定装置に装着したときは、中央後席のシートベルトが挟み込まれていないことを確認します。

テザーアンカー

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故などのときにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

純正チャイルドセーフティシートには、テザーベルトを装備していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

テザーフックを取り付ける

▶ セーフティネットを取り外します(▷172 ページ)。

▶ ヘッドレストを上げます。

▶ リアシートにチャイルドセーフティシートを装着します。

装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

▶ ヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーベルト③を通します。

▶ テザーフック①をテザーアンカー②にかけます。

▶ テザーベルト③がねじれていないことを確認します。

▶ テザーベルト③を締め付けます。

締め付け方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを少し下げます。

テザーベルト③の働きが妨げられていないことを確認してください。

⚠ 警 告

- テザーベルトは、チャイルドセーフティシートの位置に対応したテザーアンカーに取り付けてください。
- テザーベルトがねじれたり、複数のテザーベルトが交差しないことを確認してください。
- テザーアンカーに、テザーベルトが確実に固定されていることを確認してください。

チャイルドセーフティシート検知システムのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着していない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 エンジンスイッチを **2** の位置にしたときに助手席エアバッグオフ表示灯が数秒間点灯しないか、エンジンを始動しても SRS 警告灯が消灯しない。 あるいは、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときに助手席エアバッグオフ表示灯が数秒間点灯せず、エンジンを始動しても SRS 警告灯が消灯しない。 ▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • パソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままのとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドプルーフロック

⚠ 警告

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

車内のレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ 設定するときは、エマージェンシーキーの先端やドライバーなどで、ノブを下側の位置 ② にします。

▶ 車内のドアレバーを引いて、チャイルドプルーフロックが設定されていることを確認します。

▶ 解除するときは、ノブを上側の位置 ① にします。

ℹ チャイルドプルーフロックを設定したリアドアを開くときは、リモコン操作やドアロックスイッチでリアドアを解錠して、車外から開いてください。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの操作ができなくなります。

▶ セーフティスイッチ①を ● の見える位置（右にスライド）にします。

リアドアのスイッチでドアウインドウを開閉できなくなります。

▶ 解除するときは、セーフティスイッチを ○ の見える位置（左にスライド）にします。

ℹ セーフティスイッチの設定 / 解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチでは、リアドアウインドウを操作できます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

安全上の重要事項

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ℹ 走行安全装備は、タイヤが路面に十分接地しているときにのみ、十分な効果を発揮します。タイヤに関する情報やタイヤの摩耗については「タイヤとホイール」をご覧ください（▷199 ページ）。

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ **警 告**

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP®、4ETS の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意して運転してください。

ブレーキ操作をする

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。

ABS が作動したとき

▶ 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なとき

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

⚠ **警 告**

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

ⓘ エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

ⓘ バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ⓘ ディファレンシャルロックをオンにすると、ABS、BAS、ESP® の機能が解除され、ABS 警告灯と ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに "ABS ｼｮｳﾌｶﾉｳ ﾛｯｸ ｻﾚﾃｲﾏｽ DIF- FERENTIAL LOCK" と表示されます（▷140 ページ）。

(ABS) ABS 警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、ESP®、BAS、4ETS は作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

ABS により、車輪のロックが抑えられます。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ **警告**

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ℹ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ℹ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々のタイヤに独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したときは、ESP® または 4ETS が作動しています。

[ESP] ESP® 表示灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ **警告**

ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したときは、以下のようにしてください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
- 路面と天候の状況に合わせて運転してください。

車輪が空転したり、車が横滑りするおそれがあります。

⚠ 警告

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ 警告

ESP® 表示灯が点滅しているときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめて、道路や天候の状況に注意して運転してください。また、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ操作
- ESP® の機能の解除

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して点検などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ ディファレンシャルロックをオンにすると、ABS と BAS、ESP® の機能が解除されます。

ℹ 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® 表示灯が点滅したままになります）。

ℹ ABS 警告灯 [ABS] が点灯しているときは、ESP® も作動しません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ESP® 表示灯 [ESP] や ESP® オフ表示灯 [ESP OFF]、ABS 警告灯 [ABS] が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

4ETS

4ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

4ETS は速度が約 60km/h 以下のときに作動します。

4ETS が作動すると、ESP® 表示灯（▷52 ページ）が点滅します。

⚠ **警 告**

- 4ETS は駆動力を確保し、車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。4ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
- 4ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ℹ ABS に不具合が生じたときは、4ETS、ESP®、BAS の機能も解除されます。

ℹ ESP® の機能を解除しても、4ETS の機能は解除されません。

ESP® の機能の設定 / 解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ **警 告**

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジンの出力制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動輪の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。
- 走行速度が約 60km/h以上のときに、タイヤのグリップの限界を検知したときは、ESP® が作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP® 表示灯 [ESP表示灯] が点滅しますが、ESP® は作動しません。

⚠ 警告

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に合わせた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

ESP® の機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESP® オフスイッチ①を押します。

ESP® の機能が解除され、ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯したままになります。

ESP® を待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度 ESP® オフスイッチ①を押します。

ESP® が待機状態になり、ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯します。

[OFF] ESP® オフ表示灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 警告

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。ESP® 表示灯 [ESP] と ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、故障のため、ESP® の機能が解除されています。

特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。

路面と天候の状況に合わせて運転してください。

! ESP® の機能を解除しているときにタイヤを空転させ続けないでください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

EBD

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を検知・制御し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ 警告

EBD に異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、後輪がロックするおそれがあります。路面の状況に合わせて慎重に運転してください。

盗難防止システム

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させないようにする機能です。

イモビライザーを作動させる

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

イモビライザーを解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

ⓘ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

- ドアが開けられたとき
- エマージェンシーキーにより、ドアが解錠され、開けられたとき
- テールゲートが開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

以下のような場合にも警報が作動します。

- 車の位置が動かされたとき（▷57 ページ）
- ウインドウが割られたとき（▷58 ページ）

盗難防止警報システムは、車を施錠したあと、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いたときも作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

けん引防止警報機能解除スイッチの表示灯①が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

システムを解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

ⓘ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠され、システムが待機状態になります。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

警報を停止する

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

ⓘ ドアやテールゲート、ボンネットなどを開いて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

ⓘ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。

ⓘ システムが待機状態のときに車内からドアを開くと警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

けん引防止機能

盗難防止警報システムが待機状態のとき、けん引などで車が持ち上げられて車が傾くと、けん引防止機能が作動して、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

けん引防止機能が自動的に解除されます。

けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ けん引防止機能解除スイッチ①を押します。

表示灯②が数秒間点灯し、その後消灯します。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

けん引防止機能は、次に車を解錠するまで解除され、再度施錠するまで解除されたままになります。

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウが完全に閉じていること
- スライディングルーフが完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ リモコン操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作で車を解錠します。

室内センサーが自動的に解除されます。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき
- スライディングルーフを少し開いた状態で車から離れるとき

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 室内センサー解除スイッチ①を押します。

表示灯②が数秒間点滅し、その後消灯します。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

室内センサーは、次に車を解錠するまで解除され、再度施錠するまで解除されたままになります。

キー…… 60
ドア…… 64
テールゲート…… 66
エンジンスイッチ…… 67
シート…… 68
ステアリング…… 75
ミラー…… 77
メモリー機能…… 80
シートベルト…… 81
ライト…… 87
ワイパー…… 96
パワーウインドウ…… 100
走行と停車…… 103
オートマチックトランスミッション…… 110
メーターパネル…… 116
マルチファンクションディスプレイ…… 118
オフロード走行装備…… 138
走行装備…… 144
エアコンディショナー…… 155
スライディングルーフ…… 164
荷物の積み方 / 小物入れ …… 166
室内装備…… 175

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

警 告

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内のドアレバーを引いてドアを開いたり、運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして取り付けないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーは衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動のおそれがあります。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

i バッテリーの電圧が低下したときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

i キーの電池が消耗するとキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

i 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

リモコン機能

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- 以下の各部の解錠 / 施錠
  ◇ドア
  ◇テールゲート
  ◇燃料給油フラップ
- ドアウインドウとスライディングルーフの開閉

操作時に表示灯①が 1 回点滅します。

解錠する

▶ 解錠ボタン③を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷56 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

ⓘ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

施錠する

▶ 施錠ボタン②を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷56 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したこと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠され、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠することができます。

▶ 施錠ボタン②と解錠ボタン③を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯①が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン③を押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、盗難防止警報システム（▷56 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。
- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン③を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

初期設定に戻す

▶ キーの表示灯①が 2 回点滅するまで、施錠ボタン②と解錠ボタン③を同時に約 6 秒間押し続けます。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、ドアミラー下部のライト、テールランプ、ライセンスライトが点灯します。

点灯したライトは、運転席ドアを開いたとき、または約 40 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（▷131 ページ）をご覧ください。

キーのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷256 ページ）。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください（▷252 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればロックシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればロックシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していた。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差してください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷270 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ドア

⚠ 警告

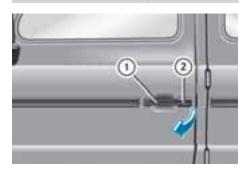
- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ 助手席のドアやリアドアのロックノブを押し込んでから閉じると、ドアは施錠されます。

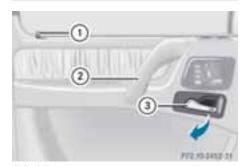
ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷246 ページ）。

車外からのドアの開閉

開く

▶ ロックシリンダー②を押し、ドアハンドル①を持ってドアを開きます。

閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

車内からのドアの開閉

運転席ドア

開く

▶ ドアレバー③を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ①が上がって解錠され、ドアも開きます。

閉じる

▶ インナーグリップ②を持って確実に閉じます。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ **警告**

子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いて、事故やけがをするおそれがあります。

! 施錠後は、すべてのロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアごとの解錠 / 施錠

運転席ドア

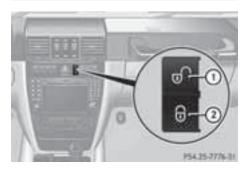
解錠する

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ①を押し込みます。

ドアロックスイッチ

すべてのドアとテールゲートを解錠 / 施錠できます。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）①を押します。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）②を押します。

ⓘ ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。

ⓘ リアドアが開いているときにドアロックスイッチで施錠すると、開いているリアドアのロックノブが下がります。そのまま閉じると施錠されます。

ⓘ 助手席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチでは施錠できません。

ℹ 運転席ドアが開いているときに、ドアロックスイッチで施錠すると、運転席以外のドアが施錠されます。

ℹ リモコン操作で施錠してあるときは、ドアロックスイッチでは解錠できません。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（▷132 ページ）をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押すときやタイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

ℹ 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアかテールゲートを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

ℹ 車速感応ドアロックにより車が施錠されていても、事故などのときに車両が一定以上の衝撃を受けるとドアは自動的に解錠されます。

テールゲート

⚠ **警 告**

エンジンがかかっているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! テールゲートを開くときは、後方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

ℹ ラゲッジルームの中にキーを残したままにしないでください。キーが取り出せなくなるおそれがあります。

テールゲートを開く

テールゲートは、解錠されているときにのみ開くことができます。

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ ロックシリンダー①を押し、テールゲートハンドル②を引きます。

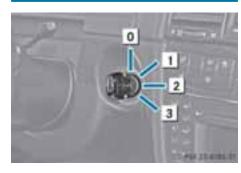
▶ テールゲートを開きます。

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートハンドル②を持って確実に閉じます。

> ⚠ **警 告**
>
> テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

エンジンスイッチ

	作動内容
0	0：キーを差し込む / 抜く位置
1	1：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
3	2：走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
3	3：エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを 3 の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

> ⚠ **警 告**
>
> ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

タッチスタート

エンジンスイッチを **3** の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続けて、エンジンが始動します。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! バッテリーあがりを防止するため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

i セレクターレバーが **P** に入っていないときはエンジンスイッチからキーを抜くことができません。

i エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。

i キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

シート

⚠ 警告

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもシート位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

運転席シートの調整は、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。特に子供は、シート調整スイッチを不用意に操作してけがをするおそれがあるため、以下のことに注意してください。

- シートを調整している間は、シートの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シートの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

⚠ 警告

シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。

シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もご覧ください（▷36 ページ）。

子供を乗せるときは（▷41 ページ）もご覧ください。

⚠ 警告

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストの中央部に支えられていることを確認してください。後頭部がヘッドレストに正しく支えられていないと、事故などのときに、首に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが正しい位置に調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ 警告

後席に乗車するときは、必ずリアヘッドレストを取り付けてください。また、乗車するときはヘッドレストの高さを調整してください。事故のとき、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い状態で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートは定期的に清掃することをお勧めします。「日常の手入れ」をご覧ください（▷224 ページ）。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフや工具などの鋭利な物を置かないでください。シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、カバーやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

! リアシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、リアシートに接触しないように注意してください。シートやシートバックポケットの収納物を損傷するおそれがあります。

! バックレストの角度やヘッドレストの高さを調整するときは、サンバイザーを収納してください。ヘッドレストが最も高い位置にあるときは、サンバイザーとヘッドレストが接触するおそれがあります。

i リアシートのバックレストを倒したり、リアシートを折りたたむことができます。詳しくは（▷169 ページ）をご覧ください。

フロントシートの調整

運転席シートのスイッチ
① ヘッドレストの高さ
② バックレストの角度
③ シートの前後位置
④ シートクッションの角度
⑤ シートの高さ

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、または操作する側のフロントドアが開いているときにシートの調整ができます。

バックレストの角度の調整

▶ シート調整スイッチを矢印②の方向に操作します。

シートの前後位置の調整

▶ シート調整スイッチを矢印③の方向に操作します。

シートクッションの角度の調整

▶ シート調整スイッチを矢印④の方向に操作します。

シートの高さの調整

▶ シート調整スイッチを矢印⑤の方向に操作します。

ヘッドレストの高さの調整

▶ シート調整スイッチを矢印①の方向に操作します。

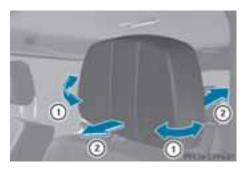
ヘッドレストの調整

⚠ 警告

ヘッドレストの中央が目の高さにあり、後頭部がヘッドレストにより正しく支えられていることを確認してください。事故のとき、首に重大なけがをするおそれがあります。

フロントヘッドレストの調整

ヘッドレストの高さを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①の方向に操作します。

ヘッドレストの前後位置を調整する

▶ ヘッドレストのクッション部を矢印②の方向に動かします。

サイドクッションの位置を調整する

▶ サイドクッションを矢印①の方向に動かします。

左右のサイドクッションを独立して調整できます。

⚠ 警告

サイドクッションを広げるときは、サイドクッションの可動部位に指をかけないでください。指を挟むおそれがあります。

フロントヘッドレストのリセット

バッテリーがあがったりバッテリーの接続が一時的に断たれたときは、ヘッドレストのリセットが必要になることがあります。

▶ シートをいっぱいまで前方に移動してから、ヘッドレストをいっぱいまで上下させます。

リアヘッドレストの調整

⚠ 警告

- 必ずヘッドレストを取り付けた状態でのみ走行してください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- 後席に乗車するときは、必ずリアヘッドレストを取り付けてください。また、乗車するときはヘッドレストの高さを調整してください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- ヘッドレストの中央が目の高さにあり、後頭部がヘッドレストにより正しく支えられていることを確認してください。事故のとき、頭部や首にけがをするおそれがあります。

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストがもっとも低い位置にあるときは、必要に応じてロック解除ボタン①を押します。

▶ ヘッドレストを好みの位置まで引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを好みの位置まで押し下げます。

リアヘッドレストの脱着

⚠ 警告

後席に乗車するときは、必ずリアヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、乗員がけがをするおそれがあります。

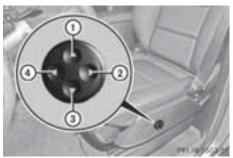
ヘッドレストを取り外す

▶ ヘッドレストをいっぱいまで上げます。

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを引き抜きます。

ヘッドレストを取り付ける

▶ 切り欠きのある方の支柱が左側の取り付け穴に入るようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックします。

電動ランバーサポート

運転席シートのスイッチ

① ランバーサポートの位置の調整（上）
② ランバーサポートの強さの調整（弱）
③ ランバーサポートの位置の調整（下）
④ ランバーサポートの強さの調整（強）

ランバー（腰部）のサポートを調整できます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに調整できます。

サポートの位置を調整する

▶ スイッチ①（上）または③（下）を押して、サポートの位置を調整します。

サポートの強さを調整する

▶ スイッチ②（弱）または④（強）を押して、サポートの強さを調整します。

シートヒーター

⚠ 警告

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気を誘う薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

ℹ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときはスイッチの表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

フロントシートヒーター

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

リアシートヒーター *

エンジンスイッチが **2** の位置のときに使用できます。

シートヒーターを強で使用する

▶ リアシートヒータースイッチ②の下側を押します。

表示灯①が 2 つ点灯します。

シートヒーターが強で作動し、約 5 分後に自動的に弱に切り替わります。

シートヒーターを弱で使用する

▶ リアシートヒータースイッチ②の上側を押します。

表示灯①が 1 つ点灯します。

シートヒーターが弱で作動し、約 30 分後に自動的に停止します。

シートヒーターを停止する

▶ 強で使用しているときはリアシートヒータースイッチ②の下側を押します。

▶ 弱で使用しているときはリアシートヒータースイッチ②の上側を押します。

ⓘ 左リアシートのシートヒーターを作動させると、中央リアシートも暖まります。

シートヒーターのトラブル

1 つまたはすべてのシートヒータースイッチの表示灯が点滅しているときは、シートヒーターが自動的に停止しています。多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステアリング

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもステアリング位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作してステアリングに挟まれるおそれがあります。

⚠ **警 告**

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

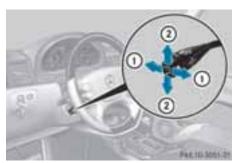
⚠ **警 告**

運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジやステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいまでまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整

① 前後位置の調整
② 上下位置の調整

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

ℹ 運転席ドアが開いているときは、エンジンスイッチが **0** の位置のときでも、約 30 分間はステアリング位置を調整することができます。

前後位置の調整をする

▶ レバーを矢印①の方向に操作します。

上下位置の調整をする

▶ レバーを矢印②の方向に操作します。

ℹ ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます(▷80 ページ)。

イージーエントリー

⚠ **警告**

イージーエントリーが作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- 運転席ドアのいずれかのポジションスイッチ（▷80 ページ）を軽く押す

ポジションスイッチを何度も押さないでください。メモリー機能が作動して、ステアリングとシートが動き出します。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転席ドアを開いたときなどにイージーエントリーが作動して、ステアリングに身体が挟まれるおそれがあります。

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態で、エンジンスイッチにキーを差し込む
- エンジンスイッチが **0** の位置のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- エンジンスイッチが **1** の位置のときは、運転席ドアを閉じて **2** の位置にする

この機能の設定と解除については（▷133 ページ）をご覧ください。

ⓘ ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

ミラー

⚠ 警告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度を調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

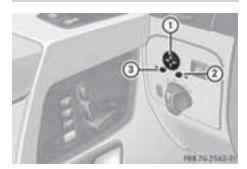
⚠ 警告

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ℹ より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

ℹ ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が低いときには自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ドアミラーの角度調整

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ 調整したい側のドアミラー選択ボタン②または③を押します。

▶ ドアミラー調整スイッチ①を操作してドアミラーの角度を調整します。

ℹ ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷80 ページ）。

ドアミラーの格納 / 展開

▶ 手で格納 / 展開します。

! 走行するときはドアミラーを走行時の位置に戻してください。

! ドアミラーを動かしているときは、手を挟んだり、異物が挟まらないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

ドアミラーが無理に外側に曲げられたとき

ドアミラーが無理に外側に曲げられたときは、以下のようにしてください。

▶ 手でドアミラーユニットを正しい位置に動かしてください。

自動防眩機能

⚠ **警告**

車内に高さのある荷物を積んでいるときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが照射されないときは自動防眩機能は作動しないことがあるため、眩惑により事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でルームミラーの角度を調整してください。

周囲が暗く、エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

ℹ 車種や仕様により、ドアミラーも連動して防眩になります。

ℹ セレクターレバーが R に入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは、自動防眩機能は解除されます。

サイドアンダーミラー

車体右側下部の視界を確保するために、サイドアンダーミラー①が装備されています。

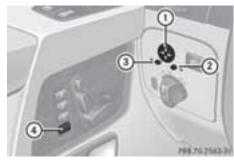
サイドアンダーミラーを収納 / 展開する

▶ サイドアンダーミラーを、いずれかの矢印の方向にまわします。

! サイドアンダーミラーを収納するときは、方向指示灯のレンズに当たらないように注意してください。ミラーやレンズを損傷するおそれがあります。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

セレクターレバーを R に入れたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶されていた角度になり、車両後方の視界を確保して後退を容易にします。

後退時の助手席側ドアミラーの角度を記憶させる

① ドアミラー調整スイッチ
② 助手席側ドアミラー選択ボタン
③ 運転席側ドアミラー選択ボタン
④ メモリースイッチ

▶ 停車して、エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ ドアミラー調整スイッチ①で、後退時に後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。

▶ 運転席シートのメモリースイッチ④を押します。

▶ 約 3 秒以内に調整スイッチ①をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

ⓘ 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ 調整スイッチ①で走行時の角度に助手席ミラーを調整します。

! 走行する前に、後方が十分確認できるように助手席側ドアミラーの角度を調整してください。

記憶させた助手席側ドアミラー角度の呼び出し

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶されていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- セレクターレバーを R の位置から他の位置に入れて約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタン③を押したとき

メモリー機能

シート位置の記憶

メモリー機能では、例えば 3 人の異なる運転者のために 3 つの位置を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シートとバックレスト、ヘッドレストの位置
- 運転席側は、ステアリングの位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの角度

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもメモリー機能は作動するため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートやステアリングが動き出し、身体が挟まれるおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席側の記憶位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

運転席シートのスイッチ

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にするか、操作する側のフロントドアを開きます。

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、ステアリングの位置 (▷75 ページ)、ドアミラーの角度 (▷77 ページ) も正しく調整します。

ドアミラーの角度を記憶させるときは、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ メモリースイッチ①を押します。

▶ 3 秒以内にポジションスイッチ②の 1 〜 3 のいずれかを押します。

そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

シート位置の呼び出し

▶ 呼び出したいポジションスイッチ②（1 ～ 3 のいずれか）を押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチから指を放すと、シートなどの動きが停止します。

! バックレストを大きく後方に傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ 警 告

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。

- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
- シートベルトをドアに挟んだり、鋭利な部分に当てないでください。
- シートベルトにたばこの火など、熱いものを近付けないでください。
- バックル部分に異物を入れないでください。
- シートベルトを分解したり、改造しないでください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷41 ページ）をご覧ください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。
- 乗員が装着しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ **警 告**

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

- 汚れていたり損傷しているシートベルトや、事故で衝撃を受けたシートベルト、改造を受けたシートベルトは、適切な保護性能を発揮することができません。事故などのときに致命的なけがをするおそれがあります。

  シートベルトに汚れや損傷がないことを定期的に確認してください。

  損傷しているシートベルトや事故などで衝撃を受けたシートベルトは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検し、必要であれば交換してください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

フロントシート / 左右リアシート

運転席シート

シートベルトを着用する

▶ シート位置を調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトガイド ④ からゆっくり引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート ② の先端をバックル ① に差し込みます。

▶ 必要であれば、シートベルトの高さを調整します（▷86 ページ）。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート ② を持ち、バックル ① の解除ボタン ③ を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

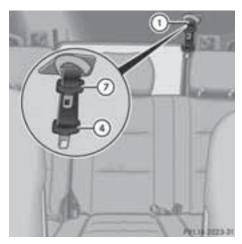
! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれて、ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換する必要があります。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

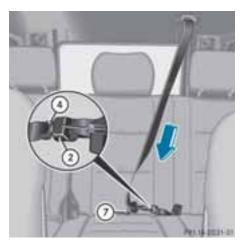
中央リアシート

① シートベルトホルダー
② シートベルト固定用バックル

③ シートベルト固定用バックルの解除ボタン
④ シートベルト固定用プレート
⑤ バックル
⑥ バックルの解除ボタン
⑦ シートベルトのプレート

中央リアシートには分割収納式シートベルトを装備しています。

シートベルトを着用する

▶ シートベルトホルダー ① に収納されているシートベルト固定用プレート ④ とシートベルトのプレート ⑦ を後方に引いて取り出します。

▶ シートベルトをゆっくり引き出します。

▶ シートベルト固定用バックル ② に、シートベルト固定用プレート ④ を差し込みます。

▶ プレート⑦を持ち、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

▶ 中央リアシート右側のバックル⑤に、プレート⑦を差し込みます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

▶ 必要に応じて肩を通るベルトを引き上げて、ベルトを身体に密着させます。

シートベルトを収納する

▶ 中央リアシート右側のバックルの解除ボタン⑥を押しながらプレート⑦を取り外します。

▶ プレート⑦の先端またはドライバーなどでシートベルト固定用バックルの解除ボタン③を押しながら、シートベルト固定用プレート④を取り外し、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

▶ シートベルトホルダー①にシートベルト固定用プレート④とシートベルトのプレート⑦を差し込みます。

! シートベルト固定用プレート④とシートベルトのプレート⑦は、シートベルトホルダー①に確実に差し込んでください。

i シートベルト固定用バックル②とバックル⑤は、シートの切り欠き部に収納することができます。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

エンジンスイッチを **2** の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

フロントシートベルト / 左右リアシートベルトの高さ調整

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは 5 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、調整ノブ ① をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、調整ノブ ① を引きながら下げます。

調整後は確実にロックしていることとを確認してください。

正しい運転姿勢

⚠ 警 告

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。また、ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警 告

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

▶ 以下のことに注意して、シート ③ を調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- 正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- バックレストをできるだけ垂直に調整している

- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める

▶ 以下のことに注意して、ヘッドレストを調整します。

- ヘッドレストの中央が目の高さにある

▶ 以下のことに注意して、ステアリング ① を調整します。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

▶ 以下のことに注意して、シートベルト ② を着用します。

- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

▶ メモリー機能でシートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

ライト

ライトスイッチ

	位置	作動内容
1	◂P	左側パーキングライトが点灯
2	P▸	右側パーキングライトが点灯
3	0	すべてのライトが消灯
4	AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
5	(車幅灯)	車幅灯、テールランプ、ライセンスライトやスイッチなどの照明が点灯
6	(ヘッドライト)	車幅灯などに加え、ヘッドライトが点灯
7	(フロントフォグ)	フロントフォグランプスイッチ
8	(リアフォグ)	リアフォグランプスイッチ

! バッテリーあがりを防ぐため、車から離れるときは、ライトを消灯してください。

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ライトスイッチを [車幅灯] の位置に合わせます。

ヘッドライト

ヘッドライトは手動または自動で点灯 / 消灯することができます。

ヘッドライトが点灯すると、メーターパネルのヘッドライト表示灯 [ヘッドライト] が点灯します。

ヘッドライトを手動で点灯する

▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] の位置に合わせます。

ヘッドライトを自動で点灯する

▶ ライトスイッチを AUTO の位置に合わせます。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスライトが点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドライトも点灯します。

⚠ **警 告**

- ライトの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ライトの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではライトは自動的に点灯しなかったり、点灯していたライトが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でライトを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき
  - ◇ 対向車のライトなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ライトスイッチを AUTO から [ヘッドライト] の位置にするときは、必ず停車してください。ライトが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

! ライトが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを **0** の位置に戻して運転席ドアを開くと警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾗｲﾄ ｦ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。このときは必ずライトスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! ライトスイッチを [車幅灯] か [ヘッドライト] の位置にしたまま、エンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。このときはライトを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ⓘ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサーにステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

ⓘ ライトスイッチが AUTO の位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ライトが自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチの位置が [車幅灯] または [ヘッドライト] のとき、ライトスイッチを 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、ライトスイッチの緑色のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチの位置が [車幅灯] または [ヘッドライト] のとき、ライトスイッチを 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、ライトスイッチの緑色のフロントフォグランプ表示灯と黄色のリアフォグランプ表示灯が点灯します。

⚠ **警告**

ライトスイッチが AUTO の位置のときは、フォグランプを点灯することができません。

霧の中を走行するときは、あらかじめライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にしてヘッドライトを点灯してください。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

パーキングライト

暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングライトを点灯する

エンジンスイッチが **0** の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ライトスイッチを [P右] または [P左] の位置にします。

位置	作動内容
[P右]	右側のパーキングライトが点灯
[P左]	左側のパーキングライトが点灯

車外ライト消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスライトが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（▷131 ページ）をご覧ください。

車外ライト消灯遅延機能を一時的に解除する

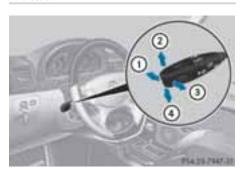
▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを **2** の位置にします。

ℹ 車外ライトが消灯するまでの時間は、ドアまたはテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

ℹ エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後にライトは消灯し、この機能は解除されます。

ℹ この機能は、ライトが消灯してから約 10 分以上経過すると作動しなくなります。

コンビネーションスイッチ

方向指示

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに点滅させることができます。

方向指示灯を短時間点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に軽く操作します。

操作した側の方向指示灯が 3 回点滅します。

方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に操作します。

操作した側の方向指示灯が点滅します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ヘッドライトの下向き / 上向きの切り替え

ヘッドライトを上向きにする

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [≣D] または [AUTO] の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドライトが上向きになり、メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

ライトスイッチが [AUTO] の位置のときは、周囲が暗く、エンジンがかかっているときにのみ、ヘッドライトが上向きで点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドライトを上向きにしないでください。

ヘッドライトを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを元の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が消灯します。

パッシング

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間、ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと元の位置に戻ります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

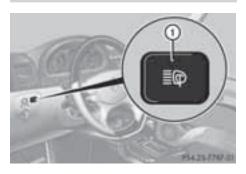
▶ 再度、非常点滅灯スイッチ ① を押します。

! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

i 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

ⓘ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、エアバッグかシートベルトテンショナーが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ヘッドライトウォッシャー

ヘッドライトウォッシャーを作動させる

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ヘッドライトウォッシャースイッチ ① を押します。

! ヘッドライトウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ⓘ エンジンがかかっていて車幅灯が点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャー（▷98 ページ）を約 5 回噴射させると、ヘッドライトウォッシャーがヘッドライトに向けて噴射されます。

コーナリングライト

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のとき
- ヘッドライトが点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

▶ 方向指示灯を点滅させます。

点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが **R** に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

▶ ステアリングを操作します。

操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

ℹ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。

ℹ フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。

ヘッドライトと方向指示灯の内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトやドアミラー方向指示灯の内側が曇ることがあります。

▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇りは取れます。

▶ ヘッドライト内側の曇りが取れない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ルームランプ

① リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ
② 読書灯（右側）スイッチ
③ ルームランプスイッチ
④ 読書灯（左側）スイッチ

ルームランプの点灯 / 消灯

ルームランプを自動点灯モードにする

▶ ルームランプスイッチ③を押して、左右どちら側にも押されていない状態にします。

周囲が暗いときに以下の操作をすると、ルームランプが点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については（▷132 ページ）をご覧ください。

- リモコン操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

- フロントドアを開くとフロントルームランプ④が点灯します。

  リアドアを開くとリアルームランプが点灯します。

  ◇ エンジンスイッチが **2** の位置のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇ エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。

- テールゲートを開くとラゲッジルームランプが点灯します。

  テールゲートを閉じるとただちに消灯します。

  テールゲートを開いたままのときは約 10 分後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

ルームランプを常時消灯モードにする

▶ ルームランプスイッチ③の右側を押します。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する
- ドアを開く
- テールゲートを開く

ルームランプを手動で点灯する

▶ ルームランプスイッチ③の左側を押します。

! 手動で点灯したルームランプは、自動的に消灯しません。

エンジンを停止した状態で、長時間ルームランプを点灯したままにしないでください。

フロント読書灯

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

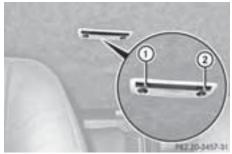
▶ 読書灯スイッチ②または④を押します。

読書灯が点灯 / 消灯します。

リアルームランプ

リアルームランプを点灯 / 消灯する

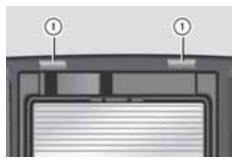
▶ エンジンスイッチが **2** の位置のとき、リアルームランプ/ラゲッジルームランプスイッチ①を押します。

リア読書灯

① 読書灯（右側）スイッチ
② 読書灯（左側）スイッチ

リア読書灯を点灯 / 消灯する

▶ 読書灯スイッチ①または②を押します。

読書灯が点灯 / 消灯します。

ラゲッジルームランプ

① ラゲッジルームランプ

ルームランプが自動点灯モード（▷93 ページ）で周囲が暗いときにテールゲートを開くと点灯します。

また、エンジンスイッチが **2** の位置のとき、リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ（▷93 ページ）を押すと、点灯 / 消灯します。

ラゲッジルームランプの消灯

テールゲートを開いてラゲッジルームランプが点灯したときは、リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチを押しても、ラゲッジルームランプは消灯しません。

長時間テールゲートを開いたままにするときは、バッテリーあがりを防ぐために、以下の方法でラゲッジルームランプを消灯してください。

▶ テールゲートのロックプレート②を矢印の方向にいっぱいまでまわします。

ラゲッジルームランプが消灯します。

▶ 再度ラゲッジルームランプを点灯するときは、テールゲートハンドルのロックシリンダー③を押します。

! テールゲートを閉じる前には、必ずテールゲートハンドルのロックシリンダーを押し、ロックプレートを元の位置（イラストの位置）に戻してください。

ロックプレートが下方にロックされた状態でテールゲートを閉じようとすると、ロックプレートがボディのロック部に当たり、ロックプレートやボディのロック部などを損傷するおそれがあります。

乗降用ライト

ドア下部と前席および後席の足元に乗降用のライトがあります。

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにドアを開くと点灯します。

ドアミラー下部のライト

ロケイターライティング機能（▷62 ページ）として作動します。

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると点灯し、フロントドアを開くと開いた側のドアミラーライトが消灯します。フロントドアを開かない場合は、約 40 秒後に消灯します。

ステップカバーライト

① ステップカバーライト

フロントドアを開くと点灯します。

フロントドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ℹ 仕様により、リアのステップカバーにもライトを装備している場合があります。

リアドアを開くと約 5 分間点灯します。

アンビエントライト *

ドアのアームレスト下部にあります。

車外ライトの点灯 / 消灯に連動して点灯 / 消灯します。

ワイパー

⚠ **警 告**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

! ウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。ウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。

! 自動洗車機で洗車した後に、ワイパーを使用してもウインドウに油膜が残るときは、ウインドウにワックスや洗浄液などが付着している可能性があります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液を噴射してウインドウを清掃してください。

! ウインドウを拭くときなどは、必ずワイパーを停止してください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

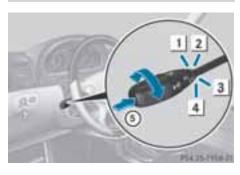
* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 寒冷時にはワイパーブレードがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが [—] ～ [≡] の位置のままエンジンスイッチを **1** の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! ワイパーを使用する必要がないときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の乱反射などでレインセンサーが誤作動し、フロントウインドウが濡れていないときでもワイパーが作動することがあります。

フロントワイパー

位置		作動内容
1	≡	高速モード
2	=	低速モード
3	—	AUTO モード
4	0	停止
⑤		ティップ機能 / ウインドウウォッシャーの噴射

フロントワイパーを作動させる

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、作動内容を選択します。

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを⑤の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずにワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ⓘ AUTO モードは、レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。

ⓘ コンビネーションスイッチが [=]、[≡] の位置のときも、停車時またはごく低速での走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

ⓘ AUTO モードのときは、停車時にフロントドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが [P] または [N] に入っているときは、フロントドアを閉じてセレクターレバーを他の位置に入れたとき
- セレクターレバーが [D] または [R] に入っているときは、フロントドアを閉じたとき

ⓘ フロントワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ⓘ コンビネーションスイッチが [—] の位置のとき、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、フロントウインドウが濡れていなくてもフロントワイパーが 1 回作動します。

ⓘ コンビネーションスイッチを [—] の位置にすると、フロントワイパーが 1 回作動します。

ⓘ ボンネットが開いているときはフロントワイパーは作動しません。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサーの上にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

ウインドウウォッシャーを噴射させる

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを⑤の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間、ウインドウウォッシャー液が噴射して、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ⓘ エンジンがかかっていて車幅灯が点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 5 回噴射させると、ヘッドライトウォッシャーがヘッドライトに向けて噴射されます。

リアワイパー

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

リアワイパーを作動させる

▶ リアワイパースイッチ①を押します。

リアワイパーが間欠モードで作動し、スイッチの表示灯③が点灯します。

リアワイパーを停止する

▶ 再度リアワイパースイッチ①を押します。

スイッチの表示灯③が消灯します。

リアウインドウウォッシャーを噴射させる

▶ リアウインドウウォッシャースイッチ②を押します。

その間ウォッシャー液が噴射し、手を放してから約 5 秒間リアワイパーが作動します。

ⓘ フロントワイパーが作動しているときに、セレクターレバーを R に入れると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速または高速作動のとき

  低速で作動します。

ワイパーのトラブル

ワイパーの作動が妨げられている

葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着しているため、ワイパーの作動が妨げられている。ワイパーモーターの作動が停止している。

▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 障害物を取り除きます。

▶ 再度、ワイパーを作動させます。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障している。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

パワーウインドウ

警告

ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。引き込まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを閉じてください。

警告

ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。

警告

子供が車内からドアウインドウを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 車内の各部に触れて、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。
- 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- ドアロックスイッチを押して車を解錠し、チャイルドプルーフロックを設定しているにも関わらずドアを開くおそれがあります。

警告

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供を乗せるときは、後席に乗車させ、リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。走行中にウインドウが開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。

ドアウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ
① チャイルドプルーフロックスイッチ
② 左側フロントドアウインドウスイッチ
③ 右側フロントドアウインドウスイッチ
④ 右側リアドアウインドウスイッチ
⑤ 左側リアドアウインドウスイッチ

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウスイッチがあります。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに操作できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチ②③④⑤を軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチ②③④⑤をいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチ②③④⑤を引きます。

押している間だけ閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、すべてのドアウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

i ドアウインドウが自動で開いているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

i 運転席ドアのスイッチで助手席またはリアドアのドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアまたはリアドアのスイッチで、開閉中のドアウインドウを操作することはできません。

i リモコン操作でドアウインドウを開閉することができます。

i 運転席ドアのチャイルドプルーフロックスイッチ①で、リアドアにあるリアドアウインドウスイッチを操作できなくすることができます（▷49 ページ）。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作により、以下の操作をすることができます。

- 車両を解錠する
- ドアウインドウを開く
- スライディングルーフを開く

i コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの解錠ボタン（▷61 ページ）を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

解錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作により、車外から以下の各部を閉じることができます。

- ドアウインドウ
- スライディングルーフ

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

⚠ **警 告**

リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに身体や物が挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンから指を放し、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとスライディングルーフを開いてください。

! ドアウインドウやスライディングルーフを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

i コンビニエンスクロージング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの施錠ボタンを押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

施錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

▶ すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認します。

ドアウインドウのトラブル

ドアウインドウとドアフレームの間に障害物が挟まっていて、ドアウインドウを閉じることができないとき

▶ 障害物を取り除いてください。

▶ ドアウインドウを閉じてください。

ドア内側のガイドレールなどに障害物があり、ドアウインドウを閉じることができないとき

▶ 障害物を取り除いてください。

▶ ドアウインドウを閉じてください。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

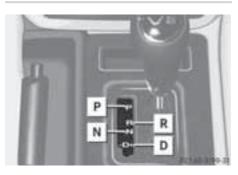
⚠ 警告

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

i エンジンを始動した直後は、ブレーキペダルの踏みしろが大きくなり、踏みごたえが弱くなることがあります。

シフト位置

シフト位置	作動内容
P	**パーキング位置** 駐車およびエンジン始動/停止の位置です。 停車時に車両が動き出すことを防ぎます。完全に停車していないときは、P にしないでください。 シフト位置が P のときにのみ、キーを抜くことができます。シフト位置が P のときは、セレクターレバーがロックされます。 車両の電気装備が故障したときは、セレクターレバーが P の位置でロックされます。セレクターレバーを P の位置から動かすときは（▷254 ページ）をご覧ください。 このときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

R	**リバース位置** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラル位置** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 必要な場合を除き、走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 トランスファーを操作するときは、シフト位置を N にします。 ! 走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブ位置** 走行するときの位置です。 1 速～ 5 速または 7 速の範囲で自動的に変速します。

エンジンを始動する

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

! エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

ℹ ライトやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

発進

⚠ **警 告**

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

! セレクターレバーを R に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

i エンジンスイッチが 2 の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを P から動かすことはできません。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを D または R に入れます。

i ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

上り坂での発進時に車が後退するのを防ぎ、発進を容易にします。

また、上り坂を後退して登るときは発進時の前進も防ぎます。

⚠ **警 告**

ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。

ヒルスタートアシストを作動させる

▶ 上り坂での発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退するのを防ぎます。

ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面、または下り坂で発進するとき
- セレクターレバーが N に入っているとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障して解除されているとき

駐車

⚠ **警 告**

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

⚠ 警告

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフを閉じて、車を施錠してください。

車が動き出すのを防ぐため、以下のことを行なってください。

- パーキングブレーキを効かせてください。
- セレクターレバーを P に入れて、エンジンスイッチからキーを抜いてください。
- トランスファーがニュートラルになっていないことを確認してください。
- 上り坂や下り坂では、前輪を歩道方向に向けてください。

パーキングブレーキ

⚠ 警告

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

⚠ 警告

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏みます。

▶ パーキングブレーキレバー②を少し引き上げ、解除ノブ①をいっぱいまで押し込んでからパーキングブレーキレバーを下げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が消灯します。

パーキングブレーキを効かせる

▶ パーキングブレーキレバー②を引き上げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

! 警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ" と表示されたときは、パーキングブレーキが解除されていない状態で走行しています。パーキングブレーキを解除してください。

エンジンの停止

⚠ **警 告**

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキレバーを確実に引き、セレクターレバーを **P** に入れます。

! セレクターレバーが **P** 以外に入っているときもエンジンを停止できますが、必ずパーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを **P** に入れてください。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。このようなときは、以下のようにしてください。

▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。

ℹ バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。このようなときは、別途対応が必要です。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。エンジンスイッチを **3** の位置にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度か始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。エンジンスイッチを **3** の位置にするとスターターモーターの音がする。 黄色の燃料残量警告灯が点灯している。燃料計の指針が下限を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。エンジンスイッチを **3** の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷270 ページ）。 他車のバッテリーを電源としてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷により、スターターモーターが過熱している。 ▶ スターターモーターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作をしてください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約120℃を超えている。 警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を守りながら、冷却水を補給してください（▷195 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ その場合は、山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返さないでください。

オートマチックトランスミッション

⚠ **警告**

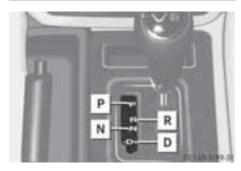
運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

⚠ **警告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

! 停車してエンジンを停止したときは、車が動き出すのを防ぐため、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを効かせてください。

セレクターレバー

▶ セレクターレバーを動かして、シフト位置を選択します。

! シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んでください。

ℹ エンジンスイッチが **2** の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないときは、セレクターレバーを P から動かすことができません。

シフト位置表示

① シフト位置表示
（ドライブに入っている状態）

エンジンスイッチを **2** の位置にすると、マルチファンクションディスプレイのシフト位置表示①に、選択されたシフト位置が反転して表示されます。

シフト位置

シフト位置	作動内容
P	**パーキング位置** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 停車時に車両が動き出すことを防ぎます。完全に停車していないときは、P にしないでください。 シフト位置が P のときにのみ、キーを抜くことができます。シフト位置が P のときは、セレクターレバーがロックされます。 車両の電気装備が故障したときは、セレクターレバーが P の位置でロックされます。セレクターレバーを P の位置から動かすときは（▷254 ページ）をご覧ください。 このときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
R	**リバース位置** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラル位置** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 必要な場合を除き、走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 トランスファーを操作するときは、シフト位置を N にします。 ! 走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブ位置** 走行するときの位置です。 1 速〜 5 速または 7 速の範囲で自動的に変速します。

シフト位置の選択

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のとき、以下の状態に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- クロスカントリーギアの位置（ハイレンジまたはローレンジ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠ **警 告**

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要なシフトアップを抑えます。

ギアレンジ	作動内容
D	1速～5速(7G-TRONIC装備車は1速～7速)の範囲で自動的に変速します。
6 *	1速～6速の範囲で自動的に変速します。
5 *	1速～5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速～4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速～3速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速～2速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

⚠ **警告**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ローレンジモードになっているときは、エンジン回転数が許容回転数を超えるようなときにも、自動的にシフトアップされません。エンジンを損傷するおそれがあります。エンジンの許容回転数を超えないように注意してください。

i ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

i 加速時にエンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

i エンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、低いギアレンジを選択できません。

i エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

i ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

i ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを②側（▷114ページ）に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

① 低いギアレンジを選択
② 高いギアレンジを選択

③ ギアレンジ表示

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときにセレクターレバーを①側に操作します。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジがマルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示③に表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを①側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを②側に操作します。

ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを②側に操作して保持します。

ギアレンジ表示③に "D" が表示されます。

最適なギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを①側に操作して保持します。

そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されます。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合がある。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ セレクターレバーを D に入れます。 2 速ギアになります。 または ▶ セレクターレバーを R に入れます。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷23 ページ）をご覧ください。

⚠ 警 告

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

マルチファンクションディスプレイ

時刻や外気温度、設定項目、故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに表示されます。

- エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたとき（エンジンスイッチを **0** の位置にするか、キーを抜いてから約 30 秒後に表示が消えます）
- 車外ライトが点灯したとき（車外ライトが消灯してから約 30 秒後に表示が消えます）

詳しくは（▷118 ページ）をご覧ください。

メーターパネル照度調節ボタン / リセットボタン

① メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

メーターパネルの照度を調節する

メーターパネルの照明が点灯しているときに明るさを調整できます。

▶ メーターパネル照度調整ボタン①を時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

トリップメーターや各種設定をリセットする

▶ リセットボタン①を押し続けます。

アンビエントライト * の照度調整

アンビエントライトの照度は、メーターパネルの照度に連動します。

▶ メーターパネル照度調整ボタン①を時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

冷却水温度計

エンジン冷却水の温度を表示します。

ⓘ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ⓘ 暑い日や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷243、244ページ）が表示されない限り、問題ありません。

トリップメーターのリセット

▶ 基本画面を表示させます（▷121ページ）。

▶ 表示が 0.0 になるまで、リセットボタン①を押し続けます。

時刻表示

COMAND システムで設定した時刻を表示します。

詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

環 境

必要以上にエンジン回転数を上げて走行しないでください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

外気温度表示

⚠ **警 告**

外気温度が氷点温度よりわずかに暖かいときは、特に森林地帯や橋の上などでは路面が凍りやすくなります。スリップするおそれがあるため、天候に応じた運転を行なってください。

マルチファンクションディスプレイ

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイは道路と交通状況が許すときにのみ操作してください。注意がそれ、運転に集中することができず、事故の原因になります。

⚠ **警告**

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージは表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、メッセージなどの走行状態を示す情報を得ることができなくなります。また、走行特性に変化が出る可能性もあります。運転スタイルと走行速度を状況に合わせてください。

また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムの故障および警告のみを記録および表示します。そのため、車両が安全に使用できることを常にお客様自身で確認してください。安全性が確保されていない車両を運転することにより、事故の原因になります。

⚠ **警告**

不適切な作業を行なうと、車両安全性に悪影響を与えるおそれがあります。その結果、車両操縦性を失い、事故の原因になります。さらに、安全装備が設計通りに乗員を保護できなくなります。

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ **警告**

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイの操作

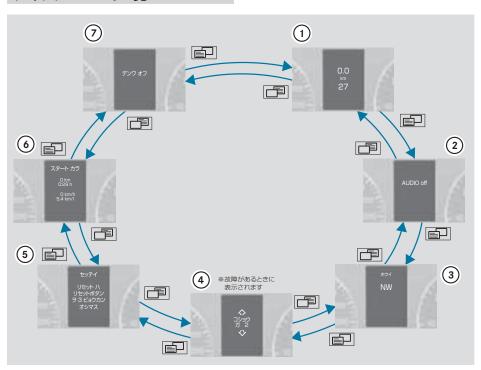
エンジンスイッチを **1** の位置にすると、マルチファンクションディスプレイは作動します。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイを操作します。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**設定スイッチ / 音量スイッチ** [+] [−] • 各種設定の設定グループ選択画面でのグループの選択 • 設定項目画面での設定の変更や、機能のオン / オフの選択 • 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節
③	**通話開始スイッチ / 通話終了スイッチ** 電話の発信 / 受信 / 保留 / 切断
④	**表示切り替えスイッチ** メイン画面の選択
⑤	**スクロールスイッチ** • 選択したメイン画面内の各画面の切り替え • オーディオの選曲 • ラジオ・テレビの選局 • DVD ビデオのチャプター選択 • 電話画面表示中の電話帳や発信履歴の選択

ⓘ ステアリングスイッチでの COMAND システムの操作については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

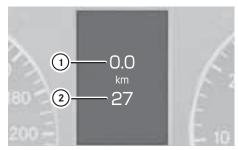
メインメニューの一覧

①	車両情報（▷121 ページ）
②	オーディオ（▷123 ページ）
③	ナビ（▷125 ページ）
④	故障表示（▷125 ページ）
⑤	設定（▷126 ページ）
⑥	トリップコンピューター（▷134 ページ）
⑦	電話（▷136 ページ）

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

「車両情報」には以下の項目があります。

- 基本画面（トリップメーター、オドメーター）
- 走行情報表示
- 走行速度 / 外気温度表示
- メンテナンスインジケーター（▷222 ページ）
- エンジンオイル量点検表示 *（▷191 ページ）

基本画面

① トリップメーター
② オドメーター

基本画面を表示させる

▶ [画面] または [画面] を押して、基本画面を表示させます。

トリップメーター

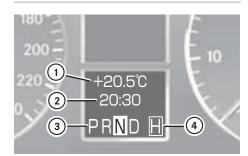
リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0 に戻す）

▶ リセットボタン（▷116 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

走行情報表示

① 外気温度表示 / 走行速度表示
② 時刻表示 / 可変スピードリミッターの設定速度表示
③ シフト位置表示 / ギアレンジ表示
④ トランスファー表示

外気温度表示 / 走行速度表示

外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは、設定メニューの " メーター " にある " 走行情報表示の設定 "（▷129 ページ）で行ないます。

> ⚠ **警 告**
>
> 外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

ⓘ 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

時刻表示 / 可変スピードリミッターの設定速度表示

時刻または可変スピードリミッターで設定した速度を表示します。

ⓘ 可変スピードリミッターについて、詳しくは（▷147 ページ）をご覧ください。

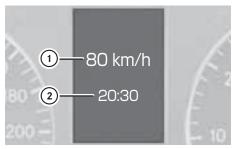
シフト位置表示 / ギアレンジ表示

オートマチックトランスミッションのシフト位置を表示します（▷110 ページ）。

また、ティップシフト（▷114 ページ）にしたときのギアレンジを表示します。

トランスファー表示

トランスファーの位置を表示します（▷138 ページ）。

走行速度 / 外気温度表示

① 走行速度 / 外気温度
② 時刻

走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは、設定メニューの " メーター " にある " 走行情報表示の設定 "（▷129 ページ）で行ないます。

走行速度 / 外気温度を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、基本画面を表示させます（▷121 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、走行速度 / 外気温度を表示させます。

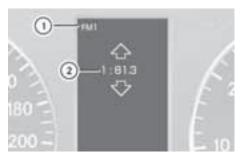
ⓘ 走行情報表示の設定（▷129 ページ）を " ガイキオンド " に設定したときは走行速度の表示になり、" ソクド " に設定したときは外気温度の表示になります。

ⓘ 走行情報表示に可変スピードリミッターの設定速度が表示されているときは、時刻②が表示されます。

ⓘ 走行速度の表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷128 ページ）。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオ

ラジオ局を選局する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2"
② プリセット番号 / 受信周波数

COMAND システムで、ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオメニューを表示させます。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ [△] または [▽] を押します。

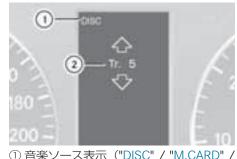
プリセットされた放送局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ [△] または [▽] を押して保持します。

受信周波数が動き、次に受信できる周波数で停止します。

ⓘ ラジオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

トラックを選択する

① 音楽ソース表示（"DISC" / "M.CARD" / "HDD" / "MEDIA" / "AUX"）
② トラック番号

COMAND システムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオメニューを表示させます。

トラックを選択する

ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェースのいずれかを再生しているときはトラックを選択することができます。

▶ [△] または [▽] を押します。

次または前のトラックが選択されます。

ⓘ 音楽再生の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

テレビ局を選局する

① "TV1" または "TV2"
② プリセット番号 / チャンネル番号

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオメニューを表示させます。

テレビ局をプリセット選局する

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

プリセットされたテレビ局が選局されます。

テレビ局を自動選局する

▶ [⇧] または [⇩] を押して保持します。

受信チャンネルが動き、次に受信できるチャンネルで停止します。

ℹ テレビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオメニューを表示させます。

チャプターを選択する

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

次または前のチャプターが再生されます。

ℹ DVD ビデオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

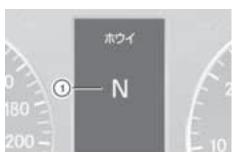
ナビ

COMAND システムのナビ機能をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ナビメニューを表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ナビメニューを表示させせます。

ルート案内を行なっていないとき

① 進行方向の方位表示

マルチファンクションディスプレイに進行方向の方位①が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

マルチファンクションディスプレイに上記の画面が表示されます。

故障表示

⚠ **警 告**

表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

①	故障件数表示 （この例では、1 件故障があります）
②	故障 / 警告メッセージの例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障や異常がないときは、故障表示は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージが自動的に表示されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

複数の故障や異常があるときは、故障 / 警告メッセージが約 5 秒間隔で順番に表示されます。

ステアリングの ⊟ ⊟ や △ ▽、またはリセットボタンを押すと、故障 / 警告メッセージが消えます。

故障メッセージを手動で確認する

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに表示できます。

▶ ⊟ または ⊟ を押して、故障件数表示①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ △ または ▽ を押して、故障 / 警告メッセージ②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数表示①に戻ります。

故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを **0** の位置にすると、故障 / 警告メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

ℹ 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷239 ページ）をご覧ください。

設定

「設定」では、以下の項目の設定ができます。

- 設定項目の初期化
- メーター
- ライト
- シャリョウ
- コンフォート

! 設定の変更は必ず停車中に操作してください。

設定メニュー

設定メニューを表示させる

▶ ⊟ または ⊟ を押して、設定メニューを表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループの選択

設定グループを選択する

▶ 設定メニュー表示中に [⌂] を押して、設定グループを表示させせます。

▶ [＋] または [－] を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループを確認して、[⌂] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目が表示されます。

設定項目を選択する

▶ [⌂] または [▽] を押して、設定項目を選択します。

設定を変更する
機能のオン / オフを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

設定項目の初期化

設定メニューのすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

設定項目を初期化する

▶ [▤] または [▭] を押して、設定メニューを表示させせます（▷126 ページ）。

▶ リセットボタン（▷116 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

確認画面が表示されます。

▶ 確認画面が表示されているとき（約 5 秒以内）に、再度リセットボタンを押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両の操作

初期化を実行し、初期化完了画面が表示されます。

ℹ 確認画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、設定メニューに切り替わります。

ℹ 初期化すると、設定グループの選択（▷127 ページ）になります。

ℹ 走行中に初期化操作を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

メーター

「メーター」では、以下の項目の設定ができます。

- 速度・距離単位の設定
- ディスプレイ言語の設定
- 走行情報表示の設定

設定グループを選択する

▶ [⎘] または [⎗] を押して、設定メニューを表示させます（▷126 ページ）。

▶ 設定メニュー表示中に [⌂] を押して、設定グループを表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、" メーター " を選択します。

▶ [⌂] を押します。

メーターの最初の設定項目が表示されます。

速度・距離単位の設定

マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示単位が km/h、km などになります。
マイル	表示単位が mph、マイル、MI などになります。

❗ 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず表示単位を km にしてください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語の設定

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

ℹ この画面で設定した言語をCOMAND システムにも適用できます。詳細については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

走行情報表示の設定

走行情報表示（▷121 ページ）の表示項目の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ソクド	走行情報表示に走行速度が表示されます。
ガイキオンド	走行情報表示に外気温度が表示されます。

ℹ 走行情報表示の表示項目を切り替えると、走行速度 / 外気温度表示（▷122 ページ）の表示項目も切り替わります。

ライト

「ライト」では、以下の項目の設定ができます。

- ヘッドライト点灯モードの設定
- ロケイターライティングの設定
- 車外ライト消灯遅延機能の設定
- ルームランプ消灯遅延機能の設定

設定グループを選択する

▶ [◫] または [◫] を押して、設定メニューを表示させます（▷126 ページ）。

▶ 設定メニュー表示中に [⌂] を押して、設定グループを表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、" ライト " を選択します。

▶ [⌂] を押します。

ライトの最初の設定項目が表示されます。

ヘッドライト点灯モードの設定

ヘッドライトの点灯モードの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ツネニ オン	常時点灯モードです。ライトスイッチが [0] か [AUTO] のときに、エンジンを始動すると、ヘッドライトなどが常に点灯します。
マニュアル	手動点灯モードです。ヘッドライトなどを点灯するときはライトスイッチを操作します。日本ではこのモードに設定してください。

❗ 安全のため、常時点灯モードが設定されているときは、走行中に設定を変更することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳ " と表示されます。

ⓘ 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

ⓘ 常時点灯モードで自動的に点灯するライトは、ヘッドライト、車幅灯、テールランプ、ライセンスライトです。ヘッドライトを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ロケイターライティングの設定

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ライトが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ドアミラー下部のライト、ライセンスライトが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷62 ページ）をご覧ください。

車外ライト消灯遅延機能の設定

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ライトが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスライトが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
オフ	車外ライト消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷90 ページ）をご覧ください。

ルームランプ消灯遅延機能の設定

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、フロントルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、フロントルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷93 ページ）をご覧ください。

シャリョウ

「シャリョウ」では、車速感応ドアロックの設定ができます。

設定グループを選択する

▶ ［ボタン］ または ［ボタン］ を押して、設定メニューを表示させます（▷126 ページ）。

▶ 設定メニュー表示中に ［ボタン］ を押して、設定グループを選択します。

▶ ＋ または － を押して、" シャリョウ " を選択します。

▶ ［ボタン］ を押します。

シャリョウの設定項目が表示されます。

車速感応ドアロックの設定

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷66 ページ）をご覧ください。

コンフォート

「コンフォート」では、イージーエントリーの設定ができます。

設定グループを選択する

▶ [ ] または [ ] を押して、設定メニューを表示させます（▷126 ページ）。

▶ 設定メニュー表示中に [△] を押して、設定グループを選択します。

▶ [+] または [−] を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ [△] を押します。

コンフォートの設定項目が表示されます。

イージーエントリーの設定

⚠ 警 告

- イージーエントリーが作動するとステアリングが動きます。乗員がステアリングに挟まれるおそれがあります。イージーエントリーを作動させる前に、挟まれるものがないことを確認してください。
- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開くとイージーエントリーが作動し、けがをするおそれがあります。

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリーの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イージーエントリーが作動します。
オフ	イージーエントリーは作動しません。

詳しくは（▷76 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両の操作

トリップコンピューター

「トリップコンピューター」には以下の項目があります。

- エンジン始動時からの情報表示
- リセット時からの情報表示
- 走行可能距離表示

エンジン始動時からの情報表示

① エンジン始動時からの走行距離（km）
② エンジン始動時からの経過時間（h）
③ エンジン始動時からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動時からの平均燃費（km/l）

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

エンジン始動時からの情報は、以下のときに自動的にリセットされます。

- エンジンスイッチを **0** の位置にしてから、またはキーを抜いてから約 4 時間経過後
- リセットから 999 時間経過後
- リセットから 9,999km 走行後

エンジン始動時からの情報を表示させる

▶ エンジン始動時からの情報が表示されるまで、[ボタン] または [ボタン] を押します。

エンジン始動時からの情報を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報は手動でリセットすることもできます。

▶ エンジン始動時からの情報が表示されているときに、リセットボタン（▷116 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

リセット時からの情報表示

① リセット時からの走行距離（km）
② リセット時からの経過時間（h）
③ リセット時からの平均速度（km/h）
④ リセット時からの平均燃費（km/l）

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報を表示させる

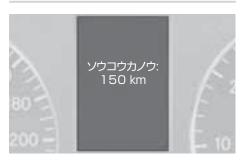
▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます。

▶ リセット時からの情報が表示されるまで、[▲] または [▼] を押します。

リセットする

▶ リセット時からの情報が表示されているときに、リセットボタン（▷116 ページ）を押し続けます。

ℹ リセット後、リセット時からの情報は、9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

走行可能距離表示

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離を表示させる

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます（▷134 ページ）。

▶ 走行可能距離が表示されるまで、[▲] または [▼] を押します。

! 表示される走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、以下のメッセージが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ℹ COMAND システムには Bluetooth® により携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

⚠ **警 告**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話を発信しないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

ℹ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

電話メニューを表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電話メニューを表示させます。

マルチファンクションディスプレイに " マチウケ " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [ボタン] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [ボタン] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [ボタン] を押します。

ℹ 上記の操作は電話画面を表示していないときも行なうことができます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ℹ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話やメモリーカードからデータをダウンロードできます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

▶ [電話] または [電話] を押して、電話メニューを表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、電話帳を呼び出します。

▶ [△] または [▽] を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ℹ [△] または [▽] を押し続けると、はじめの 7 件目までは 1 件づつ表示されます。

[△] または [▽] をさらに押し続けると、8 件目からは五十音順またはアルファベット順の先頭のデータが表示されます。

▶ [発信] を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" ハッシン ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前も表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ℹ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに [△] または [▽] を押して電話番号を選択してから、[発信] を押すと発信されます。

ℹ ステアリングの [終話] スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ [電話] または [電話] を押して、電話メニューを表示させます。

▶ COMAND ディスプレイに " マチウケ " と表示されているときに、[発信] を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ [△] または [▽] を押して、発信先を選択します。

▶ [発信] を押します。

オフロード走行装備

クロスカントリーギア

⚠ 警 告

駐車するときは、トランスファーをニュートラルにしないでください。オートマチックトランスミッションのセレクターレバーが P に入っていても、トランスファーが固定されないため、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警 告

トランスファーの操作を開始してすぐのときは、トランスファーの切り替えが完全に完了していません。クロスカントリーギアはニュートラルになり、エンジンとドライブアクスルの間での動力の伝達は行なわれません。トランスミッションのギアが入っていても、急な坂道では車両が動き出すおそれがあり、事故の危険性があります。

クロスカントリーギアの操作を行なったときは、切り替えが完全に完了するまで待ってください。また、トランスファーが切り替わっている間は、エンジンを停止したり、オートマチックトランスミッションのギアを変速しないでください。

マルチファンクションディスプレイに表示される関連するメッセージにも注意してください。

急勾配の走行や渡河時、トレーラーをけん引するときなど、強い駆動力を必要とする場合は、トランスファーをローレンジにします。

ローレンジにすると、駆動力が強くなり、ハイレンジに比べて速度が約 1/2 になります。

クロスカントリーギアの操作

① ギアレンジ表示
② トランスファー表示

ギアレンジ表示①とトランスファー表示②は、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

トランスファースイッチは、センターコンソール下部にあります。

トランスファースイッチ

ローレンジにする

! トランスファーの切り替え操作は以下のときにのみ行なってください。

- エンジンがかかっている
- セレクターレバーが N に入っている
- 約 40km/h 以下で走行している

トランスファーを損傷するおそれがあります。

▶ トランスファースイッチの "LOW" を押します。

トランスファーの切り替えが完了すると、マルチファンクションディスプレイのトランスファー表示②に "L" と表示されます。

▶ セレクターレバーを D に入れます。

ハイレンジにする

! トランスファーの切り替え操作は以下のときにのみ行なってください。

- エンジンがかかっている
- セレクターレバーが N に入っている
- 約 70km/h 以下で走行している

トランスファーを損傷するおそれがあります。

▶ トランスファースイッチの "HIGH" を押します。

トランスファーの切り替えが完了すると、マルチファンクションディスプレイのトランスファー表示②に "H" と表示されます。

トランスファーの切り替えが完了していないときは、マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

- " ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽﾉ ｼﾌﾄ ｼﾞｮｳｹﾝ ﾌｼﾞｭｳﾌﾞﾝ "

  クロスカントリーギアのシフト条件を 1 つ以上満たしていない

- " ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽ ﾆｭｰﾄﾗﾙ "

  トランスファーの切り替え操作が中断され、クロスカントリーギアがニュートラルになっている。マルチファンクションディスプレイのトランスファー表示②に "N" と表示される

- " ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽﾉ ｼﾌﾄ ﾌﾟﾛｾｽ ﾁｭｳﾀﾞﾝ "

  トランスファーの切り替え操作が中断された

▶ 再度トランスファーの切り替え操作を行ないます。

クロスカントリーギアのシフト条件をすべて満たしていることを確認してください。

- " ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ "

  トランスファーに異常がある

▶ クロスカントリーギアの切り替え操作を行なわないでください。

▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トランスファーをニュートラルにする

けん引されるときなどは、駆動装置の損傷を避けるため、トランスファーをニュートラルにします。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ セレクターレバーを N に入れます。

▶ ローレンジのときにトランスファースイッチの "LOW" を約 30 秒間押し続けます。

または

▶ ハイレンジのときにトランスファースイッチの "LOW" または "HIGH" を約 30 秒間押し続けます。

トランスファーの切り替えが完了すると、マルチファンクションディスプレイのトランスファー表示②に "N" と表示されます。

ℹ トランスファーがニュートラルでパーキングブレーキが解除されているときに運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに " トランスファ ケース ニュートラル " と表示され、警告音が鳴ります。

ニュートラルを解除する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ セレクターレバーを N に入れます。

▶ トランスファースイッチの "HIGH" または "LOW" を約 30 秒間押し続けます。

トランスファーが接続されます。トランスファーの切り替えが完了すると、マルチファンクションディスプレイのトランスファー表示②に "H" または "L" と表示されます。

ディファレンシャルロック

ディファレンシャルロックは、センターデフ、リアデフ、フロントデフをロックすることにより、空転した車輪以外の車輪に駆動力を伝える機能です。

以下のときにスイッチを操作して、ディファレンシャルロックをオンにしてください。

- 岩石路や脱輪時など、片輪が宙に浮き、走行できなくなったとき
- 片輪が雪上にあり、他の車輪がアスファルト上にあるなどで脱出できなくなったとき

! トランスファーケースの損傷を避けるため、車をシャシーダイナモ上で動かすときは、必ず一軸シャシーダイナモのみを使用し、以下の事項を守ってください。

- 駆動アクスル以外を持ち上げる

または

- プロペラシャフトを外す

さらに

- センターディファレンシャルロックをオンにする

トランスファーケースを損傷するおそれがあります。

⚠ **警 告**

- 緊急時の脱出以外は、雪道や凍結路でディファレンシャルロックを使用しないでください。またディファレンシャルロックをオンにしたときは、急発進をしないでください。車の向きが急に変わり事故を起こすおそれがあります。
- ディファレンシャルロックをオンにしたまま舗装道路や固い路面を走行しないでください。差動機構がロックされて左右輪が等速で回転するため、旋回時でも直進しようとする力が強く作用し、急激に直進状態に戻ることがあり、事故を起こすおそれがあります。
- コーナリング中にディファレンシャルロックの操作を行なわないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- ディファレンシャルロックをオンにすると、ABS、4ETS、ESP®、BAS の機能が解除されます。

! ディファレンシャルロックは緊急時の脱出などに使用した後はただちに解除してください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

ディファレンシャルロックをオンにする

①	作動表示灯（赤色）
②	フロントアクスルディファレンシャルロックスイッチ
③	センターディファレンシャルロックスイッチ
④	リアアクスルディファレンシャルロックスイッチ
⑤	表示灯（黄色）

! ディファレンシャルロックは以下のときにのみオンにしてください。

- 歩く程度の速度で走行しているとき
- 車輪が空転していないとき
- 舗装道路や固い路面を走行していないとき

ℹ ディファレンシャルロックは、センター→リアアクスル→フロントアクスルの順序でのみ、オンにすることができます。

センターディファレンシャルロックをオンにする

▶ センターディファレンシャルロックスイッチ③を押します。

スイッチ③下側の黄色の表示灯⑤が点灯します。

ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯します。

ディファレンシャルロックがオンになると、スイッチ③上側の赤色の作動表示灯①が点灯します。

マルチファンクションディスプレイに "ABS ｼﾖｳﾌｶﾉｳ ﾛｯｸ ｻﾚﾃｲﾏｽ DIFFERENTIAL LOCK" と表示されます。

ESP® オフ表示灯 [ESP OFF]、ESP® 表示灯 [ESP]、ABS 警告灯 [ABS] が点灯します。

センターディファレンシャルロックが機械的に作動します。

4ETS、ESP®、BAS、ABS の機能が解除されます。

ディファレンシャルロックをオンにしているときは、車両のステアリング操作が制限されます。十分に注意して走行してください。また、加速するときは、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。

ⓘ スイッチを押してから機械的に作動するまでは、若干の時間と多少の走行距離が必要な場合があります。

ⓘ センターディファレンシャルロックをオンにすると、リアアクスルディファレンシャルロック④をオンにできます。また、リアアクスルディファレンシャルロック④をオンにすると、フロントアクスルディファレンシャルロック②をオンにすることができます。

リアアクスルディファレンシャルロックをオンにする

▶ リアアクスルディファレンシャルロックスイッチ④を押します。

最初にスイッチ下側の黄色の表示灯が点灯し、その後スイッチ上側の赤色の作動表示灯①が点灯します。

リアアクスルディファレンシャルロックが機械的に作動します。

フロントアクスルディファレンシャルロックをオンにする

▶ フロントアクスルディファレンシャルロックスイッチ②を押します。

最初にスイッチ下側の黄色の表示灯が点灯し、その後スイッチ上側の赤色の作動表示灯①が点灯します。

フロントアクスルディファレンシャルロックが機械的に作動します。

ディファレンシャルロックを解除する

ディファレンシャルロックは、フロントアクスル→リアアクスル→センターの順序で解除することができます。

ⓘ リアアクスルディファレンシャルロックを解除すると、フロントアクスルディファレンシャルロックが自動的に解除されます。

ⓘ センターディファレンシャルロックを解除すると、すべてのディファレンシャルロックが自動的に解除されます。

すべてのディファレンシャルロックを解除する

▶ センターディファレンシャルロックスイッチ③を押します。

スイッチ下側の表示灯が消灯します。ディファレンシャルロックが機械的に解除されると、スイッチ上側の作動表示灯①が消灯します。

通常の走行状況では、約 3 秒後に ABS、4ETS、ESP®、BAS が 待 機 状態になります。

マルチファンクションディスプレイの "ABS ｼﾖｳﾌｶﾉｳ ﾛｯｸ ｻﾚﾃｲﾏｽ DIFFERENTIAL LOCK" の表示が消え、ESP® オフ表示灯 、ABS 警告灯 、ESP® 表示灯 が消灯します。

赤色の作動表示灯①が消灯しないときは、ディファレンシャルロックが解除されていません。

▶ 路面と天候の状態に合わせて走行してください。

▶ 走行しながら、ステアリング操作をゆっくり行なってください。

しばらく走行すると、作動表示灯が消灯し、ディファレンシャルロックが解除されます。

! ディファレンシャルロックを解除しても作動表示灯が消灯しないときは、ステアリングを大きくまわさないでください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

ⓘ スイッチを押してから機械的に解除されるまでは、若干の時間と多少の走行距離が必要な場合があります。

ディファレンシャルロックの使いかた

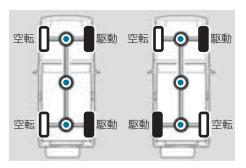
前輪の片側が空転しているとき

センターディファレンシャルロックをオンにします。

後側の 2 輪に駆動力が伝わります。

後輪の片側が空転しているとき

センターディファレンシャルロックとリアアクスルディファレンシャルロックをオンにします。空転していない他の 3 輪（前側の 2 輪と後輪の片輪）に駆動力が伝わります。

前後輪の片側が空転しているとき

すべてのディファレンシャルロック（センターディファレンシャルロック、リアアクスルディファレンシャルロック、フロントアクスルディファレンシャルロック）をオンにします。

空転していない他の 2 輪（前輪の片側と後輪の片側）に駆動力が伝わります。

走行装備

クルーズコントロール

クルーズコントロールを設定することにより、アクセルペダルを踏まなくても、設定速度を自動的に維持して走行できます。

クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

設定できる速度は 30km/h 以上です。

⚠ 警 告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警 告

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

クルーズコントロールを使用しているときは、運転者は常に道路状況に注意を払ってください。

⚠ **警告**

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の走行速度を維持できない道路･交通状況の場合（交通量が多い場合やカーブが連続している場合）。事故を起こすおそれがあります。
- 路面が滑りやすい場合。ブレーキや加速により駆動輪がグリップを失い、車がスリップするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪などで視界が確保できない場合。

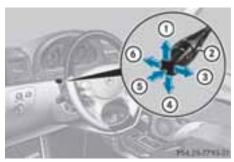
! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷246 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では速度を維持するためにシフトダウンすることがありますが、設定した速度を維持できないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、走行速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ⓘ クルーズコントロールの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

クルーズコントロールを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールは、可変スピードリミッター（▷147 ページ）と同じレバーで操作します。

▶ 表示灯②が消灯していることを確認します。

表示灯が点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押します。

表示灯が消灯します。

クルーズコントロールは、約 30km/h 以上の速度で走行しているときに設定できます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したときに、レバーを①か④の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

▶ アクセルペダルから足を放します。

自動的に設定速度を維持しながら走行します。

⚠ **警告**

記憶されている設定速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速または減速することにより、事故を起こすおそれがあります。

ⓘ 上り坂などを走行するときは、設定した速度を維持できないことがありますが、路面が平坦になると、設定した速度に戻ります。

ⓘ クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

ⓘ 以下のときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

- 走行速度が約 30km/h 以下のとき
- ESP® の機能が解除されているとき

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に上げ続けます。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを④の方向に下げ続けます。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ℹ レバーを④の方向に下げて減速しているときに、シフトダウンすることがあります。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを⑥の方向に押します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯が点灯して、可変スピードリミッターの操作ができる状態になります。

以下のときも、クルーズコントロールは解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや ESP® の機能を解除したとき
- セレクターレバーを N に入れたとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " クルーズ コントロール オフ " と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

⚠ **警 告**

走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターを設定することにより、アクセルペダルを踏んでも、設定速度を超えないように走行できます。

設定できる速度は 30km/h から 210km/h までの間です。

ℹ トランスファーがローレンジになっているときは、設定できる速度の上限が 100km/h になります。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 車種や仕様により、設定できる速度が異なる場合があります。

⚠ **警 告**

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ **警 告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

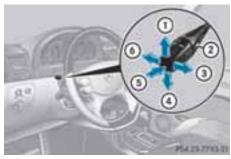
⚠ **警 告**

走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

❗ マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷246 ページ）をご覧ください。

❗ 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、走行速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ℹ 可変スピードリミッターの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

可変スピードリミッターを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターは、クルーズコントロール（▷144 ページ）と同じレバーで操作します。

▶ 表示灯 ② が点灯していることを確認します。

表示灯が消灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

表示灯が点灯します。

⚠ **警 告**

運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定速度を伝えてください。

可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターは設定速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

可変スピードリミッターを設定しているときは、以下の操作を行なったときにのみ、設定速度以上の速度にすることができます。

- レバーを操作する
- アクセルペダルを踏んでキックダウンさせる

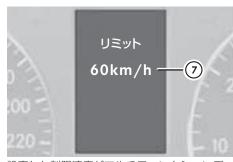
ブレーキ操作により、可変スピードリミッターを解除することはできません。

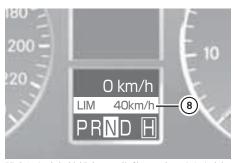
▶ レバーを①または④の方向に操作します。

- 走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

- 記憶されている前回の設定速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

設定した制限速度がマルチファンクションディスプレイに表示された例
⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が表示されます。

設定した走行情報表示に移動し、表示された例
⑧ 設定速度

設定速度の表示は、数秒後に走行情報表示に移動します。

⚠ **警告**

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。

記憶されている前回の設定速度が走行速度より低いときは、前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に操作します。

10km/h 単位で設定速度が上がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを④の方向に操作します。

10km/h 単位で設定速度が下がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを⑥の方向に押します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯が消灯して、クルーズコントロールが操作できる状態になります。

⚠ **警告**

ブレーキ操作により、可変スピードリミッターを解除することはできません。

以下のときも、可変スピードリミッターは解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、キックダウンしても解除されません。

- エンジンを停止したとき

パークトロニック

⚠ **警 告**

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

⚠ **警 告**

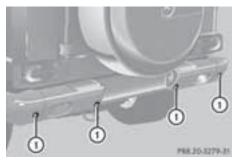
車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

リアバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

パークトロニックは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。車両後部と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

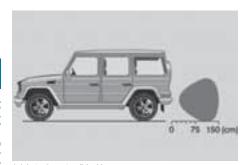
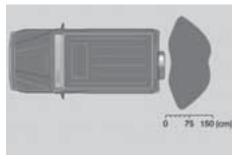
パークトロニックは、エンジンスイッチが **2** の位置で、セレクターレバーが **R** に入っているときに自動的に作動します。

リアバンパーの 4 個のセンサーが障害物などを感知します。

パークトロニックセンサー

① センサー

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。このときは、パークトロニックを作動させたときに警告音が鳴り続けることがあります。

! センサーに傷や損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください（▷229 ページ）。

センサーの感知範囲

側方から見た感知範囲

上方から見た感知範囲

	センサー感知範囲
中央	約 150cm ～ 30cm
コーナー	約 100cm ～ 30cm

! センサーは、約 30cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! スペアタイヤカバーはリアバンパーより後ろに位置しているため、パークトロニックが知らせる距離よりも、実際の障害物との距離が短くなります。十分注意してください。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 路面が平坦でないときは、パークトロニックは正常に作動しないことがあります。

インジケーター

インジケーター①②はテールゲートの右側上部にあります。

インジケーター①には、黄色インジケーターが 4 個、赤色インジケーターが 2 個あります。

パークトロニックが作動すると、警告音が 1 回鳴り、インジケーター①②が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動

感知範囲に障害物が入ったとき

黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯するインジケーターの数が増えていきます。

- 4 個目の黄色インジケーターが点灯すると、警告音が断続的に鳴ります。

障害物との距離が近くなったとき

- 黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音の間隔が短くなります。
- 最短感知距離（約 20cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に鳴ります。

パークトロニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
車が後退しているときに警告音が鳴る。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷229 ページ）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷153 ページ）。
車が後退しているときに警告音が鳴る。または、セレクターレバーを **R** に入れたときに警告音が鳴らず、パークトロニックのインジケーターも点灯しない。	パークトロニックの故障により、機能が停止している。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ 警 告

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。ウインドウが曇って事故を起こすおそれがあります。

環 境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ⓘ 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとスライディングルーフを開くことができます（▷102 ページ）。

ⓘ 除湿された水分は車体下方に排水されます。

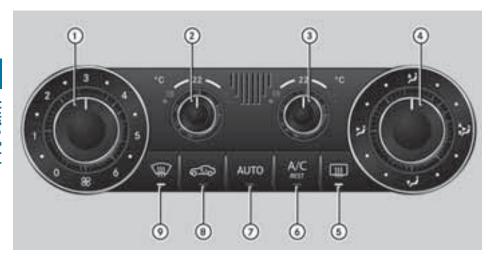
ⓘ ドアウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を維持することができません。

ⓘ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

ⓘ エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

ⓘ エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減少します。

コントロールパネル

	名称
①	送風量調整ダイヤル
②	送風温度調整ダイヤル（左側）
③	送風温度調整ダイヤル（右側）
④	送風口選択ダイヤル
⑤	リアデフォッガースイッチ
⑥	AC スイッチ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑦	AUTO スイッチ
⑧	内気循環スイッチ
⑨	デフロスタースイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた

エアコンディショナーを作動させる

▶ 送風量調整ダイヤル ① が 0 の位置でエアコンディショナーが停止しているときに、送風量調整ダイヤル ① を 0 以外の位置にします。

または

▶ AUTO スイッチ AUTO を押します。

エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ℹ エンジンの始動直後は、設定にかかわらず、約 30 秒間足元にも送風されます。

エアコンディショナーを停止する

▶ 送風量調整ダイヤル ① を 0 の位置にします。

エアコンディショナーが停止します。

ℹ エアコンディショナーが停止しているときは、送風や内気循環も停止します。ドアウインドウやスライディングルーフが閉じているときは、エアコンディショナーの停止は一時的にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなります。

ℹ 送風量調整ダイヤルが 0 の位置でエアコンディショナーが作動しているときは、送風量調整ダイヤルを一度 0 以外の位置にしてから、再度 0 の位置にするとエアコンディショナーは停止します。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになります。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ [A/C REST] を押します。

AC スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ 再度、AC スイッチ [A/C REST] を押します。

AC スイッチの表示灯が点灯します。

⚠ **警 告**

ドアウインドウとスライディングルーフが閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

環 境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ℹ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

ℹ デフロスターモード（▷159 ページ）を解除したときは、自動的に AC モードになります。

ℹ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

AC モードのトラブル

AC スイッチ [A/C REST] を押しても、スイッチの表示灯が点灯しなかったり、点滅するときは、故障のため AC モードが解除されています。除湿 / 冷房された空気を送風することはできません。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

AUTO モード

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ AUTO を押します。

AUTO スイッチ AUTO と AC スイッチ A/C REST の表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

ℹ エアコンディショナーを AUTO モードで作動させると、自動的に AC モード（▷157 ページ）に設定されます。

AUTO モードを解除する

▶ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、AUTO スイッチ AUTO を押します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯し、AUTO モードが解除されます。

送風量の調整や送風口の選択を手動で行なうことができます。

送風温度の調整

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ②③ を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ②③ を反時計回りにまわします。

ℹ 送風温度は左右別々に設定できます。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ ドアウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を維持できません。

ℹ 左右のリア中央送風口からの送風温度は、フロントの左右の送風温度の設定に連動します。

ℹ いずれかの側の送風温度をいっぱいまで上げたとき、または下げたときに、もう一方の側の送風温度も上がる、または下がることがあります。

送風口の選択

▶ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときは、AUTO スイッチ AUTO を押して AUTO モードを解除します。

▶ 送風口選択ダイヤル ④ をまわして、好みの送風口マークに合わせます。

送風口マーク	主に送風される送風口
[マーク]	フロントウインドウ送風口、フロントドアウインドウ送風口
[マーク]	すべての送風口
[マーク]	フロント足元送風口、リア足元送風口
[マーク]	中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口

ℹ ダイヤルをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。

ℹ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風量の調整

送風量を手動で調整することができます。

▶ エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときは、AUTOスイッチ AUTO を押してAUTOモードを解除します。

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル ① を時計回りにまわします。

送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル ① を反時計回りにまわします。

デフロスターモード

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ℹ デフロスターモードに設定しているときは、エアコンディショナーの他の設定はできません。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ を押します。

デフロスタースイッチ の表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- ACモードによる除湿／冷房が解除されます。
- エアコンディショナーの送風量が上がります。
- エアコンディショナーの送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とフロントドアウインドウ送風口を中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ を押します。

デフロスタースイッチ の表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

ただし、デフロスターモードに設定する前にACモードを解除していたときはACモードに、内気循環モードにしていたときは外気導入モードになります。

または

▶ AUTOスイッチ AUTO を押します。

AUTOスイッチ AUTO の表示灯が点灯し、デフロスタースイッチ の表示灯が消灯します。

エアコンディショナーがAUTOモードで作動します。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ 中央送風口を閉じます。

▶ AUTO モードを解除しているときは、送風口選択ダイヤルをまわして、[icon] または [icon] の送風口マークに合わせます。

ℹ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

⚠ 警告

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。リアデフォッガーは、使用を開始してから数分後に自動的に停止します。

バッテリーの電圧が低下したときは、リアデフォッガーは停止します。

リアデフォッガーを使用する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ リアデフォッガースイッチ [icon] を押します。

リアデフォッガースイッチ [icon] の表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ [icon] を押します。

リアデフォッガースイッチ [icon] の表示灯が消灯します。

ℹ 外気温度が低いときは、車内が暖まるまではリアデフォッガーが作動しないことがあります。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガースイッチ [icon] の表示灯が点滅しているときは、バッテリーの電圧が低下しています。リアデフォッガーは短時間で停止したり、使用できなくなります。

▶ 読書灯やルームランプなど、必要でない電気装備を停止してください。

電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

⚠ 警告

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は一時的にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、視界が損なわれ、交通状況を把握することができずに事故の原因になります。

内気循環モードに設定する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ 内気循環スイッチ [内気循環] を押します。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が点灯します。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このときは内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯は点灯しません。

約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように自動的に外気導入を始めます。

外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ [内気循環] を押します。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が消灯します。

ℹ 内気循環モードのときに、AUTO モードやデフロスターモードにするか、AC モードを解除すると、外気導入モードになります。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーが抜いてあるときに使用できます。

ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。

ℹ 少ない送風量で一定に保たれます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ [A/C REST] を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ [A/C REST] の表示灯が点灯します。

▶ 送風温度調整ダイヤル②③で送風温度を設定します。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ [A/C REST] を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ [A/C REST] の表示灯が消灯します。

ℹ 以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションは自動的に停止します。

- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- エンジンスイッチを **2** の位置にしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- エンジン冷却水の温度が低下したとき

送風口の調整

⚠ **警 告**

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

車外の空気を車内に取り入れるために、以下の点に注意してください。

- ボンネットの吸気口が、氷や雪、葉などで覆われていないこと
- 車内の送風口や吸排気口が覆われていないこと

ⓘ 送風効率を上げるため、各送風口の向きが中央になるように調整してください。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまでまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

中央送風口の開閉

① 中央送風口（左側）
② 中央送風口（右側）
③ 送風口開閉ダイヤル（右側）
④ 送風口開閉ダイヤル（左側）

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル③④を右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル③④を左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

サイド送風口 / フロントドアウインドウ送風口の開閉

① フロントドアウインドウ送風口
② サイド送風口
③ 送風口開閉ダイヤル

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル③を右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル③を左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

リア中央送風口の開閉

① 送風口開閉ダイヤル
② リア中央送風口

センターコンソール後端部にリア中央送風口②があります。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル①を上方にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル①を下方にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方にまわすと、送風口が閉じます。

! リア足元送風口がフロントシートの下にあります。荷物などで送風口をふさがないでください。

送風口の風向き調整

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

スライディングルーフ

⚠ **警告**

スライディングルーフを開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチから手を放してください。スライディングルーフを自動で開いているときは、スイッチをいずれかの方向に操作して、スライディングルーフを停止させてください。

⚠ **警告**

子供が車内からスライディングルーフを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ **警告**

スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

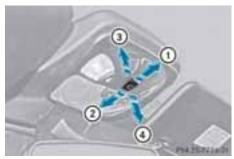
! スライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

i スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作で開閉することができます（▷101 ページ）。

スライディングルーフの開閉

① 開く
② 閉じる
③ チルトアップ
④ 閉じる / チルトダウン

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

▶ スイッチを①の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

①の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

ℹ スライディングルーフが自動で開いているときにスイッチを操作すると、その位置で停止します。

スライディングルーフを閉じる

▶ スイッチを②または④の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

スライディングルーフをチルトアップする

▶ スイッチを③の方向に操作します。

スライディングルーフをチルトダウンする

▶ スイッチを④の方向に操作します。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

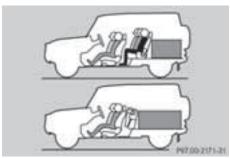
⚠ 警 告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を積むときは、「荷物を固定するとき」(▷171 ページ)もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故のときなどに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ 警 告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物を積むときの例
リアシートを使用したとき（上図）
リアシートを折りたたんだとき（下図）

荷物の積みかたは車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量(▷288 ページ)を超えないようにしてください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルームの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- ラゲッジルームに荷物に積むときは、リアシートのバックレストに接するようにしてください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 大きな荷物を積まないときは、リアシートのバックレストを起こして確実に固定し、ヘッドレストを装着してください。

- リアシートに人を乗せないときは、上図のように左右のシートベルトプレートを反対側のバックル①に差し込んで、シートベルトが交差するようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

- ウインドウに荷物が当たらないように注意してください。ウインドウガラスを破損したり、リアデフォッガーの熱線を損傷するおそれがあります。
- 荷物を積むときは、必ずセーフティネットを使用してください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ℹ 荷物固定用のアクセサリーは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

⚠ **警告**

荷物が収納されているときは、小物入れを必ず閉じてください。また、収納ネットは重い荷物を固定するためには設計されていません。

以下のときに荷物が投げ出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

収納ネットには、鋭利な角のある物やこわれやすい物を入れて運搬しないでください。

収納ポケットには、かたい物を入れて運搬しないでください。また収納ポケットの上部から、物がはみ出ないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

グローブボックスを開く

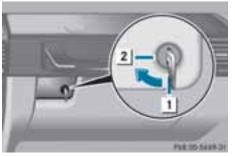
▶ ハンドル①を引き、カバー②を開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー②を押してロックします。

ℹ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

ℹ グローブボックス内には、メディアインターフェース・外部入力用端子があります。詳しくは別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

グローブボックスは、エマージェンシーキーを差し込んで施錠 / 解錠することができます。

1 解錠の位置
2 施錠の位置

グローブボックスを施錠する

▶ エマージェンシーキーを時計回りにまわし、施錠の位置 2 にします。

グローブボックスを解錠する

▶ エマージェンシーキーを反時計回りにまわし、解錠の位置 1 にします。

ℹ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。

その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

フロントシート下部の小物入れ

小物入れのカバーを開く

▶ ハンドル①を引いて、カバー②を前方に開きます。

フロントアームレスト / センターコンソールの小物入れ

フロントアームレスト上部の小物入れを使用する

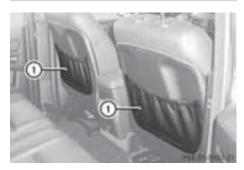
▶ 右側レバー①を押しながらフロントアームレストを持ち上げます。

フロントアームレスト下部の小物入れを使用する

▶ 左側レバー②を押しながらフロントアームレストを持ち上げます。

センターコンソールの小物入れを使用する

▶ カバー③を後方に引きます。

シートバックポケット

フロントシートの背面にシートバックポケット①があります。

> ⚠ **警 告**
>
> シートバックポケットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。

! リアシートのバックレストを倒しているときやリアシートを折りたたんでいるときは、フロントシートのバックレストを後方に倒すときに、シートバックポケットがリアシートに接触しないように注意してください。シートバックポケットの収納物やリアシートを損傷するおそれがあります。

収納ネット

助手席側の足元に新聞や雑誌などを収納できるネット①を装備しています。

> ⚠ **警 告**
>
> 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

分割可倒式リアシート

バックレストの左右いずれか一方、または両方を倒すことができます。

また、リアシートの左右いずれか一方、または両方を折りたたむことができます。

⚠ **警告**

- ラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- リアシートを折りたたんで荷物を積むときは、必ずセーフティネットを使用してください。

⚠ **警告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

① バックレストレバー
② シートレバー

バックレストを倒す

ℹ バックレストレバー①には、リアドアを開くと手が届きやすくなります。

▶ バックレストレバー①を矢印方向に引きます。

バックレストのロックが解除されます。

▶ バックレストを前方に倒してロックします。

バックレストを元の位置に戻す

▶ バックレスト背面を下方に押しながら、バックレストレバー①を引き上げてロックを解除します。

▶ バックレストを引き起こしてロックします。

❗ バックレストを元の位置に戻すときは、シートベルトが挟み込まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。

リアシートを折りたたむ

▶ バックレストを前方に倒してロックします。

▶ シートレバー②を引きます。

リアシートのロックが解除されます。

▶ リアシートの後部に手をかけて引き起こし、前方に折りたたみます。

❗ リアシートを折りたたむときは、身体や物などを挟まないように注意してください。

! リアシートを折りたたむときは、フロントシートの位置を前方に移動し、バックレストを起こしてください。シートを損傷するおそれがあります。

リアシートを元の位置に戻す

▶ シート後部を下げてロックします。

▶ バックレストを元の位置に戻します。

⚠ 警 告

走行する前に、シートおよびバックレストが確実にロックされていることを確認してください。

シートおよびバックレストが確実にロックされていないと、以下のときにシートが前方に移動したり、荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

i リアシートを起こした状態でセーフティネットを脱着するときは、バックレストを起こしたままシートレバーを引いて、リアシートを前方に倒します。

荷物を固定するとき

安全上の注意事項

⚠ 警 告

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。

以下のときにシートが荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

荷物を積むときは、「荷物を積むときの注意点」（▷166 ページ）もご覧ください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるロープやネットを使用しないでください。それらは軽い荷物を固定することしかできません。
- 伸縮率 7 % 以下および耐荷重張力 714kg（600daN）以上の擦れに強く丈夫なロープやストラップ、ネットを使用してください。
- 固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物固定用リングに均等に力がかかるようにしてください。
- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。

- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もご覧ください。

荷物固定用リング

P68.20-6957-31

ラゲッジルームには 4 個の荷物固定用リングがあります。

セーフティネット

走行中に荷物が前方に投げ出されるのを防ぐために使用します。

リアシートを起こした状態、折りたたんだ状態のどちらでも使用できます。

> ⚠ **警 告**
>
> セーフティネットを使用したときは、セーフティネットが上下の取り付け部に確実に固定されていることを確認してください。
>
> 損傷したセーフティネットは使用しないでください。
>
> セーフティネットでは重い荷物を固定できません。重い荷物は確実に固定してください。荷物が確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
>
> セーフティネットを使用したときは、セーフティネットの後方に乗車しないでください。

リアシートを起こした状態で使用する

P68.10-2508-31

▶ バックレストを起こしたまま、リアシートを前方に倒します（▷170 ページ）。

ⓘ リアドアを開いておくと、セーフティネットの着脱がしやすくなります。

▶ ストラップ④のバックル③が前方を向くようにして、セーフティネット①をリアクォーターウインドウ上方の取り付け部②にかけます。

▶ バックル③でストラップ④の長さを調整し、フック⑤をリング⑥にかけます。

▶ ストラップ④の先端を引き、セーフティネット①が軽く張る程度に調節します。

▶ リアシートを元の位置に戻し、ロックさせます。

▶ 少し走行した後に、セーフティネットの張り具合を点検してください。必要があれば締めなおしてください。

ℹ リアシートを起こした状態で使用するリングは、リアホイールアーチ前方にあります。

リアシートを折りたたんだ状態で使用する

▶ リアシートを折りたたみます（▷170 ページ）。

▶ ストラップ④のバックル③が後方を向くようにして、セーフティネット①をリアドアウインドウ上方の取り付け部②にかけます。

▶ バックル③でストラップ④の長さを調節し、フック⑤をリング⑥にかけます。

▶ ストラップ④の先端を引き、セーフティネット①がぴったりと張るように調節します。

! リアシートを折りたたんだ状態でセーフティネットを使用するときは、ストラップを強く締めてください。

▶ 少し走行した後に、セーフティネットの張り具合を点検してください。必要があれば締めなおしてください。

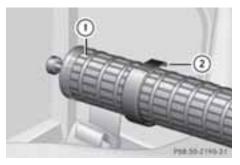
ℹ リアシートを折りたたんだ状態で使用するリングは、リアシート下にあります。

セーフティネットを取り外す

▶ リアシートを起こした状態でセーフティネットを使用しているときは、リアシートを前方に倒します (▷170 ページ)。

▶ バックルを上方に倒してストラップをゆるめ、フックをリングから外します。

▶ セーフティネットを取り付け部から外します。

セーフティネットを収納する

▶ セーフティネット①を巻きます。

▶ 付属のベルクロストラップ②で固定します。

▶ リアシートの後側に収納します。

ルーフラック

⚠ 警告

- 推奨品以外のルーフラックを取り付けると、車から外れて荷物が投げ出されて、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。
- ルーフの最大積載量（約 200kg）を超えないように注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分に注意してください。

! ルーフラックは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- スライディングルーフをチルトアップしたときに接触しないこと
- ルーフ前部のアンテナに接触しないこと

ルーフラックの装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をご覧ください。

室内装備

カップホルダー

カップホルダーはグローブボックスのカバーの裏側にあります。

カップホルダーを使用する

▶ グローブボックスのカバーを開きます。

ℹ グローブボックスは施錠 / 解錠することができます。

⚠ 警告

荷物が収納されているときは、走行中は必ず小物入れを閉じてください。以下のときに物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。飲み物がこぼれるおそれがあります。熱い飲み物のためにカップホルダーを使用しないでください。火傷をするおそれがあります。

! カップホルダーに飲み物が入った容器を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

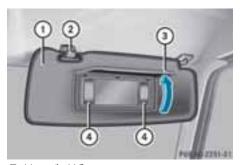
スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

! カップホルダーに飲み物の容器以外のものを置かないでください。

サンバイザー / バニティミラー

⚠ 警 告

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により交通状況の視認が損なわれ、事故の原因になります。

サンバイザーを使用する

① サンバイザー
② フック
③ バニティミラーカバー
④ 照明

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ サンバイザー①をフック②から外します。

▶ サンバイザー①を横にまわします。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ バニティミラーカバー③を上方に開きます。

照明④が点灯します。

灰皿

! 吸いがらやマッチの火は確実に消して、使用後はカバーを閉じてください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

フロントの灰皿

フロントの灰皿はセンターコンソールにあります。

灰皿を開く

▶ カバー③を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー③を前方に押して閉じます。

灰皿を取り外す

⚠ 警告

灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせて、車が動き出さないようにしてください。

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーを N に入れます。

▶ ノブ②を矢印の方向にいっぱいまで押します。

灰皿 ① が上がります。

▶ 灰皿 ① を取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ① を押し込みます。

リアの灰皿

リアの灰皿は左右のリアドアにあります。

灰皿を開く

▶ カバー ② の上部を手前に引きます。

灰皿を閉じる

▶ カバー ② を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿をいっぱいまで開きます。

▶ プレート ① を押しながら、灰皿 ③ を手前に引き出します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿の底部を合わせ、プレート ① を押しながらはめ込みます。

! 灰皿を取り付けるときに、指などを挟まないように注意してください。

ライター

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ カバー ② を軽く押して開きます。

▶ ライター ① を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

⚠ **警 告**

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。また、ライターが過熱して火災が発生するおそれがあります。

! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電力 180W 以下の規格に合った純正アクセサリーだけを使用してください。

12V 電源ソケット

助手席足元とセンターコンソール後端部、ラゲッジルーム左側に 12V 電源ソケットがあります。

電気製品などの電源として使用できます。

! 必ず DC12V、最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! ソケット内に指などを入れたりライターを差し込まないでください。感電したり、ショートするおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になります。

助手席足元の 12V 電源ソケット

▶ カバーを上方に開きます。

ℹ ライターソケットも 12V 電源ソケットとして使用できます。

センターコンソール後端部の 12V 電源ソケット

▶ カバーを上方に開きます。

ラゲッジルーム左側の 12V 電源ソケット

▶ カバーを上方に開きます。

フロアマット

⚠ 警告

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

慣らし運転…………………………… 182
燃料の給油…………………………… 183
エンジンルーム……………………… 187
タイヤとホイール…………………… 199
寒冷時の取り扱い…………………… 205
走行時の注意………………………… 207
オフロード走行……………………… 214
メンテナンス………………………… 222
日常の手入れ………………………… 224

慣らし運転

⚠ **警告**

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも同様です。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 3、2、1 は山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

G 55 AMG long は、以下の注意事項を守ってください。

- 最初の 1,500km までは走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

※ 公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。
- 最初の 3,000km でフロント / リアアクスルオイルの交換を行なうまではオフロード走行を避けてください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ⓘ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ⓘ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ 警 告

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。

⚠ 警 告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 警 告

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② タイヤ空気圧ラベル
③ 使用燃料表示
④ ホルダー

燃料給油フラップは、リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。メーターパネル内に、給油口の位置を示す [⛽] が表示されています。

燃料給油口を開いて給油する

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

▶ 燃料給油フラップを開きます。

▶ キャップを反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにゆっくりまわして外します。

▶ 外したキャップを燃料給油フラップの裏側にあるホルダー ④ に置きます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止してください。

! 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

燃料給油口を閉じる

▶ キャップを燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

キャップがロックする音が聞こえます。

▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。
- 軽油を燃料として使用したり、燃料に混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料供給系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル②が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷202 ページ）をご覧ください。

ℹ リモコン操作で燃料給油フラップが解錠されないときは、手動で解錠できます（▷253 ページ）。

燃料と燃料タンクのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 ▶ リモコン操作で解錠してください。 または ▶ エマージェンシーキーで車を解錠してください（▷252 ページ）。 ▶ テールゲートを開いてください。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷253 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されるが、燃料給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷253 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンルーム

ボンネット

 警 告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

警 告

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

警 告

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

警 告

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが **2** の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

警 告

エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

警 告

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜き、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください（▷97ページ）。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

▶ ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認します。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を引きます。

▶ ボンネットを少し引き上げて、ボンネットとラジエターグリルの隙間に手を入れ、ノブ ② を矢印の方向に押しながらボンネットを開きます。

※ 車種や仕様により、ノブを手前に引きながらボンネットを開くタイプもあります。

! エンジンがかかっているときなど、ノブ ② が熱くなっている場合がありますので注意してください。

ボンネットを閉じる

> ⚠ **警告**
>
> 走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

> ⚠ **警告**
>
> ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm ～ 30cm の位置で手を放して閉じます。

▶ ボンネットが確実に閉じていることを確認します。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

エンジンルーム

⚠ **警 告**

- イグニッションシステムや燃料噴射システム、キセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

G 550 long

①	ウォッシャー液リザーブタンク	198
②	冷却水リザーブタンク	195
③	ブレーキ液リザーブタンク	197
④	エンジンオイルフィラーキャップ	193
⑤	エンジンオイルレベルゲージ	191

※ 仕様により、部品の形状などがイラストと異なる場合があります。

G 55 AMG long

①	ウォッシャー液リザーブタンク	198
②	冷却水リザーブタンク	195
③	ブレーキ液リザーブタンク	197
④	エンジンオイルフィラーキャップ	193

※ 仕様により、部品の形状などがイラストと異なる場合があります。

環 境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

⚠ **警告**

エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。また、ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所で行なってください。

! 適切な工具を使用してください。

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、ただちに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

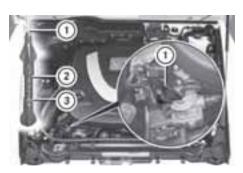
エンジンオイル量に関する注意

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイルの量を点検する（G 550 long）

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分間経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限②と下限③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイル量が下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷245 ページ）をご覧ください。

i エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、約 2 リットルです。

エンジンオイルの量を点検する（G 55 AMG long）

マルチファンクションディスプレイでエンジンオイル量を点検します。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分間経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報の基本画面を表示させます（▷121 ページ）。

▶ [▲] または [▼] を押して、エンジンオイル量点検画面を表示させます。

" エンジ゛ン オイルレベ゛ル ソクテイチュウ ソクテイ ハ シャリョウ スイヘイジ゛ ノミ カノウ " と表示され、数秒後に以下のいずれかの点検結果が表示されます。

ⓘ エンジンを停止してからの待ち時間が足りないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｼﾞｭﾝｼｭ" と表示されます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ" と表示されたときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。

このときは、エンジンオイル量は適正です。

このときは、エンジンオイル量が不足しています。

表示される数値に従ってエンジンオイルを補給してください。

ⓘ 補給するエンジンオイル量に応じて、表示される数値が変わります。

このときは、エンジンオイルが多すぎます。

走行しないで、エンジンオイルの量を適正にしてください。

! エンジンオイルが多すぎると、エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

このときは、エンジンオイルレベルが安定していません。

約 5 分ほど待ってから点検をやり直してください。

再度マルチファンクションディスプレイに "ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｼﾞｭﾝｼｭ" と表示されたときは、約 30 分ほど待ってから点検をやり直してください。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷245 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ℹ エンジンがかかっているときは、エンジンオイル量を点検できません。マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｴﾝｼﾞﾝ ｵﾌﾉﾄｷ" と表示されます。

エンジンオイルを補給する

⚠ **警 告**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

環 境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

G 550 long

G 55 AMG long

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。

エンジンオイルフィラーキャップが確実に取り付けられていることを確認します。

❗ エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときは、エンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

❗ 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ 警告

冷却システムには圧力がかかっています。水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

不凍液をエンジンルームにこぼさないでください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の量を点検する

冷却水の量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが十分に冷えているときに行ないます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ メーターパネルの冷却水温度計で冷却水の温度が冷えていることを確認します（▷23 ページ）。

▶ リザーブタンク ② のキャップ①を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ①をさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

冷却水の液面がリザーブタンク内のマーカー ③ の上面に達していれば適量です。

冷却水が温かいときは、液面がマーカー ③ より約 1.5cm 上にあれば適量です。

▶ 必要であれば、冷却水を補給します。

▶ キャップ①を合わせ、いっぱいまで時計回りにまわします。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク ② のキャップ①を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ①をさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷243、244 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- 冷却水温度警告灯が点灯し、警告音が鳴る。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ **警告**

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ **警告**

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください。

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷195 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷242 ページ）、ブレーキ警告灯（▷248 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

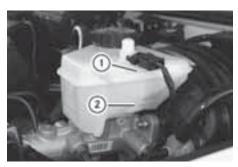
⚠ **警 告**

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ **警 告**

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷242 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

▶ ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーター上限 ① と下限 ② の間にあれば正常です。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ℹ **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

⚠ 警告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

ℹ ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ①を開きます。

▶ ウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ①を取り付けます。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（▷288 ページ）。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量の計測器を損傷するおそれがあります。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障／警告メッセージが表示されたときは（▷246 ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

安全に関する注意

⚠ **警 告**

純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着したり、タイヤやホイールを正しく装着しないと、車両の安全性を損なうおそれがあります。

ブレーキシステムやホイールを改造しないでください。また、スペーサーやダストシールドを使用しないでください。保証の適用外になります。

走行時の注意

- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石や障害物に接触しないようにしてください。

  縁石などを乗り越える必要があるときは、走行速度を落とし、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤの点検

タイヤを点検する

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

- タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを左側または右側にいっぱいまで切った状態で、タイヤの内側も点検してください。
- ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

- 応急用スペアタイヤも含め、タイヤの空気圧は定期的に点検してください。
- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤトレッド

⚠ 警 告

以下の点に注意してください。

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すみやかにに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを片方向に向けて、タイヤの内側も点検してください。

タイヤの選択、装着と交換

- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、車両操縦性やロードノイズ、燃料消費などに悪影響をおよぼすおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールと車体などが接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や BAS、ESP®、4ETS の効果がより発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

⚠ 警 告

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。十分なグリップを発揮できず、雪道や凍結路の走行に適さなくなります。これにより、車両のコントロールを失い、事故の原因になります。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路では、クルーズコントロールは使用しないでください。

! ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールをオイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

ⓘ ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警 告

ウィンタータイヤの装着時に、スペアタイヤを装着すると、タイヤのサイズと種類が異なるため、事故を起こすおそれがあります。

状況に合わせて慎重に運転してください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、スペアタイヤを新品のウィンタータイヤ / ホイールに交換してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! G 55 AMG long は、標準タイヤにスノーチェーンを装着しないでください。

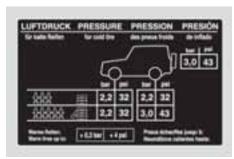
スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- 車種や仕様により、標準タイヤ、ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは（▷289 ～ 290 ページ）をご覧ください。
- 駆動力と車両操縦性を最大限に確保するため、スノーチェーンは 4 輪すべてに装着してください。

- スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。
- 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

ⓘ スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

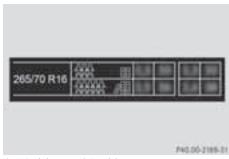
ⓘ ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

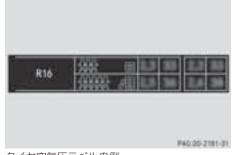
タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷183 ページ）。

装着されているタイヤのサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒ kg/cm²）」と「psi」で示しています。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤ空気圧ラベルにタイヤサイズが記載されている場合は、そのタイヤサイズに適合したタイヤ空気圧が記載されています。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤサイズの代わりに、"**16“**" や "**R16**" などのホイール外径で表示されていることもあります。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤサイズ表示の例

ホイール外径①はタイヤのサイドウォールのタイヤサイズ表示に記載されています。

環 境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

警 告

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

警 告

市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。それらを装着すると、バルブが常に開いた状態になるため、空気圧低下の原因になります。

警 告

タイヤの空気圧が何度も低下するときは以下のことを確認してください。

- タイヤに異物がささっていないこと
- ホイールやタイヤバルブから空気が漏れていないこと
- 純正品または承認されたバルブキャップが装着されていること

タイヤの空気圧が低いときは、車の安全性に悪影響を及ぼし、事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧の点検は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。周囲の気温や走行速度、路面温度などの影響によりタイヤの温度が約10℃変化すると、タイヤ空気圧は約10kPa（0.1bar / 1.5psi）変化します。

不適切なタイヤ空気圧は、タイヤに以下のような影響を与えます。

- タイヤ寿命の低下
- 損傷を受ける可能性の増加
- 車両操縦性への悪影響（ハイドロプレーニング現象など）

! 必ず法定速度を守って走行してください。

ℹ "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

ℹ 乗員人数や荷物の量に応じたタイヤ空気圧の記載がある場合は、記載内容に従ってください。

ℹ 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

ℹ 積載荷物が少ないときに、重い荷物に対応した空気圧に調整すると、乗り心地が悪くなることがあります。

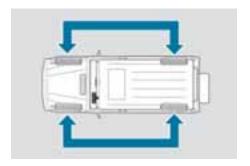
タイヤローテーション

⚠ **警 告**

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。

ホイールボルトの締め付けトルクは13kg-m（130Nm）です。タイヤローテーションを行なった後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に行なうと、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤローテーションを行なった後は、タイヤ空気圧を調整してください。タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

タイヤの保管

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃

! 高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。損傷したタイヤは必ず交換してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時の注意

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、ロックシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアウインドウ、スライディングルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

⚠ **警 告**

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

走行時の注意

滑りやすい路面での発進

! 車輪を空転させないように発進してください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

▶ 必要に応じてディファレンシャルロックをオンにしてください(▷141 ページ)。

エンジンを停止しての走行

⚠ 警告

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ 警告

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

下り坂を走行するとき

長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを効かせてください。

エンジンブレーキを併用することにより、ブレーキシステムへの負荷が減り、ブレーキの過熱を防ぐことができます。また、ブレーキの摩耗を防ぐことができます。

ブレーキペダルを踏み続けるのではなく、より強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

ℹ クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

ブレーキシステムに強い負荷がかかったとき

⚠ **警告**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

ブレーキに大きな負担がかかったときは、すぐに停車するのではなく、しばらく走行を続けてください。ブレーキシステムに風を当てることにより、より早く冷却することができます。

ブレーキを効かせずに長時間走行しているときなどは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

路面が濡れているとき

⚠ **警告**

滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

濡れた路面を走行しているときや洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

凍結防止剤について

凍結防止剤がまかれた道路を走行するときは、ブレーキディスクやブレーキパッドに塩類が付着してブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

このときは、後続車に注意しながらブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。さらに、先行車との車間距離を十分確保し、注意して走行してください。また、次回走行するときにも、ブレーキペダルを数回軽く踏み、残った塩類を落としてください。

ブレーキパッドについて

⚠ **警 告**

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも同様です。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

AMG 強化ブレーキシステムの注意事項

AMG 強化ブレーキシステムは、高い負荷に耐えられるように設計されています。

走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズが発生することがあります。

また、ブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いが高くなります。

! ブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

(!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります（エンジンスイッチが **1** の位置のときも点灯したままになります）。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷242 ページ）をご覧ください。

タイヤのグリップについて

⚠ 警 告

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

濡れた路面での走行

ハイドロプレーニング現象

一定以上の深さがある水たまりを走行するときは、以下の状態でも、ハイドロプレーニング現象が発生するおそれがあります。

- 走行速度を落としている
- タイヤトレッドの溝の深さが十分にある

できるだけ水たまりや轍を避け、ブレーキを効かせるときは注意してください。

道路が冠水しているときや車が水没したとき

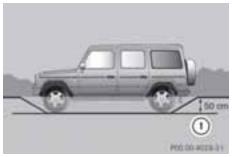
やむを得ず冠水した道路を走行するときは、以下の点に注意してください。

- 許容されている最大水深値は約 50cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。

! 前方を走行している車両や、すれ違う車両からも波が発生します。これにより、最大水深値を超えることがあります。

! 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

! 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

河川などを渡るとき

① 最大許容水深値

車種	最大許容水深値
全車	50cm

! 最大許容水深値を超えるところは絶対に走行しないでください。水流のあるところでは、最大許容水深値は低くなることがあります。

i 水の状態がきれいな場合にのみ走行することができます。

- 「オフロード走行」(▷214 ページ)および「オフロード走行時の注意」(▷215 ページ)の指示に従ってください。
- 走行前に水深と川底の状況を確認してください。
- エアコンディショナーをオフにしてください。
- ローレンジにしてください(▷139 ページ)。
- 必要に応じて、ディファレンシャルロックをオンにしてください(▷141 ページ)。
- ティップシフトでギアレンジ 1 か 2 を選択してください(▷112 ページ)。
- エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。
- 水に入るときと出るときは水平な場所を選択し、人が歩くくらいの速度で走行してください。

! 決して速度を上げながら水に入らないでください。波が立ち、エンジンや車体を損傷するおそれがあります。

- ゆっくりと一定の速度を保って走行してください。
- 河川を渡っている途中で停車しないでください。

! 河川を渡っている途中でドアを開かないでください。浸水すると、内装や電気装備を損傷するおそれがあります。

- 河川を渡っている途中で停車したり、エンジンを停止しないでください。水の中は抵抗が大きく、川底も滑りやすく不安定なため、発進が困難になります。
- 波が立たないように走行してください。
- 河川を渡った後は、タイヤの溝を洗浄し、付着した泥などを取り除いてください。
- 河川を渡った後は、ブレーキの効きが悪くなります。ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキパッドを乾かしてください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- クルーズコントロールを使用しないでください。

- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ 警 告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドライトを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやシートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

車の周囲が雪で覆われているとき

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いため、歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、エアコンディショナーを作動させてACモードを設定し、車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドライトやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドライトを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するため、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

オフロード走行

⚠ 警告

- 地形や路面の状況が把握できない悪路では低速で走行してください。障害物などを見つけやすくなり、事故の危険性を減らすことができます。
- 坂が急勾配で上り切れない場合は、Uターンせず、セレクターレバーを R の位置にして後退して下りてください。車が横転するおそれがあります。
- 斜面を斜めに走行しないでください。車が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングをまわし、姿勢を立て直してください。
- セレクターレバーを N の位置にしたままで走行しないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで走行速度を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。

⚠ **警 告**

- オフロード走行後は、ブレーキシステムに砂や汚れなどが付着して、過度の摩耗やブレーキの誤作動につながるおそれがあります。
- オフロード走行後にブレーキに汚れなどがあるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検と洗浄を行なってください。緊急時に十分なブレーキ力が得られなかったり、ブレーキが誤作動するおそれがあります。

⚠ **警 告**

車の損傷は事故の原因になります。損傷しているおそれがあるときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オフロードでの走行

車の特性や操縦性を知ることにより、安全に目的地に到達することができます。悪路走行の前に練習走行をされることをお勧めします。

オフロードを走行する前に以下の注意をご覧ください。

オフロードを走行するための特別装備には、以下ものがあります。

- 4ETS（▷54 ページ）
- クロスカントリーギア（▷138 ページ）
- ディファレンシャルロック（▷140 ページ）

オフロード走行時の注意

- 停車して、必要に応じてローレンジにしてください（▷139 ページ）。
- 必要に応じて、ディファレンシャルロックをオンにしてください（▷141 ページ）。

ℹ ディファレンシャルロックをオンにしているときは、ABS、ETS、ESP®、BAS の機能が解除されます。ブレーキを効かせると前輪が周期的にロックし、地面を掘る効果により、オフロードでの制動距離を短くすることができます。前輪がロックしているときは、車両操縦性が著しく低下します。

- 荷物が確実に収納されていること、または確実に固定されていることを確認してください。
- 常に十分な最低地上高を確保し、車の損傷を防いでください。
- 下り坂を走行するときは、エンジンを停止したり、セレクターレバーを N に入れないでください。
- 上り坂を走行するときは、エンジンを停止したり、セレクターレバーを N に入れないでください。
- 速度を上げないでください。必要に応じて、人が歩くくらいの速度で走行してください。
- 常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 地形や路面の状況が把握できないときや視界の悪いときは、走行する前に車から降りて、危険がないことを確認してください。

- やむを得ず河川などを渡るときは、走行前に水深や水の流れ、川底の状態を確認してください。
- 河川などを渡るときは、停車したりエンジンを停止しないでください。
- 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
- ドア、テールゲート、ドアウインドウ、スライディングルーフは常に閉じておいてください。
- クルーズコントロールや可変スピードリミッターは使用しないでください。
- 地形に応じた速度で走行してください。荒れた路面や急斜面、わだちが多い地形では、より低い速度で走行してください。
- 河川などを渡るときは、ゆっくりと一定の速度を保って走行します。波が立っていないことを確認してください。
- 砂地では、走行抵抗が大きいため、やや速度を上げて走行してください。車が砂地に埋まるおそれがあります。
- 駆動力が途切れないように、車をジャンプさせないでください。
- エンジンを高回転までまわさないようにし、適切なエンジン回転数で走行してください。

環 境

環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

オフロードを走行する前に

- エンジンオイル量を点検してください。必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷193 ページ）。急な傾斜地においてもエンジンに十分なエンジンオイルが供給されます。

! 走行中にエンジンオイル量に関する警告メッセージが表示されたときは、すみやかに安全な場所に停車してください。エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量に関する警告メッセージを無視しないでください。メッセージを表示したまま走行を続けると、エンジンを損傷するおそれがあります。

- ジャッキが正常に動くか点検してください。万一のためにけん引用ケーブルや折りたたみ式スコップなどを車に積んでおいてください。
- タイヤの溝の深さと空気圧を点検してください（▷199 ページ）。
- 損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。
- バルブキャップが紛失している場合は、取り付けてください。
- リムが歪んでいたりホイールに損傷がある場合は交換してください。
- 専用のスペアタイヤを搭載してください。

オフロードを走行した後に

オフロードでの走行は、通常の走行に比べて車両により多くの負荷がかかります。

オフロード走行後は車を点検してください。車の損傷をすぐに発見することにより、事故の危険を避けることができます。

- ローレンジからハイレンジにしてください。
- ディファレンシャルロックを解除してください（▷142 ページ）。
- ヘッドライトやテールランプなどを洗浄し、損傷がないか点検してください。
- 前後のナンバープレートを洗浄してください。
- ホイールやホイールハウス、ボディ底部、タイヤをスプレーガンなどで洗浄し、各部の損傷や異物の有無などを確認してください。
- 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系部品、ブレーキホース、アクスルジョイントやドライブシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。
- 車の底部、ホイール、タイヤ、ブレーキ、ボディ、ステアリング、駆動系部品、排気系部品などに損傷がないか点検してください。
- 砂地、ぬかるみ、砂利道、水の中のような汚れた状況で長時間走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド、アクスルジョイントを点検し、掃除してください。
- オフロード走行後、走行中に強い振動を感じる場合は、ホイールや駆動部などに異物がかみ込んでいないか点検し、必要であれば取り除いてください。ホイールバランスが狂い、振動の原因になります。

砂地を走行するとき

やわらかい砂地での走行は、スタック（立ち往生）しやすいため、以下の注意に従ってください。

- ローレンジにしてください。
- エンジンを高回転までまわさないでください。
- 砂地の状況に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（▷112 ページ）。
- 走行抵抗が大きいため、やや速度を上げて走行してください。車が砂地に埋まるおそれがあります。
- 可能であれば、他の車が残した浅いわだちをなぞって走行してください。このときは、わだちの深さと固さ、車の底部との間隔に注意してください。

わだちを走行するとき

わだちやわらかい路面を走行するときは、以下の注意に従ってください。

! わだちが深くなく、車の底部との間に十分な間隔があることを確認してください。車を損傷したり、タイヤが地面から離れて走行不能になるおそれがあります。

- ローレンジにしてください。
- エンジンを高回転までまわさないでください。
- 「オフロード走行」(▷214 ページ)および「オフロード走行時の注意」(▷215 ページ)の指示に従ってください。
- ティップシフトでギアレンジ 1 を選択してください(▷112 ページ)。
- 低速で走行してください。
- わだちが深い場合は、可能であれば、左右どちらかの車輪をわだちの間に乗せて走行してください。

障害物を乗り越えるとき

! 障害物により、車の底部や車体、駆動部を損傷するおそれがあります。大きな障害物を乗り越えるときは、同乗者に車外から誘導してもらってください。車を損傷すると、事故を起こす危険性が増します。

木の切り株や大きな石、その他の障害物を乗り越えるときは、以下の注意に従ってください。

- 「オフロード走行」(▷214 ページ)および「オフロード走行時の注意」(▷215 ページ)の指示に従ってください。

▶ ローレンジにしてください。

- エンジンを高回転までまわさないでください。

▶ ティップシフトでギアレンジ 1 を選択してください(▷112 ページ)。

- 障害物を乗り越える前に、車の底部との間に十分な間隔があることを確認してください。
- ごく低速で走行してください。
- できるだけ障害物に対して直角になるようにして、まず前輪で障害物の中央を乗り越え、次に後輪で乗り越えてください。

! 急勾配の坂を上り下りするときに障害物を乗り越えるときは、十分注意してください。車両が傾いたり、横滑りや横転するおそれがあります。

坂道の走行

アプローチ / デパーチャアングル

① アプローチアングル（フロント）
② デパーチャアングル（リア）

車種	アプローチアングル	デパーチャアングル
G 550 long	約 37°	約 31°
G 55 AMG long	約 33°	約 28°

ℹ タイヤや積載荷物、オプション装備品などにより、角度の値は異なります。

- 「オフロード走行」（▷214 ページ）および「オフロード走行時の注意」（▷215 ページ）の指示に従ってください。
- 坂道はできるだけまっすぐに上り、まっすぐに下りてください。
- 急勾配の坂を上り下りするときは、走行前にローレンジにしてください。
- 必要に応じて、ディファレンシャルロックをオンにしてください（▷141 ページ）。
- 低速で走行してください。
- アクセルペダルはゆっくり踏み込み、常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 砂地やぬかるみなどの走行抵抗の大きい路面以外は、エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- 坂を下るときはエンジンブレーキを効かせてください。エンジン回転数が許容限度を超えないように注意してください。
- 坂の勾配に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（▷112 ページ）。
- 坂を下る前にティップシフトでギアレンジ 1 を選択してください（▷112 ページ）。
- 長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキを点検してください。

急勾配の坂道

路面状態が良く、ローレンジを選択したときは、急勾配の坂道を上ることが可能になります。

ℹ 急勾配の坂で前輪の荷重が不足したときは、前輪は空転しやすくなります。このような状況を検知すると 4ETS が作動し、自動的にブレーキ制御を行ないます。これにより後輪へのトルク配分が増えて登坂能力が増します。

坂を上り切ったとき

坂を上り切る直前にアクセルペダルをゆるめ、車の惰性を利用して上ってください。

これにより、車が跳ねたりせず、駆動力を失うことがありません。また、速度が上がりすぎないようにして下り坂に備えることもできます。

坂を下るとき

- 坂を下る前にティップシフトでギアレンジ 1 を選択してください(▷112 ページ)。

  エンジンブレーキにより速度を抑えることができます。十分な減速が得られないときは、ブレーキペダルを注意深く踏み込みます。このときは、車が横滑りしていないことを確認してください。
- 「坂道の走行」(▷219 ページ)の指示に従ってください。
- 低速で走行してください。
- 坂道はできるだけまっすぐに下りてください。前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認してください。車がスリップしたり、横転するおそれがあります。
- 長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキを点検してください。

ヘッドライトガード *

! 保安基準に適合しないため、ヘッドライトガードを取り付けたまま公道を走行しないでください。

ヘッドライトガードの取り付け

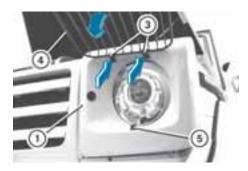
▶ プラスドライバーでヘッドライトケースの取り付けネジ②をゆるめ、ヘッドライトケース①を上方に引き抜きます。

! 取り付けネジは、ヘッドライトケースが引き抜ける程度までゆるめてください。ゆるめすぎるとネジが脱落したり紛失するおそれがあります。

i ヘッドライトケースはヘッドライトウォッシャーが取り付けられているため、取り外すことはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ プラスドライバーでヘッドライトケース ① 上側のネジ（図の矢印の部分）を外し、マウント ③ を取り外します。

! ネジを外すとヘッドライトケース裏側のワッシャーが外れます。紛失しないように注意してください。

▶ ヘッドライトガード ④ の図の位置にマウント ③ をはめ込み、ヘッドライトケース ① にネジ止めします。

▶ ヘッドライトガード ④ を下げ、ロック ⑤ にはめ込みます。

▶ ヘッドライトケース ① を上から差し込みます。

▶ 取り付けネジ ② を締め、ヘッドライトケース ① を固定します。

! 取り付けネジは強く締めすぎないでください。ヘッドライトケースを損傷するおそれがあります。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の実施時期が近付くと、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーターが自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーターは数秒後に表示前の画面に戻ります。

メンテナンスインジケーターを消したいときは、リセットボタンを押します。

手動表示

メンテナンスインジケーターは手動でも表示できます。

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報の基本画面を表示させます (▷121 ページ)。

▶ [△] または [▽] を押して、メンテナンスインジケーターを表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

点検整備実施時期前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX km"

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｼﾞｯｺｳ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｼﾞｯｺｳ "

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX ﾆﾁ ｷｹﾞﾝｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX ﾆﾁ ｷｹﾞﾝｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX km ｷｹﾞﾝｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX km ｷｹﾞﾝｺｴﾃｲﾏｽ "

点検整備実施時期を過ぎたときは、警告音も鳴ります。

ⓘ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A"、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" は、次回のメーカー指定点検整備の範囲を示すもので、どちらが表示されるかは日ごろの運転スタイルや走行距離などにより異なります。詳しくは整備手帳をご覧ください。

ⓘ メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

ⓘ バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備実施時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警 告

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

! 車の手入れをするときは、以下のものを使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、かたい布など
- 研磨剤を含むクリーナー
- 有機溶剤
- 有機溶剤を含むクリーナー

また､強くこすったり､スクレーパーなどのかたい物が塗装面や保護フィルムなどに触れないようにしてください。塗装面や保護フィルムなどを損傷したり、こすり傷が付くおそれがあります。

環 境

クリーナー類やカーケア用品は、環境に配慮して廃棄してください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 車を清掃した後、特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は､そのまま放置しないでください。ホイールクリーナーにより、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。そのため、洗車後は数分間走行してください。ブレーキ時の摩擦熱によりブレーキディスクやブレーキパッドが乾燥します。その後に車を駐車してください。

外装

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

自動洗車機の使用

> ⚠ **警告**
>
> 自動洗車機で洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキディスクやブレーキパッドが乾くまでは、十分注意して走行してください。

車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。

! 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。車内に水が浸入するおそれがあります。

! 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。また、洗車前にドアミラーを格納してください。車体やドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 自走式の自動洗車機を使用するときは、セレクターレバーが N に入っていることを確認してください。車を損傷するおそれがあります。

! 以下の点に注意してください

- ドアウインドウやスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- 余熱ヒーター / ベンチレーションを停止してください（▷161 ページ）。
- ワイパーを停止してください（▷97、99 ページ）。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。

車を損傷するおそれがあります。

自動洗車機で洗車した後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。フロントウインドウに残った残留物による汚れを防ぎ、ワイパーノイズを低減させます。

高圧式スプレーガンの使用

> ⚠ **警告**
>
> 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷して、事故の原因になります。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズル間には、常に最低でも 30cm の間隔を確保してください。

高圧式スプレーガンのノズルは円を描くように動かしてください。

高圧式スプレーガンのノズルを直接、以下の物に向けないでください。

- タイヤ
- ドアのすき間やヒンジ部分など
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール部
- トリム部品
- 吸気口

シール部や電気装備や塗装面が損傷することにより、車内への水の浸入や故障につながります。

ホイールの清掃

! ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキ構成部品を損傷するおそれがあります。

! 車を清掃した後、特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、そのまま放置しないでください。ホイールクリーナーにより、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。そのため、洗車後は数分間走行してください。ブレーキ時の摩擦熱によりブレーキディスクやブレーキパッドが乾燥します。その後に車を駐車してください。

塗装面の清掃

不適切な手入れによる傷や腐食、損傷は完全に修復することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

▶ 不純物は、強くこすることなく、ただちに取り除いてください。

▶ 虫の死がいはインセクトリムーバーで取り除き、周囲をよく洗い流してください。

▶ 鳥のふんは水で落とし、周囲をよく洗い流してください。

▶ 油脂類、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、ベンジンまたはライター用オイルを染み込ませた布で軽くふいてください。

▶ タールはタールリムーバーで取り除いてください。

▶ ワックスはシリコンリムーバーで取り除いてください。

! 塗装面に以下のものを貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネットなど

塗装面を損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

! 塗装面を磨かないでください。

! 以下のことは塗装面に光沢を持たせたり、マット塗装の質感を損なわせるおそれがあります。

- 不適切な素材で力強くこすること
- 頻繁に洗車を行なうこと
- 直射日光下で洗車を行なうこと

! 塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

i 洗車は、柔らかいスポンジとカーシャンプー、十分な水で、手洗いで行なうことをおすすめします。

ウインドウの清掃

⚠ **警 告**

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

▶ ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし、腐食の原因になったり、電気装備を損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ **警 告**

ワイパーブレードを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の手入れ

ヘッドライトを含むライト類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドライトウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

パークトロニックセンサーの手入れ

▶ パークトロニックセンサー ① を清掃するときは、流水または水とシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

クローム部分の手入れ

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、クローム部分の表面にサビが発生することがあります。

特に冬場や洗車後は、定期的にクローム部分の手入れを行なうことにより、クロームの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでステンレス製スペアタイヤカバーやマフラーの手入れを行なわないでください。

▶ クローム部分の手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

⚠ 警告

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ ディスプレイの手入れを行なう前に、必ず COMAND システムをオフにして、ディスプレイの表面が熱くなっていないことを確認してください。

▶ 市販の不織布とディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイの表面を拭き取ります。

▶ 乾いた不織布でディスプレイを拭きます。

! ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

⚠ 警告

エアバッグの収納部分には、スプレー式の車内クリーナーや有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。有機溶剤を含むクリーナーなどで清掃すると、収納部分の表面が劣化し、エアバッグが作動したときにプラスチック部品が損傷して車内に飛散し、重大なけがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シート表皮の清掃

! 天然皮革や人工皮革、アルカンタラ ® を使用した部分には、不織布を使用しないでください。頻繁に使用すると、これらの部分を損傷するおそれがあります。

! レザーは、軽く湿らせた布で表面を拭き、次に乾いた布で拭き取ります。革が湿気を帯びないように注意してください。

ℹ シート表皮を定期的に手入れすることにより、見栄えや快適性を維持することができます。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

車載品の収納場所…………………… 234
故障 / 警告メッセージ ………… 239
メーターパネルの
　表示灯 / 警告灯 ……………… 248
非常時の施錠 / 解錠 …………… 252
NECK PRO アクティブヘッドレスト
　のリセット……………………… 255
キーの電池交換…………………… 256
電球の交換………………………… 257
ワイパーブレードの交換………… 260
パンクしたとき…………………… 262
バッテリー………………………… 267
バッテリーがあがったとき……… 270
けん引……………………………… 273
ヒューズ…………………………… 277

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ 警 告

燃料などが漏れている場合は、ただちにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

i セレクターレバーを P から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（▷254 ページ）をご覧ください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに装備しています。

ℹ 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

停止表示板は、左側リアシートの下に収納されています。

停止表示板ケースを取り出す

▶ 左側リアシート下のストラップ③のバックル②を押し、ストラップをゆるめます。

▶ 停止表示板ケース①を取り出します。

停止表示板ケースを収納する

▶ 停止表示板ケース①にストラップをかけ、バックルを押しながらストラップを引いて締めます。

停止表示板を組み立てる

▶ 左右のスタンド⑥を引き出します。

▶ スタンド⑥を拡げて地面に立てます。

▶ 反射板⑤を引き出し、フック④をかみ合わせてロックします。

ℹ 高速道路や自動車専用道路で停車するときは、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

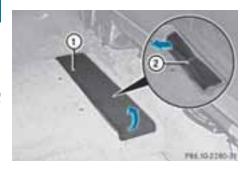
救急セット

救急セットは、助手席側フロントドアの小物入れに収納されています。

救急セットを取り出す

▶ 助手席側フロントドアの小物入れから救急セット ① を取り出します。

ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

車載工具

車載工具は、リアシート足元中央部のフロア下に収納されています。

車載工具を取り出す

▶ カバー ① を上方に取り外して、車載工具 ② を取り出します。

ジャッキ

ジャッキは、右側リアシートの下に収納されています。

ジャッキを取り出す

▶ 右側リアシートを前方に折りたたみます（▷170 ページ）。

▶ カバー①を開きます。

▶ バックル③を引いて、ストッパーをホルダー④から外します。

▶ ジャッキ②を取り出します。

ジャッキを収納する

▶ ホルダー④にストッパーをかけます。

▶ バックル③を押して、ストッパーをロックさせます。

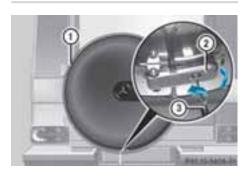
スペアタイヤ

! スペアタイヤが確実に固定されていることを定期的に点検してください。

! スペアタイヤの溝が摩耗限度に達したら、ただちに新品と交換してください。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年を経過したスペアタイヤは新品と交換してください。

! G 55 AMG long は、スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

スペアタイヤカバーの取り外し

▶ 外周カバー①のロック②の凹部にマイナスドライバーなど③を差し込み、反時計回りにまわしながらロックを外します。

▶ 外周カバー ① を矢印の方向に広げて外します。

▶ 後部カバー④を手前に引いて外します。

! スペアタイヤの外周カバーや後部カバーを外すときは、必ず手袋などを着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

スペアタイヤの取り外し

⚠ **警 告**

スペアタイヤは非常に重量があります。スペアタイヤを取り外すときは、スペアタイヤを落下させてけがをしないように注意してください。

▶ スペアタイヤを固定しているナット ⑥（3 本）をゆるめ、タイヤホルダー ⑤ からスペアタイヤを取り外します。

スペアタイヤの収納

▶ スペアタイヤをタイヤホルダー⑤にかけ、ナット（3 本）を締めて固定します。

▶ 後部カバーの凸部⑦をタイヤホルダー⑤の凹部に合わせ、後部カバーを取り付けます。

▶ 外周カバー①のロックが下側になるようにして、外周カバーを後部カバー④に被せるように取り付けます。

▶ フック⑧を反対側の外周カバーの取り付け穴に掛けます。

このとき、外周カバーにゆるみがないことを確認します。

▶ マイナスドライバーなどをロック②の凹部に差し込み、反時計回りに約 45 度まわしながら、ロックを反対側の外周カバーにかぶせます。

▶ ロックの凹部からマイナスドライバーなどを抜きます。

ロックが確実に固定されていることを確認します。

! スペアタイヤを取り付けたときは、3 本のナット⑥で確実にタイヤホルダーに固定され、ナットがゆるまないことを確認してください。また、必ず外周カバーおよび後部カバーを被せてください。

! 外周カバーを取り付けるときは、必ず外周カバーが確実に後部カバーに被さっていることを確認してください。後部カバーが脱落するおそれがあります。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ **警 告**

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずエンジンスイッチを **2** の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの ▭ または ▭ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障件数表示を表示させます。

故障や異常がある場合は、" ｺｼｮｳｶﾞ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障件数表示は表示されません。

▶ ▵ または ▿ を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数表示に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの [⧉] [⧉] や [△] [▽] スイッチ、または リセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

安全装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ESP コショウ マニュアル サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）が作動しない状態になっている。BAS（ブレーキアシスト）と 4ETS（エレクトロニック・トラクション・システム）の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ESP ショウ フカノウ マニュアル サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® が一時的に作動しない状態になっている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。 BAS と 4ETS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 約 20km/h 以上の速度で短い距離を注意して走行してください。 メッセージが消えれば、ESP® は待機状態になります。
ESP ショウ フカノウ マニュアル サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ESP® が作動しない状態になっている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 BAS と 4ETS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加で表示されるメッセージに従ってください。
ABS, ESP コショウ マニュアル サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）と ESP® が作動しない状態になっている。 BAS と 4ETS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ABS, ESP ショウ フカノウ マニュアル サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** ABS と ESP® が一時的に作動しない状態になっている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。 BAS と 4ETS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(P) パ゜ーキング゛ ブ゛レーキ カイジ゛ョ	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
(!) ブ゛レーキ オイルレベ゛ル テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ すみやかに安全に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
(!) ブ゛レーキ プ゛レッシャ ブ゛ンパ゜イ コウジ゛ョウデ゛ テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD の機能が停止している。BAS も作動しない状態になっている。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
( ) ブ゛レーキ パ゜ッド゛ マモウ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。
SRS SRS システム コショウ コウジ゛ョウデ゛ テンケン	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰﾋﾞｰﾑ 1)	左ヘッドライト（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ライトセンサーに異常がある。ヘッドライト(ロービーム)が点灯している。 ▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ライトを手動点灯モードに切り替えてください。 ▶ ライトスイッチでライトを点灯 / 消灯してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾗｲﾄ ｦ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ	エンジンスイッチにキーが差し込まれている。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。

1）他のライトが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ライトのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

エンジン

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	複数の電気システムがマルチファンクションディスプレイに情報を表示できない状態になっている。以下のシステムに異常がある可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターの表示 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が非常に不足している。 ▶ 補給時の注意事項を守りながら、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼ！	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 レイキャクスイ テイシャシテ エンジン テイシ！	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが損傷していないとき：** ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行などエンジンへ大きな負荷がかかる走行や、発進と停止を繰り返す走行は避けてください。
	以下の理由により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの異常 • V ベルトの摩耗 • 電気システムの故障 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	バッテリーの電圧が低すぎる。 ▶ エンジンを始動してください。 ▶ 必要のない電気装備を停止してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｷｭｳﾕﾉｻｲ ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで減っている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼ!	エンジンオイル量が非常に少なくなっている。エンジンを損傷する危険性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイルを補給してから、エンジンオイル量を点検してください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや触媒を損傷するおそれがある。 ▶ 規定の量になるまで、エンジンオイルを抜いてください。
	エンジンオイルに水が混じっている。 ▶ エンジンオイルを点検してください。
	エンジンオイル量が限界まで減っている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ﾌｶﾉｳ	エンジンオイル量計測システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ	燃料の残量が少なくなっている。燃料計の指針が下限を示している。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
ｴｱｸﾘｰﾅ ｺｳｶﾝ	エンジンエアフィルターの交換時期になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

走行装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
AAS ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 坂道でアクセルペダルから足を放した直後に、車が動き出すおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾄﾘﾐｯﾀ ｺｼｮｳ	可変スピードリミッターおよびクルーズコントロールが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを確実に閉じてください。
	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを確実に閉じてください。
ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｼﾞｭｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	オートマチックトランスミッションの作動が制限されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
LOW HIGH ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽﾉｼﾌﾄ ﾌﾟﾛｾｽ ﾁｭｳﾀﾞﾝ	クロスカントリーギアのシフト操作が中断された。 ▶ 再度、シフト操作を行なってください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
LOW HIGH トランスファ ケースノ シフト ジ ョウケン フジ ュウブ ン	クロスカントリーギアのシフト条件を 1 つ以上満たしていない。 ▶ 再度、シフト操作を行なってください。
LOW HIGH トランスファ ケース ニュートラル	クロスカントリーギアがニュートラル位置になっている。 ▶ クロスカントリーギアを HIGH または LOW にシフトしてください。
LOW HIGH トランスファ ケース コウジ ョウデ テンケン	クロスカントリーギアに異常がある。 ▶ クロスカントリーギアのシフト操作を行なわないでください。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

キー

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーヲ コウカン シテクダ サイ	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ けがのおそれがあります 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音が鳴る。	⚠ けがのおそれがあります 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音が鳴り止みます。

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音が鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ 事故のおそれがあります リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加で表示されるメッセージに従ってください。 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）の機能が解除されている。BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ･プログラム）、EBD（エレクトロニック･ブレーキパワー･ディストリビューション）の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加で表示されるメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障している場合は、パークトロニック、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなど他のシステムが使用できなくなっている可能性がある。
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS の機能が解除されている。 ESP®、BAS、4ETS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加で表示されるメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ リアデフォッガーまたはルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、ABS は待機状態になります。 警告灯が点灯し続けるとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、バッテリーとオルタネーターの点検を受けてください。
	ディファレンシャルロックをオンにしている。ABS の機能が解除されている。 ▶ ディファレンシャルロックをオフにしてください。 ABS が待機状態になります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車両が滑る危険性があるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールが作動している。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
OFF エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。車が滑り始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® が車両を安定させることができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で、ESP® の点検を受けてください。
OFF エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	ディファレンシャルロックをオンにしたため、ABS、ESP®、4ETS、そして BAS の機能が解除された。 ▶ ディファレンシャルロックをオフにしてください。 ABS、ESP®、4ETS、BAS が待機状態になります。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加で表示されるメッセージに従ってください。
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときにまったく作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	エンジンの電気システムが故障している。エンジンの出力が低下している。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないようにし、エンジン回転数が 2,500 回転を超えないように運転してください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

非常時の施錠 / 解錠

エマージェンシーキー

リモコン操作で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠できます。

車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押す。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込む

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

燃料給油フラップを解錠する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

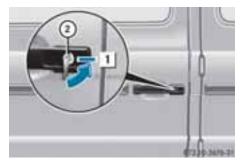
キーからエマージェンシーキーを取り外す

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから抜きます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのロックシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ② を解錠の位置 1（反時計回り）にまわします。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキー ② を元の位置にまわして、ロックシリンダーから抜きます。

車両の施錠

リモコン操作で車両を施錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ 助手席ドア、リアドア、テールゲートを閉じます。

▶ ドアロックスイッチ（施錠）を押します（▷65 ページ）。

▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブが下がっていることを確認します。

下がっていないときは、ロックノブを押し込みます。

▶ 外側から運転席ドアを閉じます。

▶ キーからエマージェンシーキー ② を取り外します。

▶ エマージェンシーキー ② を、運転席ドアのロックシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ② を施錠の位置 1（時計回り）にまわします。

運転席ドアのロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、ロックシリンダーから抜きます。

▶ すべてのドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

燃料給油フラップの手動解錠

⚠ 警 告

ボディの内側には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

燃料給油フラップのリリースストラップは、ラゲッジルーム右側のテールゲート開口部横の内側にあります。

▶ テールゲートを開きます。

▶ インナーモール ① を取り外します。

▶ カバー ② を外します。

▶ ストラップ ③ を矢印の方向に引き上げます。

燃料給油フラップが解錠されます。

▶ 燃料給油フラップを開きます。

スライディングルーフの手動操作

バッテリーあがりやスライディングルーフの故障などで、スイッチで閉じたりチルトダウンできないときは、手動で操作することができます。

スライディングルーフの手動操作部は、ラゲッジルーム左側のテールゲート開口部横の内側にあります。

▶ テールゲートを開きます。

▶ インナーモール ① を矢印 ② の方向に取り外します。

▶ カバー ③ を矢印 ④ の方向に外します。

▶ カバー内側のコネクターを取り外します。

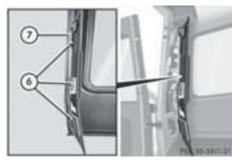
▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 上図の手動用駆動部（六角形のボルト）に車載工具のホイールレンチ ⑤ を差し込みます。

▶ ホイールレンチ ⑤ を時計回りにまわします。

※ 車種や仕様により、ホイールレンチ ⑤ の代わりに車載の専用工具を使用する場合があります。

! ホイールレンチは確実に奥に差し込んでください。差し込みが十分でないと、駆動部を損傷するおそれがあります。

! 手動駆動部を無理にまわさないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

▶ コネクターを取り付けます。

▶ カバー ③ を取り付けます。

▶ カバー ③ のフック ⑥ を車両側の差し込み口 ⑦ に合わせます。

▶ インナーモール ① を取り付けます。

▶ テールゲートを閉じます。

パーキングロックの解除

バッテリーがあがったときや電気装備に故障が発生したときは、セレクターレバーを P から動かすことができなくなることがあります。

このようなときは、手動でパーキングロックを解除してセレクターレバーを P から動かします。

パーキングロックを解除する

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーの左側後方にある差し込み口にドライバーなど①を差し込みます。

▶ ドライバーなどを押しながら、セレクターレバーを P から他の位置に動かします。

▶ ドライバーなど①を抜きます。

セレクターレバーを P に戻すまで、セレクターレバーを動かすことができます。

! この方法でセレクターレバーを動かせないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! セレクターレバーを動かすことができたときでも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部･頸部を保護できません。

NECK PRO アクティブヘッドレストの作動は、ヘッドレストが前方に動き、ヘッドレストの角度の調整ができなくなることで確認できます。

i このリセット作業は強い力が必要になるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ヘッドレストの上部を矢印 ① の方向に停止するまで前方に押します。

▶ ガイドに沿ってヘッドレストを矢印 ② の方向に停止するまで押し下げます。

▶ ヘッドレストを矢印 ③ の方向に押して、確実にロックさせます。

▶ もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

! 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ **警 告**

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

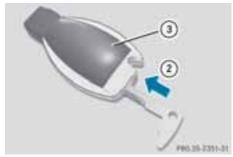
▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

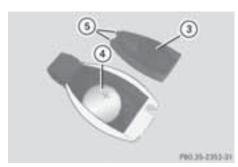
キーの表示灯 ① が 1 回点滅すれば電池は正常です。

ℹ 車両の近くでキーの電池の点検を行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから抜きます。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ℹ 指でカバー③を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー③を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手の上に乗せて、電池④が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（＋）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

▶ カバー③の凸部⑤をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー②をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

電球に関する注意

バイキセノンヘッドライト

バイキセノンヘッドライトはお客様ご自身で交換することはできません。電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

⚠ **警 告**

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れると感電して、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。バイキセノンヘッドライトのカバーは決して取り外さないでください。

バイキセノンヘッドライトの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ライト類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのライト類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてライトが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したライトが点灯しない場合や、すぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

その他のライト

⚠ **警告**

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。電球を損傷したり、子供がけがをするおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトには圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトを交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

! 電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、注意事項を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにライトに関する故障／警告メッセージが表示されたときは（▷243 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

電球を交換する前に

以下の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

- ドアミラー方向指示灯
- ハイマウントブレーキランプ
- ヘッドライト
- ライセンスライト

ⓘ ライセンスライトは、電球が切れた場合でもマルチファンクションディスプレイにメッセージは表示されません。定期的にライセンスライトの状態を確認してください。必要であれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

- 車幅灯 / フロントパーキングライト
- フロントフォグランプ / コーナリングライト
- フロント方向指示灯
- ブレーキランプ / テールランプ
- リア方向指示灯
- テールランプ / リアパーキングライト
- バックランプ
- リアフォグランプ

電球の位置と種類

フロント

	ライト	ワット数（規格）
①	ドアミラー方向指示灯	LED
②	フロント方向指示灯	21W（黄色）
③	ヘッドライト	35W（キセノン D1S）
	車幅灯 / フロントパーキングライト	5W（青色）
④	フロントフォグランプ / コーナリングライト	55W（H11）

リア

ライト		ワット数(規格)
⑤	ハイマウントブレーキランプ	LED
⑥	リア方向指示灯	21W(黄色)
	ブレーキランプ / テールランプ	21W / 5W
	テールランプ / リアパーキングライト	5W
⑦	リアフォグランプ	21W
⑧	ライセンスライト	LED
⑨	バックランプ	21W

ワイパーブレードの交換

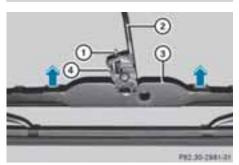
⚠ **警告**

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしているときは、ボンネットを開かないでください。ボンネットがワイパーアームに当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードを取り外しているときにワイパーアームを元の位置に倒すときは、フロントウインドウを損傷しないように注意してください。

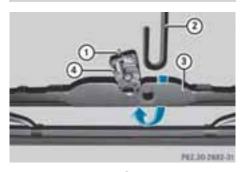
! 損傷を避けるため、ワイパーアームを起こすときは、ワイパーブレードのゴムに触れないでください。

ワイパーブレードの取り外し

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ワイパーアーム ② を起こします。

▶ ワイパーブレード ③ を図の位置にまわします。

▶ ヒンジ部 ④ のロックピン ① を押しながら、ワイパーブレード ③ を矢印の方向にスライドして、ワイパーアーム ② から取り外します。

ワイパーブレードの取り付け

▶ ワイパーアーム ② の先端を、新しいワイパーブレード ③ の矢印の位置に通します。

▶ ワイパーアーム ② の先端を、ワイパーブレード ③ のヒンジ部 ④ に差し込んでロックします。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーアーム ② を元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ 警告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 路上でタイヤ交換をするときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

ℹ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

タイヤ交換の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ 車速感応ドアロックを解除します（▷132 ページ）。

▶ セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、安全な場所に避難させます。

▶ 周囲の状況に注意しながら車から降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

パンクしたタイヤを交換する

⚠ **警告**

装着しているスペアタイヤが 6 年以上経過している場合や車両に適合しないタイプやサイズの場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品に交換してください。

スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なる場合は、スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。

80km/h を超えないように走行してください。

⚠ **警告**

G 55 AMG long は、スペアタイヤに交換した場合は必ず 80km/h 以下で走行し、規定のタイヤ空気圧に調整されていることを確認してください。

タイヤ交換の準備

▶ タイヤ交換に必要な準備を行ないます（▷262 ページ）。

▶ 車載工具とジャッキを取り出します（▷236 ページ）。

▶ スペアタイヤを取り外します（▷237 ページ）。

輪止めをする

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

ℹ 輪止めは車載されていません。適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

ジャッキアップする

⚠ **警告**

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- 車の下に入って作業するときは、必ずジャッキスタンドで車を上げてください。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- タイヤ交換を行なっているときは、エンジンを始動しないでください。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキアップしているときにエンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除するなどの危険な操作をすると、車が落下して身体が挟まれ、致命的なけがをするおそれがあります。

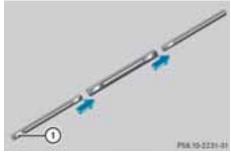
⚠ **警 告**

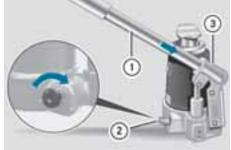
- ジャッキを正しく取り付けないと、以下のようなことが起こります。
  ◇ ジャッキが外れて車が落下する
  ◇ 乗員や周囲の人がけがをする
  ◇ 車両を損傷する
  そのため、ジャッキは正しい位置で使用してください。
- ジャッキを使用する前にジャッキが当たる部分を点検し、汚れが付着している場合は取り除いてください。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 傾斜の急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。

▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

① ジャッキレバー

▶ 3 分割のジャッキレバー ① を 1 本に組み立てます。

▶ 切り欠きがある側のジャッキレバー ① の先端をジャッキのリリースバルブ ② に差し込み、時計回りにまわして停止することを確認します。

ⓘ ジャッキレバーを時計回りにまわして停止したときは、それ以上無理にまわさないでください。ジャッキを損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキレバーをリリースバルブから外し、切り欠きがある側のジャッキレバーの先端を、ソケット③の奥まで差し込み、反時計回りにまわして固定します。

▶ ジャッキレバーを上下に動かして、ジャッキが上昇することを確認します。

▶ ジャッキを前輪または後輪の車軸チューブ④の下に置きます。

! 車軸チューブ以外の場所に使用しないでください。

! ジャッキアームが正しく車軸チューブの下に置かれていることを確認してください。

! ジャッキは側面から見て、垂直になるようにしてください。

! ジャッキの底面が、確実に路面に接地するようにしてください。

▶ ジャッキレバーを上下に動かし、タイヤが地面から約 3cm 離れるまでジャッキアップします。

タイヤの取り外し

▶ ホイールボルトを外します。

! ホイールやホイールボルトを外したときは、以下の点に注意してください。

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを取り外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

▶ タイヤを取り外します。

スペアタイヤを取り付ける

⚠ 警告

ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

⚠ 警告

ホイールハブのネジ穴が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるホイールボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にホイールが外れたり、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面を清掃します。

▶ スペアタイヤをホイールハブに挿入してホイールボルトを差し込み、ホイールの位置決めを行ないます。

▶ すべてのホイールボルトを差し込み、軽く締め付けます。

ジャッキダウンする

▶ ジャッキレバーをソケットから外し、切り欠きがある側の先端をリリースバルブに取り付けます。

▶ ジャッキレバーを反時計回りに約 1 回転ほどまわして車を下げます。

▶ ジャッキを外します。

! リリースバルブは、車を下げるときに、1 ～ 2 回転だけゆるめてください。ゆるめすぎると内部から液が漏れるおそれがあります。

▶ ホイールボルトを図の順序で数回に分けて締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 13kg-m（130Nm）です。

⚠ 警告

ホイールを交換した後は、ただちにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。規定値の締め付けトルクで締め付けないと、ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、ジャッキのリリースバルブを停止するまで時計回りにまわします。

▶ 外したタイヤをラゲッジルーム内に収納します。

▶ ジャッキと車載工具を元の位置に戻します。

▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 火花が出ないように注意してください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、必要であれば医師の診断を受けてください。

	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

⚠ 警 告

安全のため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。指定されたバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員がバッテリー液により火傷をする危険性を低減します。

⚠ 警 告

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーをのぞき込まないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

! バッテリーの点検や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検・交換を行なってください。

i 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

i バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- フロントヘッドレストのリセット

バッテリーの位置

バッテリーはリアシート足元中央部のフロアカバー下にあります。

リアシート足元中央部のフロアカバーを取り外す

▶ パーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを P に入れます。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ リアドアを開きます。

▶ ノブ ② をまわします。

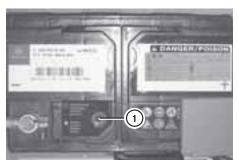
▶ リアシート足元中央部のフロアカバー①を取り外します。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液のレベル点検や補充はできません。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

ブースターケーブルは、エンジンルーム内にあるブースターケーブル専用の⊕端子と⊖端子に接続します。

⚠ 警告

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しているときは、ガスが発生し、爆発の原因になります。火気や裸火、火花を近付けたり、近くで喫煙しないでください。バッテリーを取り扱うときは、安全に注意し、保護対策を取ってください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! ブースターケーブルのケーブル部分や絶縁部分が損傷していないことを確認してください。

! ブースターケーブルをバッテリーに接続するときは、他の金属部分に触れないようにしてください。

! リアシート足元中央部のフロア下にあるバッテリーには直接ブースターケーブルを接続しないでください。電気装備を損傷するおそれがあります。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

▶ すべての車でバッテリーにブースターケーブルを接続できるとは限りません。バッテリーにブースターケーブルを接続できないときは、補助バッテリーやエンジン始動用装置の電源を使用して、エンジンを始動してください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。

▶ バッテリーが凍結しているときは、エンジン始動を行なわないでください。火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（約 50℃以下）、バッテリー液を解凍してから行なってください。

- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

▶ ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

▶ バッテリーが完全に放電しているときは、ケーブルを接続してすぐに始動操作を行なうのではなく、数分間経過してから行なってください。完全に放電したバッテリーに充電が行なわれます。

i 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

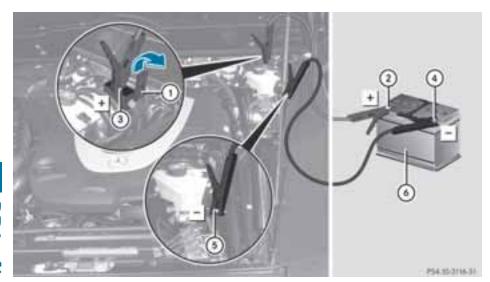
▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車の電気装置をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

▶ 救援車のバッテリー⑥を用意します。

▶ 自車のエンジンルーム運転席側にある⊕端子カバー①を開きます。

▶ 自車のバッテリーの⊕端子③に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリー⑥の⊕端子②に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリー⑥の⊖端子④に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの⊖端子⑤に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

! 電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにリアデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ライトは点灯させないでください。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 両車の⊖端子を接続しているケーブル、次に両車の⊕端子を接続しているケーブルを取り外します。

いずれのケーブルを取り外すときも、自車の端子から先に取り外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

けん引時の注意

⚠ 警告

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。
- ステアリングロックを解除できないときは、けん引を行なわないでください。

けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

! ぬかるみからの脱出などの目的に、けん引フックを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! 押しがけでエンジンを始動することはできません。トランスミッションを損傷します。

! エンジンが停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。

! エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷132 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されることがあります。

また、けん引防止警報も解除してください（▷57 ページ）。

けん引は、トランスファーがニュートラルのときに行なうことができます。

トランスファーをニュートラルにできないときは、前後いずれかのアクスルを持ち上げてけん引してください。

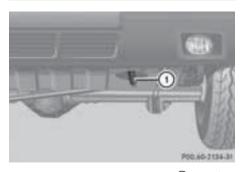
このときは、以下のようにしてください。

- 持ち上げたアクスルとトランスファーケースの間のプロペラシャフトを外してください。
- エンジンスイッチを **1** の位置にしてください。

以下の理由により、けん引される前にバッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。

- エンジンスイッチを **2** の位置にすることができません
- セレクターレバーを **N** に入れることができません

けん引フックの取り付け位置

フロント

フロントのけん引フック ① はバンパーの向かって右側下部にあります。

リア

リアのけん引フック ② はバンパーの向かって左側下部にあります。

前後輪を接地させてけん引する

前後輪を接地させてけん引するときは、（▷273 ページ）の注意事項を守ってください。

⚠ 警告

エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。注意して操作を行なってください。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

ⓘ 非常点滅灯を点滅させてけん引されているときでも、コンビネーションスイッチを操作して方向指示灯を点滅させることができます。このときは、方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ ブレーキペダルを踏んで保持します。

▶ トランスファーをニュートラルにします（▷139 ページ）。

▶ セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

ⓘ バッテリーがあがっているときやバッテリーの接続が断たれているときは、セレクターレバーを **N** に入れることができません。このようなときは、パーキングロックを手動で解除してください（▷254 ページ）。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ トランスファーをニュートラルにします（▷139 ページ）。

▶ けん引フックに固定ロープを取り付けます。

▶ 車両が動かないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ 車両を車両運搬車に積載します。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ 車両を固定します。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションやメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ぬかるみからけん引するとき

! 車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ぬかるみに埋まって動けなくなったときは、以下の点に注意してけん引してください。

- 駆動輪が柔らかい地面やぬかるみの中に埋まって動かなくなった車を引き出すときは、慎重に行なってください。積載物があるときは特に注意してください。
- トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

  この場合はトレーラーを外し、車両後部のトレーラーカップリングを引くようにして、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ引き出してください。

故障した車両のけん引

! プロペラシャフトの取り付けナットは再使用できません。プロペラシャフトを取り付けるときは、必ず新品の取り付けナットを使用してください。

▶ 「けん引時の注意」（▷273 ページ）の注意事項を守ってください。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン / トランスミッション / 電気系統が故障しているとき

▶ セレクターレバーを N に入れます。

▶ トランスファーをニュートラルにします（▷139 ページ）。

トランスファーケースを損傷しているとき

前後のアクスルからプロペラシャフトを取り外します。

フロントアクスルを持ち上げてけん引します。

フロントアクスルを損傷しているとき

リアアクスルとトランスファーケース間のプロペラシャフトを取り外します。

フロントアクスルを持ち上げてけん引します。

リアアクスルを損傷しているとき

フロントアクスルとトランスファーケース間のプロペラシャフトを取り外します。

リアアクスルを持ち上げ、フロントアクスルにホイールローラーを取り付けます。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

⚠ **警告**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 必ず車両に適合した、正しい電流値のヒューズだけを使用してください。構成部品やシステムを損傷するおそれがあります。

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

ヒューズを交換するときは、必ず同じ電流値（色）のヒューズと交換してください。ヒューズの電流値は「ヒューズ一覧」（▷279 ページ）に記載されています。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ヒューズを交換してもすぐに切れるときや、ヒューズには異常がなく電気装備が作動しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調べ、修理してください。

ヒューズを交換する

▶ 停車して、パーキングブレーキを効かせます。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、ヒューズが切れている（溶断）ときは、同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズボックスの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- ライトスイッチ横
- グローブボックス下部
- センターコンソール右側後部
- バッテリー収納部

! センターコンソール右側後部およびグローブボックス下部のヒューズボックスのヒューズの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ライトスイッチ横のヒューズボックス

ヒューズボックスカバーを取り外す

▶ 運転席ドアを開きます。

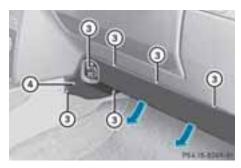
▶ ヒューズボックスカバー ① を矢印の方向に引いて取り外します。

! ヒューズボックスを開くときに、ドライバーなどを使用しないでください。カバーやダッシュボードを損傷するおそれがあります。

グローブボックス下部のヒューズボックス

ヒューズボックスカバーを取り外す

▶ ビス ① を外します。

▶ センターコンソールのカバー ② を矢印の方向に取り外します。

▶ ビス ③ を外します。

▶ ダッシュボード下部のカバー ④ を矢印の方向に取り外します。

交換作業を容易にするため、グローブボックス下部のヒューズボックス ⑤ を少しだけ下げることができます。

▶ ビス ⑥ を外します。

▶ ヒューズボックス ⑤ を下げます。

センターコンソール右側後部のヒューズボックス

! センターコンソール右側後部のヒューズボックスのヒューズの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ヒューズボックスカバーを取り外す

▶ 助手席シートをもっとも前方および上方の位置にします。

▶ ビス ② を外します。

▶ ヒューズボックスカバー ① を取り外します。

バッテリー収納部のヒューズボックス

リアシート足元中央部フロアカバー下のバッテリー収納部にヒューズボックスがあります。

バッテリー収納部のヒューズは交換の必要はありません。

ヒューズ交換が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! カバーは確実に取り付けてください。湿気や汚れにより、ヒューズの機能に悪影響を及ぼすおそれがあります。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス 1 (センターコンソール右側後部)

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	30A	NECK PRO アクティブヘッドレスト
2	30A	オプション
3	7.5A	COMAND システム
4	20A	燃料ポンプコントロールユニット（G 55 AMG long）
5	—	未使用
6	7.5A	燃料タンク内ポンプ（G 55 AMG long）
7	—	未使用
8	7.5A	盗難防止警報システム
9	25A	盗難防止警報システム、ルームランプ、バニティミラー照明、自動防眩ミラー、レインセンサー、スライディングルーフ
10	20A	リアデフォッガー
11	15A	COMAND システム
12	7.5A	電源供給ユニット（G 55 AMG long）
13	5A	電動ランバーサポート
14	15A	リアウインドウウォッシャー
15	7.5A または 10A	燃料給油フラップロック、タンクキャップリリース
16	5A	Bluetooth®
17	20A	オプション
18	20A	マルチファンクションディスプレイ
19	20A	オプション
20	7.5A または 10A	リアドアセントラルロッキング

ヒューズボックス 2 (ライトスイッチ横)

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
21	30A	ミラー調整、ドアミラーヒーター、フロントパワーウインドウ、ステアリング調整

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
22	30A	ミラー調整、ドアミラーヒーター、フロントパワーウインドウ
23	5A	ルームランプ、後席読書灯
24	―	未使用
25	30A	シートヒーター
26	7.5A	乗降用ライト、イルミネーテッドステップカバー
27	40A	運転席シート調整、ステアリング調整
28	15A	12V 電源ソケット
29	15A	オプション
30	40A	エアコンディショナー、ブロワーモーター
31	20A	スターター、ステアリングロック
32	30A	リアパワーウインドウ
33	30A	リアパワーウインドウ
34	15A	オプション
35	―	未使用
36	30A	燃料ポンプ（G 55 AMG long)、マルチファンクションディスプレイ
37	15A	ディファレンシャルロック
38	40A	助手席シート調整
39	40A	トランスファーケース
40	25A	ESP®
41	7.5A	エアコンディショナー、ブロワーモーター、ドアロックスイッチ、非常点滅灯、リアデフォッガー
42	7.5A	エアバッグ警告灯、メーターパネル、
A	7.5A または 10A	ブレーキランプ、ESP®、ジャイロセンサー、回転センサー
B	10A	循環ポンプ（G 55 AMG long)、エンジンオイル冷却装置（G 55 AMG long)
C	5A	ヘッドライト
D	5A	オプション
E	30A	COMAND システム、マルチファンクションディスプレイ
F	20A	リアシートヒーター
G	5A	メディアインターフェース
H	7.5A	オプション

ヒューズボックス 3 (グローブボックス下部)

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
43A	15A	ホーン
43B	―	未使用
44	―	未使用
45	7.5A	エアバッグコントロールユニット、エアバッグ警告灯
46	20A	ワイパー
47	15A	ライター、グローブボックスランプ
48	15A	イグニッションコイル
49	7.5A	エアバッグコントロールユニット、エアバッグ警告灯
50	5A	リアシートヒーター
51	7.5A	メーターパネル
52	15A	スターター
53	15A	エンジンエレクトロニクス
54	15A	エンジンエレクトロニクス
55	7.5A	トランスミッションエレクトロニクス
56	5A	ディファレンシャルロック
57	5A	スターター
58	40A	オプション
59	50A	ESP®
60	40A	オプション
61	15A	12V 電源ソケット
62	5A	診断ソケット、ヘッドライト
63	5A	ヘッドライト、ディファレンシャルロック
64	10A	オプション
65	40A	セカンダリーエアインジェクション

(A463 545 15 00 2009-12-10)

ℹ ヒューズ配置表は、ヒューズボックス 2 の中にあります。

ℹ 仕様・装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー …282
車両の電子制御部品について……282
ビークルプレート……………………283
オイル・液類 / バッテリー ……284
積載荷物の制限重量…………………288
タイヤとホイール……………………289

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

承認されていない部品、タイヤやホイール、または安全に関するアクセサリーを使用すると、車両の操作や排気ガスおよび騒音のレベルなどに影響を及ぼし、事故の原因になります。

⚠ 警告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

! 純正部品や承認されていない部品を使用すると、車両の操作性に悪影響を及ぼすおそれがあります。必ず純正部品を使用し、タイヤやホイール、アクセサリーはお客様の車両のために承認されたもののみを使用してください。

環 境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

車両の電子制御部品について

⚠ 警告

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両との適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。

車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

車の車台番号やカラーコードを記載したニューカープレート①は、運転席側のセンターピラー下部に貼付されています。

車台番号

車台番号①は、右側フロントホイールハウス内のフレームに打刻されています。

オプションコードプレート

オプションコードを示すプレート①は、助手席側のセンターピラー下部に貼付されています。

エンジン番号

エンジン番号は、エンジンのクランクケースに打刻してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずDaimler AGまたはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ 警 告

オイル・液類の取り扱いや保管、廃棄は適切に行なってください。所有者や他の人に危険をおよぼすおそれがあります。

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

警告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

警告

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 96 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 13 ℓ

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の適用外になります。

! 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の適用外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

警告

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の適用外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

エンジンオイル容量

車種	容量
G 550 long	約 9.0 ℓ
G 55 AMG long	約 8.5 ℓ

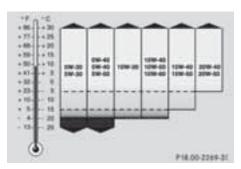
i 容量はオイルフィルター分を含む交換時の数値です。

添加剤

! エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ **警 告**

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは、必ず指定品を使用して補給してください。

⚠ **警 告**

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ウォッシャー液

⚠ 警 告

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	90Ah / 95Ah / 100Ah

※ 車種や仕様により、上記のいずれかの容量のバッテリーが装備されます。

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ
全車	200kg

i ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

! 再生したタイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷202 ページ）。

i 左右には必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

i 標準タイヤとウィンタータイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
G 550 long	265 / 60R18	軽合金 7.5J × 18	63mm
G 55 AMG long	275 / 55R19	軽合金 9.5J × 19	50mm

! G 55 AMG long は、標準タイヤにスノーチェーンを装着しないでください。

i G 550 long の標準タイヤおよびスペアタイヤには、ヨコハマ製の指定タイヤを使用することをお勧めします。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	推奨メーカー
16 インチホイール	265/70R16	軽合金 7.5J × 16	63mm	ブリヂストン
18 インチホイール	265/60R18	軽合金 7.5J × 18	63mm	ブリヂストン
	265/60R18	軽合金 7.5J × 18	43mm	ヨコハマ

スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイール	オフセット
G 550 long	265 / 60R18	軽合金 7.5J × 18	63mm
G 55 AMG long	265 / 60R18	軽合金 7.5J × 18	43mm

⚠ **警 告**

- G 55 AMG long は、スペアタイヤに交換したときは必ず 80km/h 以下で走行し、規定の空気圧に調整されていることを確認してください。短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- G 55 AMG long はスペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。

ⓘ G 550 long のスペアタイヤは、標準タイヤの代わりに使用できます。

! スペアタイヤは、必ず燃料給油フラップ裏側のタイヤ空気圧ラベルに記載された規定の空気圧に調整してください。

ⓘ G 55 AMG long のスペアタイヤには、ヨコハマ製の指定タイヤを使用することをお勧めします。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

対象モデル

G 550 long
G 55 AMG long

※この取扱説明書の内容は、2011 年 11 月現在のものです。